東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

（意匠図）						（構造図）		
枚数	図番	図面名称	枚数	図番	図面名称	枚数	図番	図面名称
０１	Ａ－００	図面リスト	２６	Ａ－２１	階段詳細図（１）【改修後】	５０	Ｓ－０１	構造特記仕様書
０２	特－０１	特記仕様書（１）	２７	Ａ－２２	階段詳細図（２）【既存・改修後】	５１	Ｓ－０２	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）
０３	特－０２	特記仕様書（２）	２８	Ａ－２３	展開図（１）【既存】	５２	Ｓ－０３	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）
０４	特－０３	特記仕様書（３）	２９	Ａ－２４	展開図（２）【既存】	５３	Ｓ－０４	補強伏図（１、２階）
０５	特－０４	特記仕様書（４）	３０	Ａ－２５	展開図（３）【既存】	５４	Ｓ－０５	補強軸組図
０６	Ａ－０１	案内図・配置図	３１	Ａ－２６	展開図（４）【既存】	５５	Ｓ－０６	補強詳細図-１（柱増し打ち補強）
０７	Ａ－０２	仕上表【既存・改修後】	３２	Ａ－２７	展開図（５）【既存】	５６	Ｓ－０７	補強詳細図-２（X5通り1階壁開口及び柱新設）
０８	Ａ－０３	１階・２階平面図【既存】	３３	Ａ－２８	展開図（１）【改修後】	５７	Ｓ－０８	補強詳細図-３（X5通り2階壁開口及び柱新設）
０９	Ａ－０４	３階・屋階屋平面図【既存】	３４	Ａ－２９	展開図（２）【改修後】			
１０	Ａ－０５	１階・２階平面図【改修後】	３５	Ａ－３０	展開図（３）【改修後】			
１１	Ａ－０６	３階・屋階平面図【改修後】	３６	Ａ－３１	展開図（４）【改修後】			
１２	Ａ－０７	立面図（１）【既存】	３７	Ａ－３２	展開図（５）【改修後】			
１３	Ａ－０８	立面図（２）・断面図【既存】	３８	Ａ－３３	建具キープラン【既存・改修後】			
１４	Ａ－０９	立面図（１）【改修後】	３９	Ａ－３４	建具表（１）【既存】			
１５	Ａ－１０	立面図（２）・断面図【改修後】	４０	Ａ－３５	建具表（２）【既存】			
１６	Ａ－１１	１階平面詳細図【既存】	４１	Ａ－３６	建具表（１）【改修後】			
１７	Ａ－１２	１階平面詳細図【改修後】	４２	Ａ－３７	建具表（２）【改修後】			
１８	Ａ－１３	２階平面詳細図【既存】	４３	Ａ－３８	天井伏図【既存】			
１９	Ａ－１４	２階平面詳細図【改修後】	４４	Ａ－３９	天井伏図【改修後】			
２０	Ａ－１５	３階平面詳細図【既存】	４５	Ａ－４０	雑詳細図（１）			
２１	Ａ－１６	３階平面詳細図【改修後】	４６	Ａ－４１	雑詳細図（２）			
２２	Ａ－１７	渡り廊下平面詳細図【既存・改修後】	４７	Ａ－４２	サイン詳細図			
２３	Ａ－１８	矩計図【既存】	４８	Ａ－４３	外構図【既存】			
２４	Ａ－１９	矩計図【改修後】	４９	Ａ－４４	外構図【改修後】			
２５	Ａ－２０	階段詳細図（１）【既存】						

株式会社 綜企画設計

承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容 図面リスト

縮尺 -/--

図面区分 建築意匠

図面番号 A-00

建築改修工事特記仕様書

工　事　概　要

工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事	
工事場所	東京都練馬区東大泉5-22-1　東京学芸大学大泉地区構内	
工事の種類・規模等	棟名称	附属大泉小学校特別教室南棟
	工種	内部改修、外部改修、耐震補強
	構造・階数	ＲＣ－３
	建築面積	３３９．００　㎡
	延床面積	１０１５．００　㎡
	改修建築面積	３３９．００　㎡
	改修延床面積	１０１５．００　㎡
完成期限	平成　26年　1月　31日（金曜日）	

一　般　特　記　事　項

総則

１．この工事の受注者は，

国立大学法人東京学芸大学発注工事請負等契約要項

別記第１号の工事請負基準，現場説明書，特記仕様書４枚，図面５２枚，

公共建築改修工事標準仕様書（統一基準）（建築工事編）（平成２５年版），

文部科学省建築改修工事標準仕様書（特記基準）（平成２５年版）及び

工事記録写真撮影要領に基づき工事を施工する。

２．特記仕様書の適用方法

（１）═══ で抹消した章及び項目の当該特記事項は，すべて適用しない。

・印で始まる事項及び表中の・印の事項は，○印の付した事項のみ適用する。

（２）表中の数字，文字又は記号を記入する事項は，記入してある事項のみ適用する。

（３）

（４）特記された材料，製造所，製品名，施工業者等の取扱いは，特記されたもの

又は、同等以上のものとする。

ただし，同等以上のものとする場合は，監督職員の承諾を受ける。

（５）左欄の〈　〉，《　》内の数値は，下記の各該当番号を示す。

〈　〉－公共建築改修工事標準仕様書（統一基準）（建築工事編）（平成２５年版）

《　》－文部科学省建築改修工事標準仕様書（特記基準）（平成２５年版）

建築基準法に基づき定められた区分等

建築基準法に基づき定められた区分等

地表面粗度区分　　・Ⅰ　⊙Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ

積　雪　区　分　　建告示第１４５５号　別表(24)

風　　速　　Ｖｏ　＝　34　ｍ／ｓ

１章　一　般　共　通　事　項

＜１．３．３＞
＜１．３．４＞
電気保安技術者
工事用電力設備
の保安責任者

この工事現場には、下記いずれかの電気保安技術者（Ａ）及び，
工事用電力設備の保安責任者（Ｂ）を選任する

	（A）	（B）
１　電気事業法及びその他関係法令による		○
２　第３種電気主任技術者以上の資格を有する者	○	
３　１級電気工事工事施工管理技士以上の資格を有する者	○	
４　高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において，電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第７条第１項各号の科目を修めて卒業した者	○	
５　旧電気工事技術者検定規定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	○	
６　公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	○	
７　第１種電気工事士の資格を有する者	○	
８　２級電気工事施工管理技士以上の資格を有する者	○	
９　第２種電気工事士（旧電気工事士）以上の資格を有する者	○	
１０　短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者	○	

＜１．３．５＞
施工条件

この工事現場では，次の施工条件による。

○　工事用地は現場説明書によるものとし、構内の事故防止等に十分注意する。
○　障害物の撤去又は移設をする時には、監督職員の指示による。

＜１．３．８＞
発生材の処理等

引渡しを要するもの

特別管理産業廃棄物

現場において再利用を図るもの

再資源化を図るもの

関係法令に従い適切に処分するもの
　アスベスト成形板（ビニル床タイル、フレキシブルボード）

＜１．３．１１＞
施工中の
環境保全等

本工事においては「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関わる規程」平成９年７月３１日　建設省告示第１５３６号　最終改正　平成１３年４月９日　国土交通省告示第４８７号　に基づき国土交通大臣が型式指定を行った低騒音型・低振動型建設機械を使用するものとする。

低騒音型
低振動型
建設機械の使用

ただしこれにより難い場合は，監督職員と協議の上，必要書類を提出するものとする。
低騒音型建設機械を使用する場合，現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い，監督職員に提出するものとする。

排出ガス対策型
建設機械

本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は，「排出ガス対策型建設機械指定要領」平成３年１０月８日　建設省経機発第２４９号　最終改正　平成１４年４月１日国総施第２２５号　に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。
排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は，平成７年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」，又はこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業，あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで，排出ガス対策型機械と同等と見なす。
ただし，これにより難い場合は，監督職員と協議するものとする。
排出ガス対策型建設機械，又は排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合，現場代理人は，施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い，監督職員に提出するものとする。

ディーゼル車
排出ガス規制
に適合した車両

種　類	備　考
バックホウ	ディーゼルエンジン
トラクタショベル（車輪式）	（出力７．５ｋＷ以上，２６０ｋＷ以下）
ブルドーザ	を搭載したものに限る。
発動電動機（可搬式，溶接兼用機を含む）	
空気圧縮機（可搬式）	
油圧ユニット（基礎工事用機械で独立したもの）	
ローラ類（ロードローラ，タイヤローラ，振動ローラ）	
ホイールクレーン	

① 受注者は本工事現場で使用し，又は使用される関係車両（以下本工事関係車両）が，当該工事場所のディーゼル車排出ガス規制条例（以下「排出ガス規制条例」）の適用を受ける場合は，これに適合した車両を使用しなければならない。
② 受注者は，本工事の施工に先立ち，本工事関係車両の「ディーゼル車排出ガス規制に適合する車両の使用」について，排出ガス規制条例の遵守を施工計画書に記載しければならない。
③ 受注者は，本工事関係車両にディーゼル車を使用する場合には，車検証のコピーを保管し，本工事関係車両を把握しなければならない。
④ 受注者は，取締りにより本工事関係車両に違法行為等があった場合には，直ちに監督職員に報告しなければならない。
⑤ 受注者は，資機材の搬出入等において，資材納入業者に排出ガス規制条例を遵守させるものとする。

＜１．４．２＞
~~材料の品質等~~

再利用を図るものは，次による。

＜１．４．４＞
~~材料の検査等~~

材　料　名	備　考

＜１．６．２＞
~~技能士~~

工　種	技能検定の職種
鉄筋工事	・鉄筋施工
コンクリート工事	・左　官　・型枠施工
鉄骨工事	・と　び
ブロック・ＡＬＣパネル工事	・ブロック建築　・ＡＬＣパネル施工
ＰＣカーテンウォール工事	・カーテンウォール施工
防水工事	・防水施工
石　工　事	・石材施工
タイル工事	・タイル張り
木　工　事	・建築大工
屋根・とい工事	・建築板金　・スレート施工
金属工事	・内装仕上げ施工（鋼製下地）
左官工事	・左　官
建具工事	・サッシ施工　・ガラス施工
塗装工事	・塗　装
内装工事	・内装仕上げ施工　・表装
植栽工事	・造　園

＜１．６．４＞
一工程の施工の
確認及び報告

施工の確認及び報告を行う工程	備　考
配筋検査	

＜１．６．５＞
施工の検査等

次について検査を行う。

・せき板の取外しが完了した段階

＜１．６．７＞
施工の立会い等

標準仕様書に定めがあるもの以外で，次に示す工事段階及び事項については，監督職員の立会いを受ける。

・基準位置及び基準地盤高さの設定時
・平板載荷試験、位置設定時
・く体コンクリートの試料採取時及び各種試験時
・鉄骨建入れ検査及び高力ボルト締付け検査時
・鉄筋の圧接試験片採取時，超音波探傷試験及び簡易引張試験時

＜１．６．９＞
化学物質の
濃度測定

ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の室内濃度の測定

工事の施工完了後、引渡をする前に、下記の測定室等の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、報告すること。

測定室等

棟名称	階	室名	採取本数
附属大泉小学校特別教室南棟	1	交流ルーム	1
	2	第2理科室	1
	3	オープンスペース	1

※上記の室について、それぞれ１検体につき２回採取を行い測定する。

測定物質、測定方法

物質	指針値	測　定　方　法
ホルムアルデヒド	100μg/m3 (0．08ppm)以下	⊙ ｼﾞﾆﾄﾛﾌｪﾆﾙﾋﾄﾞﾗｼﾞﾝ誘導体固相吸着／溶媒抽出法で採取し、高速液体クロマトグラフ法によって行う。 ・ その他（　　）
トルエン	260μg/m3 (0．07ppm)以下	⊙ 次のうち何れかの測定方法とする。 固相吸着/溶媒抽出法で採取し、ガスクロマトグラフー質量分析法によって行う。 固相吸着/加熱脱着法で採取し、ガスクロマトグラフー質量分析法によって行う。 容器採取法で採取し、ガスクロマトグラフー質量分析法によって行う。
キシレン	870μg/m3 (0．20ppm)以下	
エチルベンゼン	3800μg/m3 (0．88ppm)以下	
スチレン	220μg/m3 (0．05ppm)以下	
		・ その他（　　）

資料採取方法

資料採取は室内及び外気の各１ヶ所を２回ずつとし、対象室内を３０分換気した後に対象室内を５時間以上密閉し、その後概ね３０分間採取の濃度（μｇ／ｍ３）で表す。
採取の時刻は揮発性有機化合物濃度の日変動で最大となることが予想される午後２時～３時頃に設定するのが望ましい。
室外についても室内と　同様の条件で平行して採取する。
資料採取は、部屋の中央付近で、少なくとも壁から１．０ｍ以上離した高さ１．２ｍ～１．５ｍの位置を資料採取位置として設定する。
外気の資料採取は外壁及び空調排気口から２ｍ～５ｍ離した室内の測定高さと同等の高さの所を資料採取位置として設定する。

測定結果が上回った場合の措置

測定結果が厚生労働省の定める指針値を上回った場合は、監督職員と協議する。

＜１．８．３＞
保全に
関する資料

保全に関する資料　　提出部数　１部

~~官公署提出書類の写し~~

建築物の保守、管理に関する資料、説明書

主要材料、機器類の一覧表（製造所、連絡先）

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　特記仕様書（１）

縮尺　A1：－/－　A3：－/－

図面区分　建築意匠

図面番号　特-01

２章　仮設工事

＜２．２．４＞
足場その他

足場を設ける場合は、手すり据置き方式又は手すり先行専用足場方式とする。また、併せて、足場の外側及び内側（躯体側）の両方に手すり、中さん及び幅木の機能を有するものを設置することとし、幅木はメッシュシート、防音シート及び防網等の有無に関わらず設置すること。

＜２．３．２＞
仮設間仕切り

現場説明書による

仮設計画

本工事改修範囲における仮設計画は、第三者への安全確保を最優先として十分検討を行い監督職員と協議のうえ施工する。

３章　防水改修工事

＜３．１．４＞
改修工法の種類及び工程

防水改修工法の種類＿＿＿＿＿＿工法

シーリング改修工法の種類 シーリング再充填 工法

＜３．２．５＞
~~ルーフドレン回りの処理~~

二重ドレン　　・設ける

＜３．２．６＞
既存下地の補修及び処置

既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去　　・行う

＜３．３．３＞
~~種別及び工程~~

アスファルト防水層の種別

種　別	施　工　箇　所

＜３．４．３＞
~~種別及び工程~~

改質アスファルトシート防水層の種別

種　別	施　工　箇　所

＜３．５．３＞
~~種別及び工程~~

合成高分子系ルーフィングシート防水層の種別

種　別	施　工　箇　所

＜３．６．３＞
種別及び工程

塗膜防水の防水層の種別

種　別	施　工　箇　所
Ｓ－Ｍ２	屋根平場
Ｓ－Ｆ２	屋根立上り

施工

脱気装置

種　類	材　質	設　置　数　量
⊙平面部脱気型	・ポリエチレン樹脂 ・ＡＢＳ樹脂 ⊙ステンレス ・鋳鉄 ・	製造所の仕様による
・立上がり部脱気型	・合成ゴム ・塩化ビニル樹脂 ・ステンレス ・銅 ・	個／　　㎡

＜３．８．２＞
材料

といの材種
・配管用鋼管　⊙硬質塩化ビニル管　・アルミ管

ルーフドレン

種　別	防水下地、寸法等
・陸屋根用（・縦型　・横型）	
・パルコニー用	
・パルコニー中継用	

耐酸被覆鋼板、ガリバリウム鋼板の製造所
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

鋼管製といの防露
施工箇所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

４章　外壁改修工事

＜４．２．２＞
工法別使用材料

ひび割れ部充てん材

種　別	種　類	寸　法	施工箇所
・シーリング材			
⊙可とう性エポキシ樹脂	－	10*10	外壁面

可とう性エポキシ樹脂　　製造所，製品名

欠損部充てん材及び、注入併用工法の注入材料

種　別	製造所，製品名	施工箇所
⊙エポキシ樹脂モルタル		外壁面
・ポリマーセメントモルタル		

種　別	製造所，製品名	施工箇所
⊙エポキシ樹脂		外壁面
・ポリマーセメントスラリ		

~~タイルの形状，寸法，きじの質及び工法等~~

施工箇所 寸法（㎜）	形状	きじ	うわぐすり	役物	色	工法	製造所 製品名

試験張り　　・行う　　・行わない

見本焼き　　・行う　　・行わない

塗膜はく離材　　製造所，製品名

仕上塗材

種　類	呼び名	仕上げ形状	工法	備　考
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ ・可とう形外装薄塗材 ・外装薄塗材Ｅ　Ｓｉ ・可とう形外装薄塗材Ｅ ・防水形外装薄塗材Ｅ ・外装薄塗材Ｓ	・砂壁状 ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸模様	・吹付け ・ローラー ・こて塗り	
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材Ｃ ・外装厚塗材Ｓｉ ・外装厚塗材Ｅ	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸模様 ・ひき越し	・吹付け ・ローラー ・こて塗り	上塗材 ・適用する
⊙複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ ・複層塗材Ｓｉ ・複層塗材Ｅ ・複層塗材ＲＥ ・可とう形複層塗材ＣＥ ・複層塗材ＲＳ ・防水形複層塗材ＣＥ ⊙防水形複層塗材Ｅ ・防水形複層塗材ＲＳ ・防水形複層塗材ＲＳ	・ゆず肌状 ・凸部処理 ⊙凹凸模様	⊙吹付け ・ローラー	耐候性 ・耐候形３種 上塗材種類 ・水形アクリル 増塗材 ・適用する
・可とう形改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材Ｅ ・可とう形改修塗材ＲＥ ・可とう形改修塗材ＣＥ	・ゆず肌状 ・さざ波状 ・平たん状	・吹付け ・ローラー	

＜４．３．４＞
~~樹脂注入工法~~

ひび割れ部の注入状況の検査方法

・コア抜取り　（抜取り個数　　個　　コア抜取り部補修方法　　）

＜４．４．４＞
浮き部改修一般事項

アンカーピンニングの工法種別

・単独工法　⊙注入併用工法　・単独工法（注入口付）　・注入併用工法（注入口付）

５章　建具改修工事

＜５．１．３＞
改修工法

種別　⊙かぶせ工法　・撤去工法（・はつりによる撤去　・油圧工具等による撤去）

＜５．２．２＞
性能及び構造

外部に面するアルミニウム製建具の性能等級

性能等級	⊙Ａ種	・Ｂ種	・Ｃ種
耐風圧性	⊙Ｓ－４	・Ｓ－５	・Ｓ－６
気密性	◔Ａ－３		・Ａ－４
水密性	◔Ｗ－４		・Ｗ－５
枠の見込み寸法（mm）	⊙７０　・１００		・１００

＜５．２．４＞
形状及び仕上げ

表面処理

建　具	種　　別
外部に面する建具	◔Ｂ－１種
	・Ｂ－２種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）
屋内の建具	・Ｃ－１種
	・Ｃ－２種（・ブラウン系　・ブラック　・ステンカラー）

＜５．２．３＞
材料

防虫網

・合成樹脂製　⊙ガラス繊維入り合成樹脂製　・ステンレス（ＳＵＳ３１６）製

線径（㎜）　　・０．２５以上

網目（メッシュ）　⊙２０

※＜参考メーカー＞
学校間仕切り：小松ウォール多摩㈱ マイティ-Lux-S80 同等品
トイレブース：小松ウォール多摩㈱ ＴＢ－ＧＰ 同等品

＜５．３．２＞
性能及び構造

外部に面する鋼製建具の耐風圧性
・Ｓ-４

＜５．５．４＞
~~形状及び仕上げ~~

表面仕上げ

・ＨＬ仕上げ

＜５．５．５＞
工法

曲げ加工

⊙普通曲げ　　・角出し曲げ（補強あり）

＜５．６．２＞
材質形状寸法

建具用金物　　マスターキー合わせ

金物種類	バックセット（mm）	製作所
・モノロック		
・本締り付モノロック		
◔シリンダー箱錠		（株）美和ロック
◔シリンダ本締り錠		（株）美和ロック
・空錠		
◔押棒，押板		（株）ユニオン

＜５．１２．２＞
材料

強化ガラス

種類	材料板ガラス
フロート強化ガラス	⊙フロートガラス　・熱線吸収フロートガラス ⊙磨き板ガラス　・熱線吸収磨き板ガラス
板強化ガラス	

＜５．１２．３＞
ガラス溝の寸法
形状等

ガラス溝の寸法，形状等

種類	ガラス厚（㎜）	面ｸﾘｱﾗﾝｽ	ｴｯｼﾞｸﾘｱﾗﾝｽ	掛り代
◔強化ガラス ・倍強度ガラス	4.0			

６章　内装改修工事

＜６．２．２＞
~~工法~~

合成樹脂塗床材の除去
・　機械的除去工法　　・　目荒し工法

＜６．５．２＞
材料

代用樹種の使用　　・　禁止する

~~構造用集成材~~

品名	集成材	単板積層材
強度等級等		
材面の品質	２種	
樹種名		
接着性能		

造作用集成材

品名			
施工箇所	額縁		
樹種名	なら		
寸法	図示		
見付け材面の品質	１等		
防虫処理			

~~繊維板~~

種類	規格，区分等	厚さ（mm）
・ＭＤＦ		・３・７・９・１２・１５ ・１８・２１・２４・３０

~~パーティクルボード~~

種類	規格，区分等	厚さ（mm）
・単板張り	・無研磨板	・１０・１２・１５・１８ ・２０・３０・３５・４０
・化粧	・単板オーバーレイ ・プラスッチックオーバーレイ ・塗装	・（難燃）

防腐処理　・行う　適用範囲　床木下地:際根太
防ぎ処理　・行う　適用範囲　防蟻処理は，非有機リン系とする。

防腐・防蟻処理の方法
工場における加圧式とし，十分に乾燥を行う。
ただし，現場における加工が生じた場合には，加工した箇所に対し，現場にて防腐・防蟻を塗布することとする。

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容	特記仕様書（２）	縮尺 A1：-/— A3：-/—	図面区分 建築意匠 / 図面番号 特-02

＜６．８．２＞
材料

種類	性能	厚さ（㎜）	柄	施工箇所
・発泡層のあるもの ○発泡層のないもの	・抗菌 ・防滑性	・6.5 ○2.5 ・2.5	・木目 ○無地 ・無地	教材室・第2理科室・男子、女子便所・廊下

＜６．９．２＞
材料

~~織じゅうたん~~

種別	パイル形状	帯電性	製造所，製品名
・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	・カットパイル ・ループパイル ・カットループ併用	・人体帯電圧 ３ＫＶ以下	

~~タフテッドカーペット~~

パイル形状	パイル厚さ	帯電性	工法	製造所，製品名
・カットパイル ・ループパイル		・人体帯電圧 ３ＫＶ以下		

抗菌加工の有無　・　有　・　無

~~ニードルパンチカーペット~~

厚さ（㎜）	帯電性	製造所，製品名
	・人体帯電圧３ＫＶ以下	

抗菌加工の有無　・　有　・　無

タイルカーペット

種別	パイル形状	総厚さ（㎜）	電気抵抗（Ω）	製造所，製品名
○１種 ・　種	・カットパイル ○ループパイル	○６．５	○適用しない	

※タイルカーペットは帯電防止とする

＜６．１０．２＞
~~材料~~

弾性ウレタン塗床

・平滑仕上げ　・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ

エポキシ樹脂塗床

・薄膜流し展べ仕上げ　・厚膜流し展べ仕上げ　・樹脂モルタル仕上げ　・防滑仕上げ

＜６．１１．２＞
材料

フローリング

単　層	樹種	厚さ（㎜）	大きさ	工　法
・フローリングボード ・フローリングブロック	・なら ・かば	・１５ ・１８	・３０３角	・モルタル埋込 ・釘留め ・接着

複　合	樹種	種別	防湿処理	工　法
○複合１種フローリング ・複合１種フローリング ・複合１種フローリング	○なら	○Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	・行う	・モルタル埋込 ・釘留め ○接着

※ クリア塗装品とする

＜６．１３．２＞
材料

せっこうボード，その他ボード及び合板張り

種　別	規格，区分等	厚さ（㎜）
○せっこうボード（ＧＢ－Ｒ）		○９．５（準不燃） ○１２．５（不燃） ・１５．０（不燃）
○シージングせっこうボード（ＧＢ－Ｓ）		○１２．５（準不燃） ・１２．５（不燃）
・せっこうラスボード（ＧＢ－Ｌ）		・９．５（準不燃）
○強化せっこうボード（ＧＢ－Ｆ）		○１２．５（不燃）
・不燃積層せっこうボード（ＧＢ－ＮＣ）	・模様なし ・トラバーチン	・９．５（準不燃）
○化粧せっこうボード（ＧＢ－Ｄ）	○トラバーチン ・木目模様	○９．５（準不燃）
○硬質せっこうボード（ＧＢ－Ｒ-Ｈ）		○９．５（不燃）
・ロックウール吸音ボード（ＲＷ－Ｂ）	１号	・２５
・グラスウール吸音ボード（ＧＷ－Ｂ）	２号　３２Ｋ	・５０ （ガラスクロス包）
○ロックウール化粧吸音板（ＤＲ）	○普通 ・立体模様	・９．０（不燃） ○１２．０（不燃）
・けい酸カルシウム板（０．８ＦＫ）		・６．０
・天然木化粧合板	・なら　・しおじ	単板　・０．３未満 板　・４．２
・特殊加工化粧合板	・メラミン ・ポリエステル	・４．０
○難燃合板		○５．５
・木毛セメント板	・硬質木毛セメント板 ・普通木毛セメント板	・１５　・２０ ・２５　・３０
・木片セメント板	・硬質木片セメント板 ・普通木片セメント板	・１２・１５・１８ ・２１・３０
・硬質繊維素地スタンダードボード	・未研磨板 ・研磨板	・２．５　・３．５ ・５　・７
・硬質繊維素地テーパードボード	・未研磨板 ・研磨板	
・内装用化粧ハードボード ・外装用化粧ハードボード		
・Ａ級インシュレイションボード	・素板 ・天井仕上げ材 ・内装仕上げ材 ・押入収納内装材	・９　・１２ ・１５　・１８
・ＭＤＦ	・木目	・６．０
・単板張りパーティクルボード	・無研磨板 ・研磨板	・１０　・１２ ・１５　・１８
・化粧パーティクルボード	・単板オーバーレイ ・プラスッチックオーバーレイ ・塗装	・２０　・３０ ・３５　・４０ ・（難燃）

＜６．１４．２＞
~~材料~~

壁紙張り

施工箇所	防火性能の級別	製造所，製品名
・図示	・１級　・２級	

壁紙及び接着剤は，ホルムアルデヒド放散量の少ないものとする。

タイルの形状，寸法，きじの質及び工法等

施工箇所 寸法（㎜）	形状	きじ	うわぐすり	役物	色	工法	製造所 製品名

試験張り　・行う　・行わない

見本焼き　・行う　・行わない

７章　塗装改修工事

＜７．１．３＞
材料

塗料は，ホルマリン不検出のものとし，有機溶剤の含有の少ないものとする。

防火材料の指定

○屋内の壁，天井仕上げは防火材料とする。

・次の箇所は防火材料とする。

《１．３．３》
~~材料及び工法~~

ライニング用材料

製造所・製品名・工法

《１．４．３》
~~材料及び工法~~

塗り替え用塗料

製造所・製品名・塗工程種別

８章　耐震改修工事

コンクリートの品質

摘　要 ＼ 種　類	普通コンクリート		
適　用　箇　所	柱	土間スラブ	
設計基準強度（Ｎ／㎟）	27	21	
スランプ（㎝）	18	18	
気乾単位容積重量（kg／m3）			

＜８．１．５＞
~~鉄骨製作工場~~

工場性能評価グレード＿＿＿＿以上の工場

＜８．２．１＞
鉄筋

種類の記号	径（㎜）	適用箇所
○ＳＤ２９５Ａ	Ｄ１０～Ｄ１６	下記以外
○ＳＤ３４５	Ｄ１９～	柱の主筋
・		
・		
・		

＜８．２．２＞
~~溶接金網~~

網目の形状、寸法	鉄線の径

＜８．２．６＞
型枠の材料

合板（JAS規格による）１２㎜

使　用　箇　所	備　考
柱	

製造所

＜８．２．７＞
~~鋼材~~

種　別	材　質	備　考
・棒鋼		
・平鋼		
・形鋼（Ｈ型鋼）		
・形鋼（その他）		
・鋼板（中・厚）		
・鋼板（薄）		
・軽量形鋼		
・角形鋼管		

＜８．３．４＞
継手及び定着

部　位	継手方法	径（㎜）
柱、梁の主筋	○ガス圧接　・機械式継手	D19以上
その他	○重ね継手	D16以下

柱及び梁の主筋の重ね継手の長さ　・40ｄ　・45ｄ
耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ　・
柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さ　・40ｄ　・45ｄ　・
柱に取り付ける梁の引張り鉄筋以外の定着長さ　・

＜８．３．９＞
ガス圧接

圧接完了後の試験
・超音波探傷試験　○引張試験

＜８．１６．２＞
~~耐火被覆材の種別及び性能~~

所要性能

所要性能	構造区分	適　用　箇　所

＜８．１９．３＞
既存部分の処理

目荒し

部　位	平均深さ（㎜）	打継ぎ面に対する目荒し面積の割合（％）
柱、梁、壁	２～５㎜	１５～３０％

＜８．１９．８＞
コンクリートの打ち込み

○　流し込み工法
・　圧入工法

＜８．２１．５＞
~~溶接金網巻き工法及び溶接フープ巻き工法~~

打込の工法の種類
・　流し込み工法
・　圧入工法

９章　環境配慮改修工事

＜９．１．１＞
一般事項

アスベスト含有建材の処理の工事

工　法　種　別	適　用　箇　所
○除去処理	床：ビニルタイル　便所天井：石綿ｽﾚｰﾄﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ板 椅子収納棚天井裏：岩綿吸音板
・封じ込め処理	
・囲い込み処理	

施工調査

目視又は設計図書による施工調査は、次の事項について行い、調査結果をとりまとめ図面等により記録し、監督職員に提出する。

１．吹付けアスベスト使用部位の確認
２．吹付けアスベストの厚さ等の確認
３．吹付けアスベスト使用数量の確認
４．施工範囲等の確認

~~分析によるアスベスト含有の調査~~　・行う

調査対象室＿＿＿＿＿＿＿＿

調査対象建材＿＿＿＿＿＿＿＿

分析によるアスベスト含有の調査は、「改訂　既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針・同解説２００６（日本建築センター　Ｈ１８．１０）」（以下「センター指針」という。）の「３．３．３資料採取による現地調査」に基づき行う。ただし、アスベスト含有の分析方法は、ＪＩＳ　Ａ　１４８４「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。それ以外の分析方法とする場合は、監督職員と協議する。

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特　記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容	特記仕様書（３）	縮尺 A1：-/-- A3：-/--	図面区分　建築意匠 図面番号　特-03

~~アスベスト粉じん濃度測定~~

処理作業室、処理作業室以外の室内又は室外、負圧・除じん装置の排出吹き出し口、敷地境界において、アスベスト粉じん濃度の測定を行う。

1．アスベスト粉じん濃度の測定場所、測定点及び測定時期は下表による。

測定時期	測定名称	測　定　場　所	測　定　点 （各施工箇所毎）
処理作業前	測定１	処理作業室内	各２点又は３点
	測定２	処理作業室以外の 室内又は室外	大気 計２点
処理作業中	測定３	処理作業室内	各２点又は３点
	測定４	負圧・除じん装置の 排出吹き出し口	出口吹出し風速 １m/sec以下の位置 各２点
	測定５	処理作業室 敷地境界	４方向各１点 （敷地境界）
処理作業後 （シート養生中）	測定６	処理作業室内	各２点
処理作業後 シート撤去後 １週間以内	測定７	処理作業室内	各２点又は３点
	測定８	処理作業室以外の 室内又は室外	大気 計２点

※各施工箇所毎の室面積が５０㎡以下までは２点、３００㎡以下までは３点とする。
３００㎡を超えるものは、監督職員と協議する。

2．アスベスト粉じん濃度の測定に当たっては、アスベスト粉じん濃度測定計画書を作成し監督職員に提出する。

3．下記の内容に基づくアスベスト粉じん濃度測定結果報告書を作成し、監督職員に提出する。

1）工事名称
2）測定結果
3）測定時間
4）測定位置（測定高さと共に図示する。）
5）測定時の作業内容
6）サンプリング条件（ホルダー直径、吸引時間、吸引空気量）
7）マウンティング方法
8）顕微鏡視野面積、計数視野数
9）計数アスベスト繊維について
10）測定時（各測定場所毎）の温度、湿度、風圧
11）その他必要な事項

アスベスト含有建材飛散防止処理施工計画書

施工調査の結果に基づき、アスベスト粉じん飛散防止対策を盛り込んだアスベスト含有建材飛散防止処理施工計画書を「センター指針」の「5.3.2施工計画書の作成」に基づき作成する。

~~施工におけるアスベスト粉じん飛散防止措置等~~

施工におけるアスベスト粉じん飛散防止措置等は、関係法令によるほか、＜９．１．３＞、＜９．１．４＞及び＜９．１．５＞に示すもののうち、特に次の事項については「センター指針」の「５．２．４飛散防止措置等」に基づき実施する。

1）粉じん飛散抑制剤の使用
2）粉じん飛散防止処理剤の使用
3）負圧・除じん装置の設置
4）隔離シートの撤去

処理工事

1．処理工事は＜９．１．３＞及び＜９．１．４＞によるほか、「センター指針」の「吹付けアスベスト処理工事マニュアル」の「Ⅰ　除去処理工事」に定める「５．除去処理工事作業手順」に基づいて行う。

2．封じ込め処理工事は、「センター指針」の「吹付けアスベスト処理工事マニュアル」の「Ⅱ　封じ込め処理工事」の「５．封じ込め処理作業手順」に基づいて行う。

3．囲い込み処理工事は、「センター指針」の「吹付けアスベスト処理工事マニュアル」の「Ⅲ　囲い込み処理工事」の「５．囲い込み処理作業手順」に基づいて行う。
なお、軽量鉄骨天井下地、つりボルト用掘込みアンカーの取付けは＜６．６．１＞～＜６．６．４＞によることとし、アスベスト粉じん飛散防止措置を講じたうえで行う。

4．アスベスト含有成形板の撤去工事は、＜９．１．５＞によるほか、「非飛散性アスベスト廃棄物の適正処理について」（平成１７年３月３０日付環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課適正処理・不法投棄対策室長　環廃産発第０５０３３００１０）別添の「非飛散性アスベスト廃棄物の取扱いに関する技術指針」（以下「技術指針」という。）の「第３章　撤去」及び次の事項に基づき実施する。

5．上記によるほか、処理作業に伴い発生する飛散性アスベストを含む廃棄物（以下、「アスベスト廃棄物」という。）を作業当日に適切に処理可能となるよう作業手順を定める。
なお、一日の作業終了時には床等を高性能真空掃除機等により清掃する。

~~材　料~~

粉じん飛散防止処理剤、粉じん飛散抑制剤は散布特性、浸透・湿潤性、耐久性、防耐火性、防音性などを考慮して適切なものを選定し、関係資料を監督職員に提出する。

＜９．１．２＞
除去工事共通事項

＜９．１．３＞
~~アスベスト含有吹付け材の除去~~

＜９．１．４＞
~~アスベスト含有保温材等の除去~~

＜９．１．５＞
アスベスト含有成形板の除去

＜９．３．２＞
~~材料~~

＜９．５．２＞
~~断熱材打込み工法~~

＜９．５．３＞
断熱材現場発泡工法

アスベスト廃棄物の処理

1．「アスベスト廃棄物」の処理に当たっては、関係法令、地方公共団体・特定行政庁の指導等によるほか、「建設廃棄物処理マニュアル（（財）日本産業廃棄物処理センター　Ｈ１３．７）」に基づいて実施する。

2．アスベスト廃棄物をやむを得ず一時的に構内に保管する場合の保管場所等については、監督職員と協議する。

3．アスベスト廃棄物の構外搬出作業に当たって、作業実施予定日時等を事前に監督職員と協議する。

アスベスト含有建材飛散防止処理施工記録

1．施工記録報告書を作成し、監督職員に提出する。

2．施工記録報告書は下記の事項により作成する。

1）施工計画書
2）工事記録及び工事写真
3）産業廃棄物処理記録
4）施工調査等記録
5）作業者の作業記録
6）建物の使用に当たっての注意事項
7）異常があった場合の連絡先等
8）処理工事期間
9）処理工事業者名
10）処理工事の場所・部位
11）飛散防止処理剤の種類と使用量等
12）囲い込み材料の使用量等
13）その他必要な事項

工事管理者

1．処理工事に係る総合的技術管理を工事管理者を選任する。
なお、工事管理者は、アスベスト含有建材飛散防止処理施工等にかかわる指導、及び管理を行う能力を有し、建設業法で規定する主任技術者又は監理技術者の資格を有する者とする。

2．工事管理者と現場代理人及び石綿作業主任者はこれを兼ねることができる。

アスベスト含有建材吹付け材の処理を行う範囲は図示による。

室名	処理を行うアスベスト含有吹付け材の仕様

アスベスト含有建材吹付け材の処理

・密封処理（二重袋梱包）
・セメント固化

アスベスト含有保温材等の処理を行う範囲は図示による。

室名	処理を行うアスベスト含有保温材等の仕様

アスベスト含有成形板の処理を行う範囲は図示による。

室名	処理を行うアスベスト含有成形板の仕様
各室・廊下	ビニル床タイル
トイレ・天井	石綿スレートフレキシブル板
３階　椅子収納棚天井裏	岩綿吸音板

アスベスト含有成形板の集積・運搬等

アスベスト含有成形板の集積・運搬等は、＜９．１．５＞によるほか、「技術指針」の「第４章　収集運搬」及び次の事項に基づき実施する。

アスベスト含有成形板の処分等

アスベスト含有成形板の処分等は、＜９．１．５＞によるほか、「技術指針」の「第５章　中間処理」、「第６章　最終処分」及び次の事項に基づき実施する。

種　類	種　別	厚さ（mm）	施　工　箇　所
・ビーズ法	・	・	
ポリスチレンフォーム保温材	・	・	
・押出法	・保温板２種ｂ	・ 25	
ポリスチレンフォーム保温材	・保温板３種ｂ	・ 25	
	・	・	
・硬質ウレタンフォーム保温材	・	・	

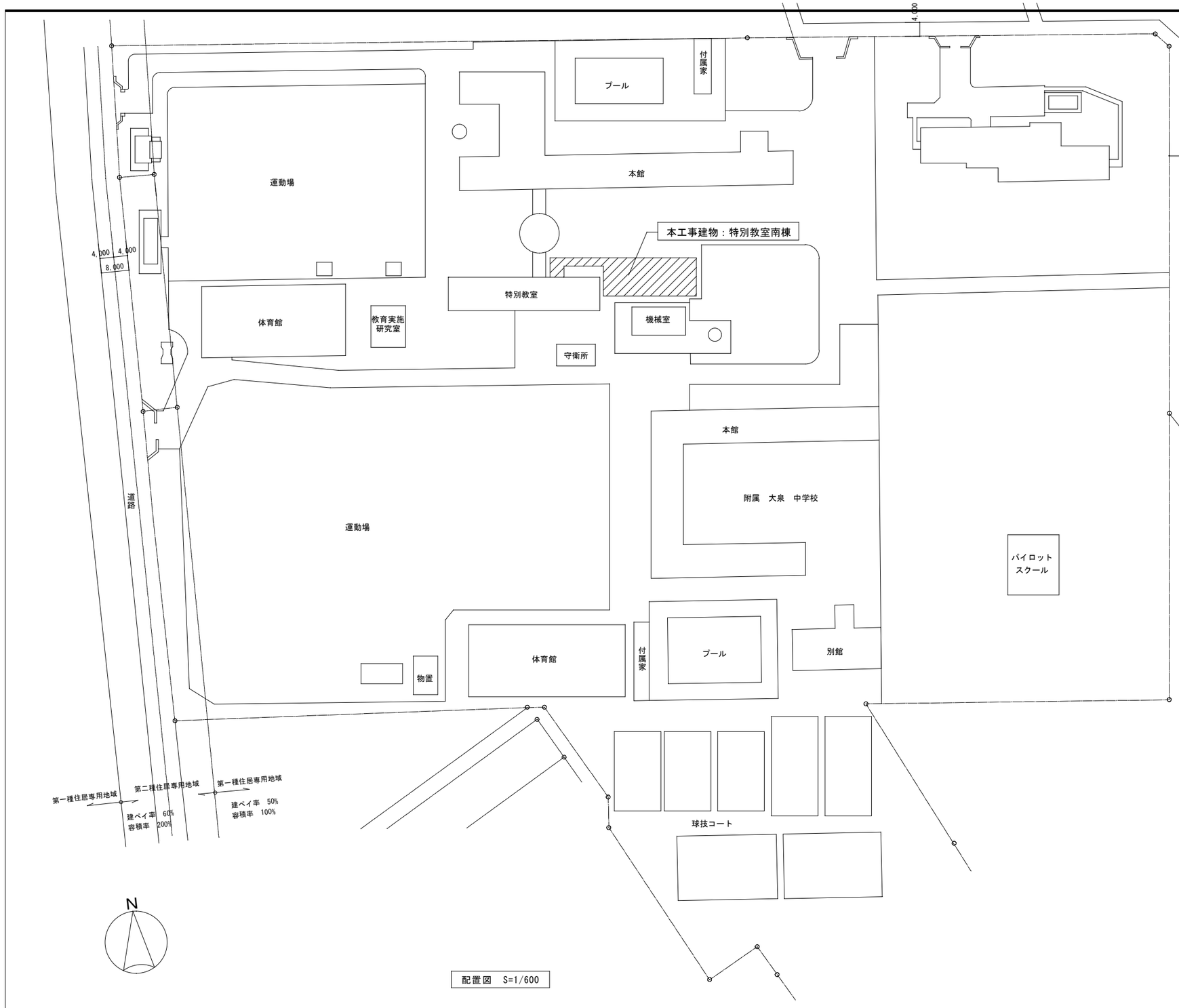
種　類	種　別	厚さ（mm）	施　工　箇　所
・ビーズ法	・	・	
ポリスチレンフォーム保温材	・	・	
・押出法	・保温板２種ｂ	・ 25	
ポリスチレンフォーム保温材	・保温板３種ｂ	・ 25	
	・	・	
・硬質ウレタンフォーム保温材	・	・	
・フェノールフォーム保温材	・	・	

断熱材現場発泡工法

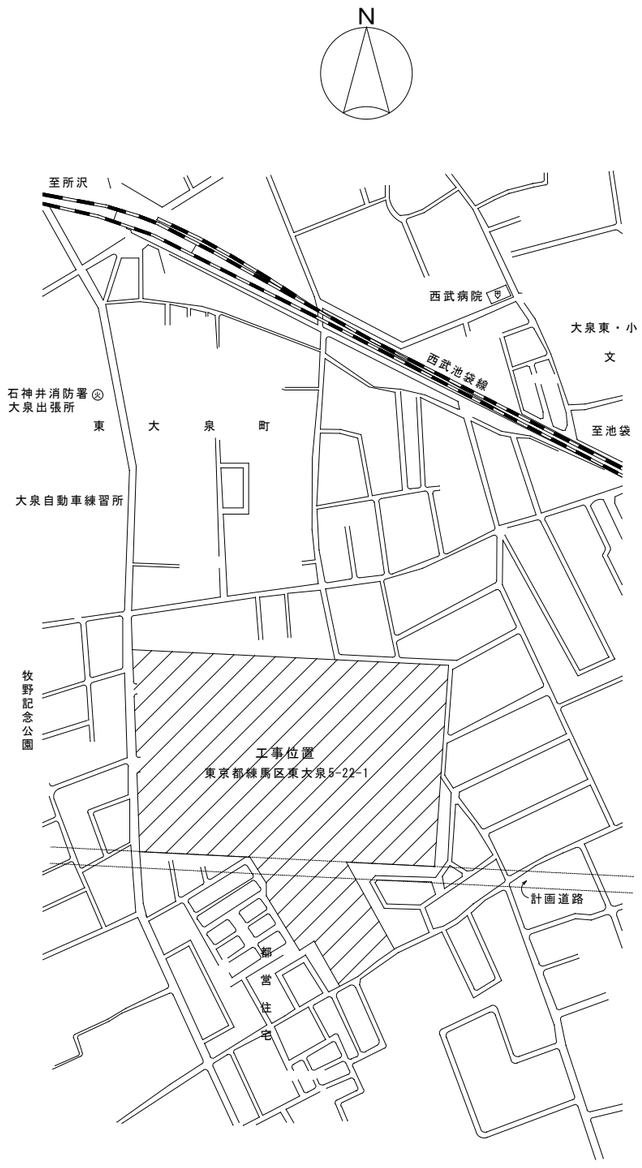
種　類	厚さ（mm）	施　工　箇　所
・Ａ種２	⊙25	梁・壁
・Ａ種３	・	
⊙Ａ種１	・	

工事区分

名　称	摘　要	建	電	機	備　考
天井改め口	改め口取付及び、開口部補強	○			ボード切込、墨出し共
開口補強を必要としないボード等の切開			○	○	
軽量鉄骨下地開口部補強	天井及び壁、ボード切開	○			照明器具、空調吹出口吸排気ガラリ等
軽鉄下地開口部墨出し	機械開口			○	
床下改め口	改め口取付	○			墨出し共
流し台	ステンレス製（含む排水金具）			○	水切り板同穴あけ共
同上	排水管の接続			○	
ライニング		○			
ルーフドレン		○			
縦樋		○			第１桝まで配管
雨水配水管	第１桝から排水幹線までの配管	○			第１桝を含む
換気扇取付	ダクトのあるもの			○	天井扇等
同上	壁、サッシ等への取付（材共）			○	
同上	サッシアルミパネル	○			
同上	サッシアルミパネル切開			○	
消火器ボックス		○			
トイレ　鏡				○	
洗面器				○	
汚垂石		○			
ライニング	壁掛け機器用補強	○			
煙感知器連動防火戸		○			
同上用煙感知器	リレーまでの配管配線共		○		
室内テレビ他 吊金物機器・配管取付後の	スラブから天井まで	○	○	○	モルタル充てん等
防火区画貫通部補修					
壁、床等の補修	便所内床開口塞ぎ　３階×５階壁開口塞ぎ	○			
	上記以外		○	○	
コンクリート穴あけ	機器用コア抜き			○	



配置図　S=1/600



案内図　S=1/3000

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称：東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事
									図面内容：案内図・配置図

縮尺 A1：1/600 1/3000　図面区分：建築意匠　図面番号：A-01

既存外部仕上表

部位	仕上	撤去内容
屋上	ｺﾝｸﾘｰﾄ直押え　露出ｼｰﾄ防水仕上（水勾配1/100）	既存のまま
ルーフドレイン	鋳鉄製横引型ドレイン（呼称100）	既存のまま
笠木	ｺﾝｸﾘｰﾄ直押え	既存のまま
縦樋	硬質塩化ビニル管　呼称100　ＯＰ塗	撤去
飾り桝	硬質塩化ビニル製　ＯＰ塗	撤去
外壁・柱型	ｺﾝｸﾘｰﾄ直仕上げ下地の上　リシン吹付	高圧洗浄
巾木	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放しのまま　（G.L+600）	高圧洗浄

部位	仕上	撤去内容
建具	アルミ製建具・スチール製建具	既存のまま　一部撤去
外階段	鉄骨階段　（一部鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造）	踏面撤去（(1)のみ）
	床：モルタル金こて仕上	既存のまま
	梁型・スラブ裏：ｺﾝｸﾘｰﾄ直下地の上リシン吹付	高圧洗浄　一部撤去
庇	天端：モルタル金こて仕上	高圧洗浄
	鼻：モルタル金こて仕上げ	高圧洗浄
	下端：ｺﾝｸﾘｰﾄ直下地の上リシン吹付	高圧洗浄
犬走り	緑石ブロック　150×150×600　破石敷ｔ120	既存のまま

既存内部仕上表

階	室名	F.L	天井高	床 下地	床 仕上げ	床 改修内容	幅木 下地	幅木 仕上げ	幅木 高さ	幅木 改修内容	壁・腰壁 下地	壁・腰壁 仕上げ	壁・腰壁 改修内容	梁型・天井 下地	梁型・天井 仕上げ	梁型・天井 廻り縁	梁型・天井 改修内容	備考
1	教授学習方法開発実験室	±0	3,000	C	ＶＴt2.0	A	C	ＷＢ＋ＳＯＰ	100	A	LGS C	シナ合板t4.0(ロックルールt25充填 寒冷砂ウラ打ち）ＳＯＰ 一部 モルタル金こて仕上　ＥＰ	C E	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.0	塩ビ	C	
	制御分析室	±0 ↓ +300	2,700 (一般1,000)	C	ＶＴt2.0	A	C	ＷＢ＋ＳＯＰ	100	A	LGS C	シナ合板t4.0(ロックルールt25充填 寒冷砂ウラ打ち）ＳＯＰ 一部 モルタル金こて仕上　ＥＰ	C E	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.0	塩ビ	C	
	マイクロティーチング室	±0	3,000	C	ＴＣt6.5	A	C	ＷＢ＋ＳＯＰ	100	A	LGS C	シナ合板t4.0(ロックルールt25充填 寒冷砂ウラ打ち）ＳＯＰ 一部 モルタル金こて仕上　ＥＰ	C E	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.0	塩ビ	C	
	空調機械室	±0	3,300 2,200	C	ＲＣ	F					C	ＲＣ	F	C	木毛セメント板打込t15	ー	F	
2	国際文化センター	±0	3,000	C	ＶＴt2.0	A	C	ＶＢ	100	A	C	モルタル金こて仕上げ　ＥＰ	E	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.0	塩ビ	C	
	児童学習センター	±0	3,000	C	ＶＴt2.0	A	C	ＶＢ	100	A	C	モルタル金こて仕上げ　ＥＰ	E	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.0	塩ビ	C	
	低学年合科学習室	±0	3,000	C	ＶＴt2.0	A	C	ＶＢ	100	A	C	モルタル金こて仕上げ　ＥＰ	E	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.0	塩ビ	C	
3	多目的オープンスペース	±0	3,000 3,450	C	ＴＣt6.5	A	C	ＷＢ ＳＯＰ	100	A	LGS C	シナ合板t4.0(ロックルールt25充填 寒冷砂ウラ打ち）ＳＯＰ 一部 モルタル金こて仕上　ＥＰ	C E	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.0	塩ビ	C	
	空調機械室	±0		C	ＲＣ	F					C	ＲＣ	F	C	木毛セメント板打込t15		F	
共通	男子・女子便所	±0	2,400	C	ＶＳt2.0	A					C	モルタル金こて仕上　ＥＰ	E	LGS	石綿スレートフレキシブル板t4.0　ＥＰ （且スカシ張り）	塩ビ	C	
	廊下	±0	3,300 2,200	C	ＶＴt2.0	A	C	ＶＢ	100	A	C	ＲＣ　ＥＰ	F	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.0	塩ビ	C	

改修後外部仕上表

部位	仕上	改修内容
屋上	ｺﾝｸﾘｰﾄ直押え　露出ｼｰﾄ防水仕上（水勾配1/100）	既存のまま
ルーフドレイン	鋳鉄製横引型ドレイン（呼称100）	既存のまま
笠木	ｺﾝｸﾘｰﾄ直押え	既存のまま
縦樋	塩ビ製φ100カラー	新設
飾り桝	塩ビ製	新設
外壁・柱型	防水型複層塗材Ｅ	新設
巾木	防水型複層塗材Ｅ	新設

部位	仕上	改修内容
建具	アルミ製建具・スチール製建具	一部新設
外階段	鉄骨階段　（一部鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造）	下地調整の上 ＳＯＰ塗 踏面新設（(1)のみ）
	床：モルタル金こて仕上	既存のまま
	梁型・スラブ裏：ｺﾝｸﾘｰﾄ直下地の上リシン吹付	下地調整の上 防水型複層塗材Ｅ　一部庇新設
庇	天端：モルタル金こて仕上	下地調整の上 ウレタン塗膜防水(X-2)
	鼻：モルタル金こて仕上げ	下地調整の上 防水型複層塗材Ｅ
	下端：ｺﾝｸﾘｰﾄ直下地の上リシン吹付	下地調整の上 防水型複層塗材Ｅ
犬走り	緑石ブロック　150×150×600　破石敷ｔ120	既存のまま

改修後内部仕上表

階	室名	F.L	天井高	床 下地	床 仕上げ	床 改修内容	幅木 下地	幅木 仕上げ	幅木 高さ	幅木 改修内容	壁・柱 下地	壁・柱 仕上げ	壁・柱 改修内容	天井 下地	天井 仕上げ	天井 廻り縁	天井 改修内容	備考
1	交流ルーム	±0	2,700 3,000	LV t5.0	複合フローリングt13	c	C	ＶＢ	100	a	C	GB-Rt12.5+GB-R-Ht9.5 EP	a	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.5	塩ビ	c	
											C	（柱型）ＥＰ	e					
											LGS	ＧＢ－Ｆｔ12.5 ＋ＧＢ－Ｒ－Ｈｔ9.5ＥＰ＜114条＞	c					
											LGS	ＧＢ－Ｒｔ12.5 ＋ＧＢ－Ｒ－Ｈｔ9.5ＥＰ(114条以外)	c					
	教材室	±0	2,700 3,000	LV t7.5	ＶＳt2.5	c	C	ＶＢ	100	a	C	GB-Rt12.5+GB-R-Ht9.5 EP	a	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.5	塩ビ	c	
											C	（一部壁、柱型）ＥＰ	e					
											LGS	ＧＢ－Ｆｔ12.5 ＋ＧＢ－Ｒ－Ｈｔ9.5ＥＰ＜114条＞	c					
											LGS	ＧＢ－Ｒｔ12.5 ＋ＧＢ－Ｒ－Ｈｔ9.5ＥＰ(114条以外)	c					
2	第２理科室 倉庫（１）	±0	2,700 3,000	LV t7.5	ＶＳt2.5	c	C	ＶＢ	100	a	C	GB-Rt12.5+GB-R-Ht9.5 EP	a	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.5	塩ビ	c	
											C	（一部壁、柱型）ＥＰ	e					
											LGS	ＧＢ－Ｆｔ12.5 ＋ＧＢ－Ｒ－Ｈｔ9.5ＥＰ＜114条＞	c					
											LGS	ＧＢ－Ｒｔ12.5 ＋ＧＢ－Ｒ－Ｈｔ9.5ＥＰ(114条以外)	c					
	コンピュータ室	±0	2,700 3,000	LV t13.5	ＴＣt6.5 （帯電防止）	c	C	ＶＢ	100	a	C	GB-Rt12.5+GB-R-Ht9.5 EP	a	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.5	塩ビ	c	
											C	（柱型）ＥＰ	e					
											LGS	ＧＢ－Ｆｔ12.5 ＋ＧＢ－Ｒ－Ｈｔ9.5ＥＰ＜114条＞	c					
											LGS	ＧＢ－Ｒｔ12.5 ＋ＧＢ－Ｒ－Ｈｔ9.5ＥＰ(114条以外)	c					
3	オープンスペース 倉庫（２）	±0	3,000 2,800	LV t8.0	構造用合板ｔ12 ＋複合フローリングｔ13	c	C	ＶＢ	100	a	LGS	有孔合板ｔ5.5ＥＰ ロックウール t25充填 寒冷砂ウラ打ち　＜外壁面＞	c	LGS	ＧＢ－Ｒｔ9.5 ＋ＤＲｔ12.0	塩ビ	c	
											C	ＥＰ＜柱型> ＜倉庫(2)の外壁面以外＞	e					
											LGS	ＧＢ－Ｆｔ12.5 ＋ＧＢ－Ｒ－Ｈｔ9.5ＥＰ＜114条＞	c					
											LGS	ＧＢ－Ｒｔ12.5 ＋ＧＢ－Ｒ－Ｈｔ9.5ＥＰ ＜外壁面以外、倉庫(2)の外壁面＞	c					
共通	男子・女子便所	±0	2,400	LV t7.5	ＶＳt2.5	c	C	ＳＵＳ製	60	a	C	ＥＰ	e	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.5	塩ビ	c	
											LGS	ＧＢ－Ｓ12.5 化粧ケイカル板ｔ6.0	c					
	廊下	±0	2,700 2,800 3,000	LV t7.5	ＶＳt2.5	c	C	ＶＢ	100	a	C	ＥＰ	e	LGS	ＧＢ－Ｄｔ9.5	塩ビ	c	
											LGS	ＧＢ－Ｆｔ12.5 ＋ＧＢ－Ｒ－Ｈｔ9.5ＥＰ	c					

共通事項

【耐火構造一覧】

- 外壁（耐力壁）：１時間耐火／鉄筋コンクリート造ｔ70以上、鉄筋かぶり厚さ30以上
- 外壁（非耐力壁）：１時間耐火／鉄筋コンクリート造ｔ70以上、鉄筋かぶり厚さｔ20以上
- 外壁（非耐力壁）：３０分耐火／ＡＬＣｔ100
- 間仕切壁（耐力壁）：１時間耐火／鉄筋コンクリート造ｔ70以上、鉄筋かぶり厚さ30以上
- 間仕切壁（非耐力壁）：１時間耐火／鉄筋コンクリート造ｔ70以上、鉄筋かぶり厚さｔ20以上
- 柱：１時間耐火／鉄筋コンクリート造□25ｃｍ以上、鉄筋かぶり厚さ30以上
- 床：１時間耐火／鉄筋コンクリート造ｔ70以上、鉄筋かぶり厚さｔ20以上
- 梁：１時間耐火／鉄筋コンクリート造、鉄筋かぶり厚さ30以上
- 屋根：３０分耐火／鉄筋コンクリート造、鉄筋かぶり厚さｔ20以上
- 階段：３０分耐火／鉄筋コンクリート造

【防火上主要な間仕切り壁（施行令１１４条区画）】

- 間仕切壁（非耐力壁）：１時間耐火／鉄筋コンクリート造ｔ70以上、鉄筋かぶり厚さｔ20以上
- 1時間耐火/軽量鉄骨壁：LGS+GB-F 12.5+GB-R-H 9.5(両面)

耐火構造認定番号：FP060NP-0199

（間仕切壁は梁下またはスラブ下まで設けるものとする。）

【延焼のおそれのある部分の外壁の開口部】

- 防火設備を設置。

略語凡例

略語	仕上げ材等	略語	仕上げ材等	略語	仕上げ材等
ＲＣ	コンクリート打放し	ＧＢ－Ｆ	強化せっこうボード	ＳＯＰ	合成樹脂調合ペイント塗り
ＣＢ	コンクリートブロック積み	ＧＢ－Ｒ－Ｈ	普通硬質せっこうボード	ＥＰ	合成樹脂エマルションペイント塗り
ＶＳ	ビニル床シート	ＧＢ－Ｓ	シージングせっこうボード	ＥＰ－Ｇ	つや有合成樹脂エマルションペイント塗り
ＶＴ	ビニル床タイル（半硬質）	ＧＢ－Ｐ	吸音あなあきせっこうボード	ＶＥ	塩化ビニル樹脂エナメル塗り
ＴＣ	タイルカーペット	ＧＢ－Ｐ（Ｓ）	吸音化粧せっこうボード（スクエアート）	ＡＥ	アクリル樹脂エナメル塗り
ＶＴ（Ｅ）	帯電防止ビニル床タイル	ＦＫ	けい酸カルシウム板	ＦＥ	フタル酸樹脂エナメル塗り
ＶＢ	ビニル幅木	ＤＲ	ロックウール化粧吸音板（フラットタイプ）	ＣＬ	クリヤラッカー塗り
ＷＢ	木製幅木	ＤＲ（凹凸）	ロックウール化粧吸音板（凹凸タイプ）	ＵＣ	ウレタン樹脂ウニス塗り
ＶＣ	ビニルクロス張り	ＰＦ板	押出法ポリスチレンフォーム保温板		
ＧＢ－Ｒ	せっこうボード	ＧＷ	グラスウール 24K		
ＧＢ－Ｄ	化粧せっこうボード（トラバーチン）				
ＧＢ－Ｄ（Ｓ）	化粧せっこうボード（スクエアート）				

下地の区分欄の略号

略語	仕上げ材等
C	コンクリート下地
CB	コンクリートブロック下地
ＡＬＣ	押出成形セメント板下地
LGS	軽量鉄骨下地（特記以外は壁65型、天井19型）
W	木下地
M	モルタル下地
ＰＦ	ポリスチレンフォーム床下地板（床下地のみ）
ＯＡ	ＯＡフロア
LV	セルフレベリング

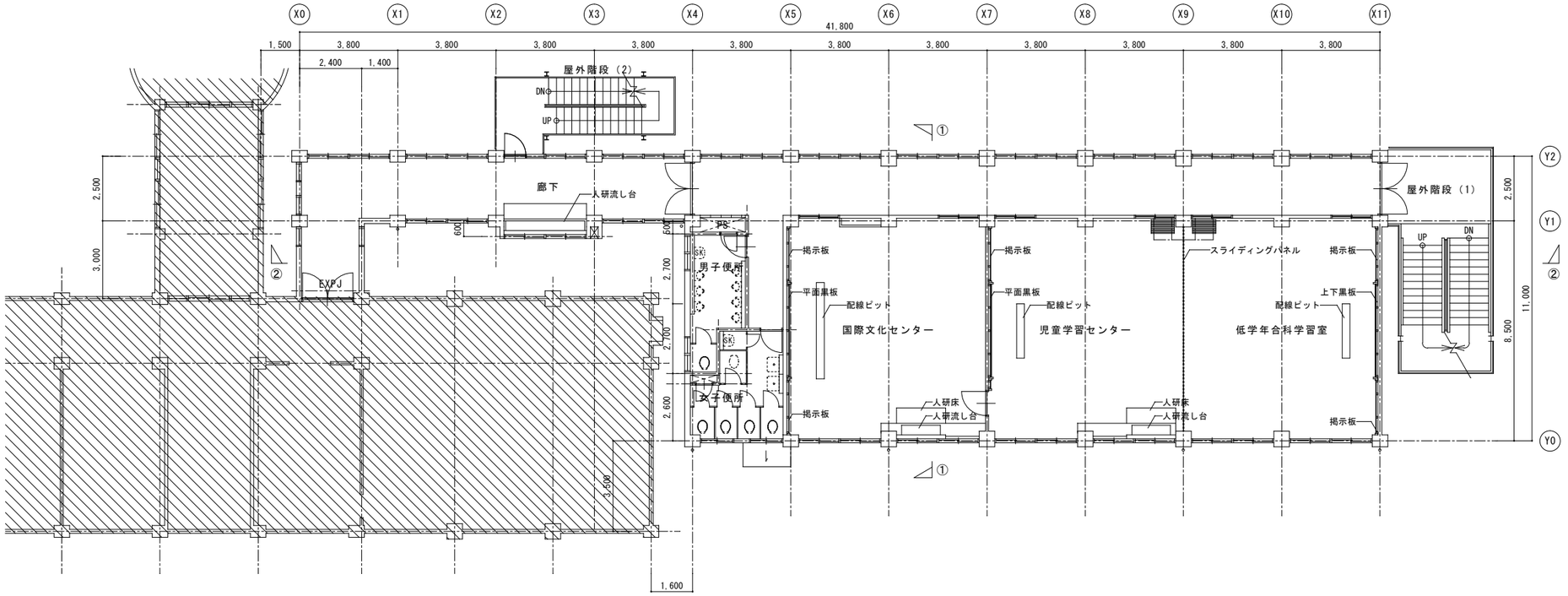
改修内容凡例

既存	A：仕上げ撤去	改修	a：仕上げ新設
	B：図示の仕上げ撤去		b：図示の仕上げ新設
	C：下地共撤去		c：下地共新設
	D：図示の下地共撤去		d：図示の下地共新設
	E：下地調整		e：塗装の塗り替え
	F：既存のまま		f：既存のまま

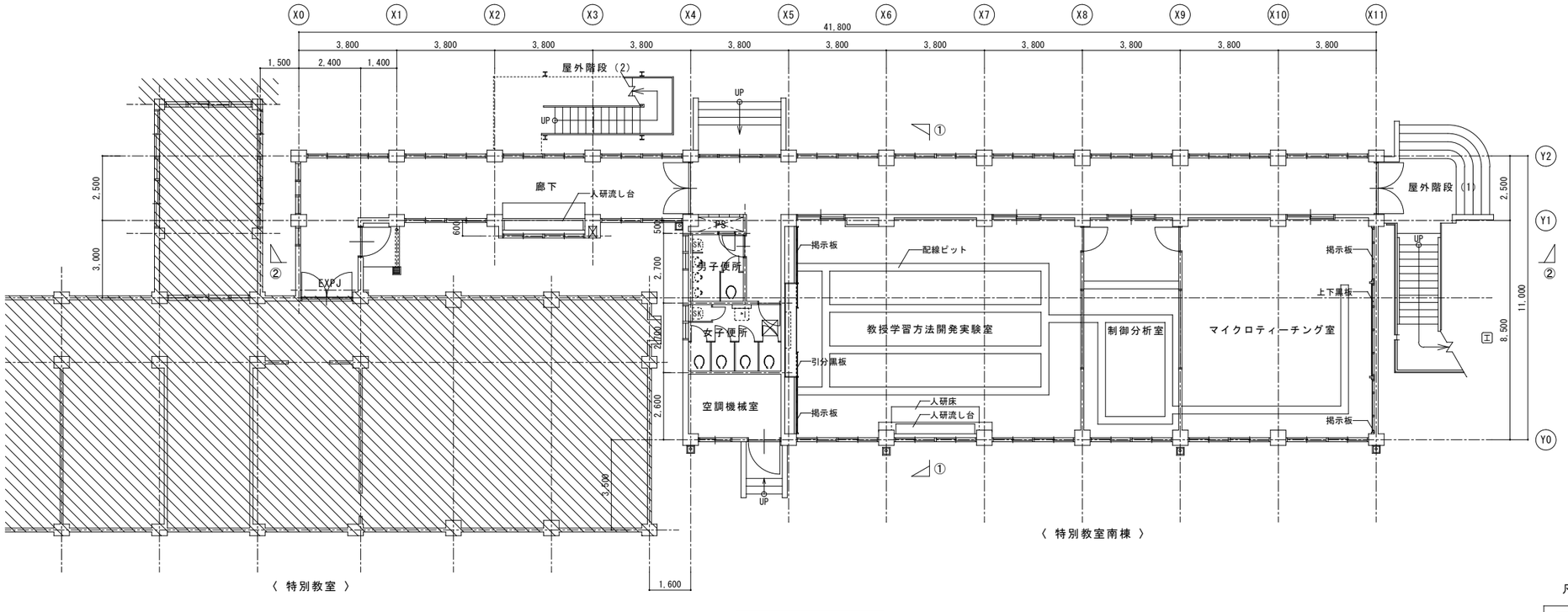
防火等認定材料表

略語	材料名	厚さ	認定番号
ＧＢ－Ｒ	せっこうボード	9.5	QM-9828
ＧＢ－Ｒ	せっこうボード	12.5	NM-8619
ＧＢ－Ｄ	化粧せっこうボード	9.5	QM-9824
ＧＢ－Ｄ（Ｓ）	化粧せっこうボード（ｽｸｴｱｰﾄ）	9.5	NM-0879
ＧＢ－Ｓ	シージングせっこうボード	9.5 12.5	QM-9826
ＧＢ－Ｆ	強化せっこうボード	12.5~	NM-8615
ＧＢ－Ｒ－Ｈ	普通硬質せっこうボード	9.5	NM-9645
ＧＢ－Ｐ	吸音あなあきせっこうボード	9.5	QM-9827
ＧＢ－Ｐ（Ｓ）	吸音化粧せっこうボード（ｽｸｴｱｰﾄ）	9.5	NM-0879
ＤＲ	ロックウール吸音板	9.0	NM-8599

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容	仕上表【既存・改修後】	縮尺 A1：-/— A3：-/—	図面区分 建築意匠 / 図面番号 A-02



2階　平面図　1/100



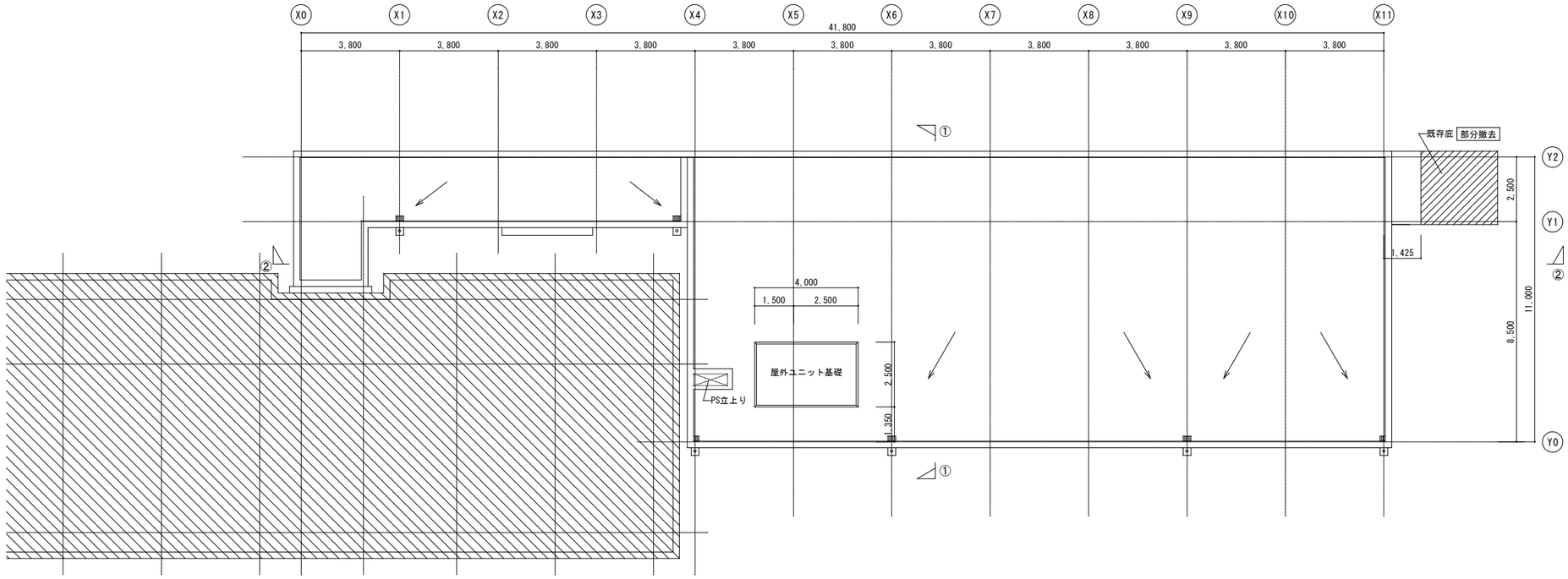
1階　平面図　1/100

凡例

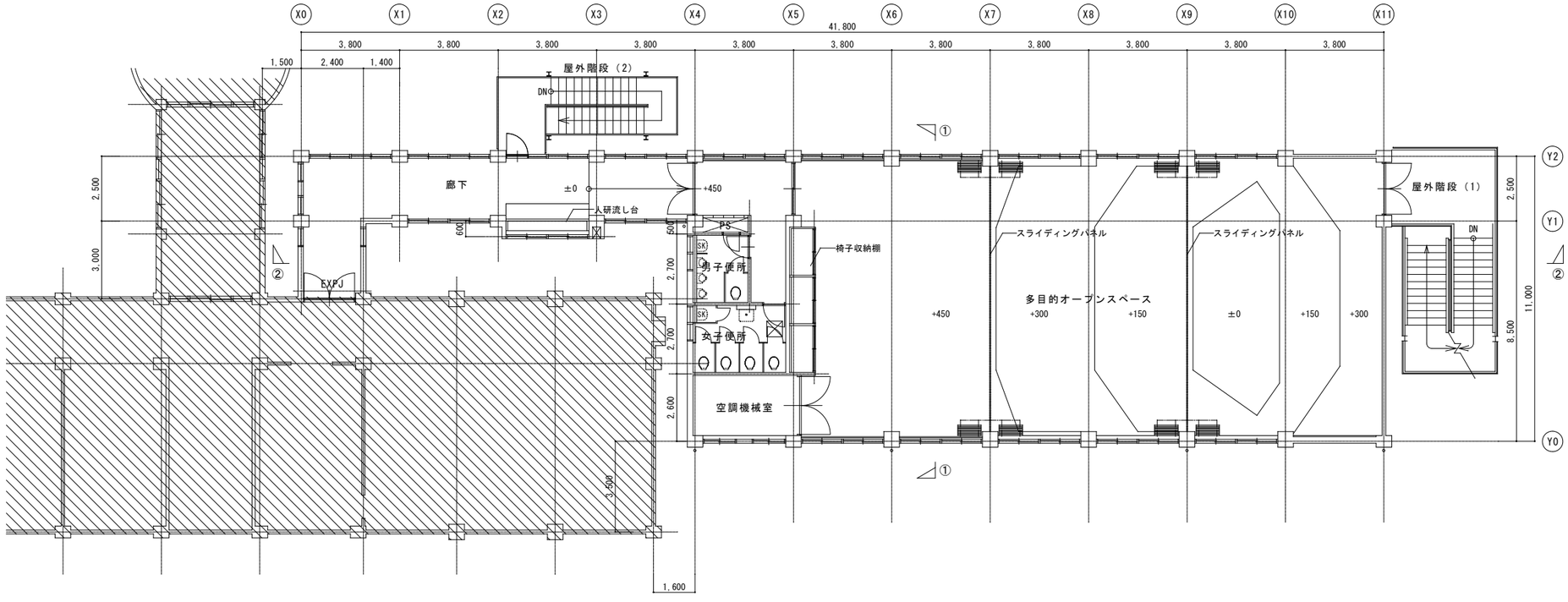
既存部分を示す

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事
									図面内容 1階・2階平面図【既存】

縮尺 A1：1/100 A3：1/200　図面区分 建築意匠　図面番号 A-03



屋階　平面図　1/100

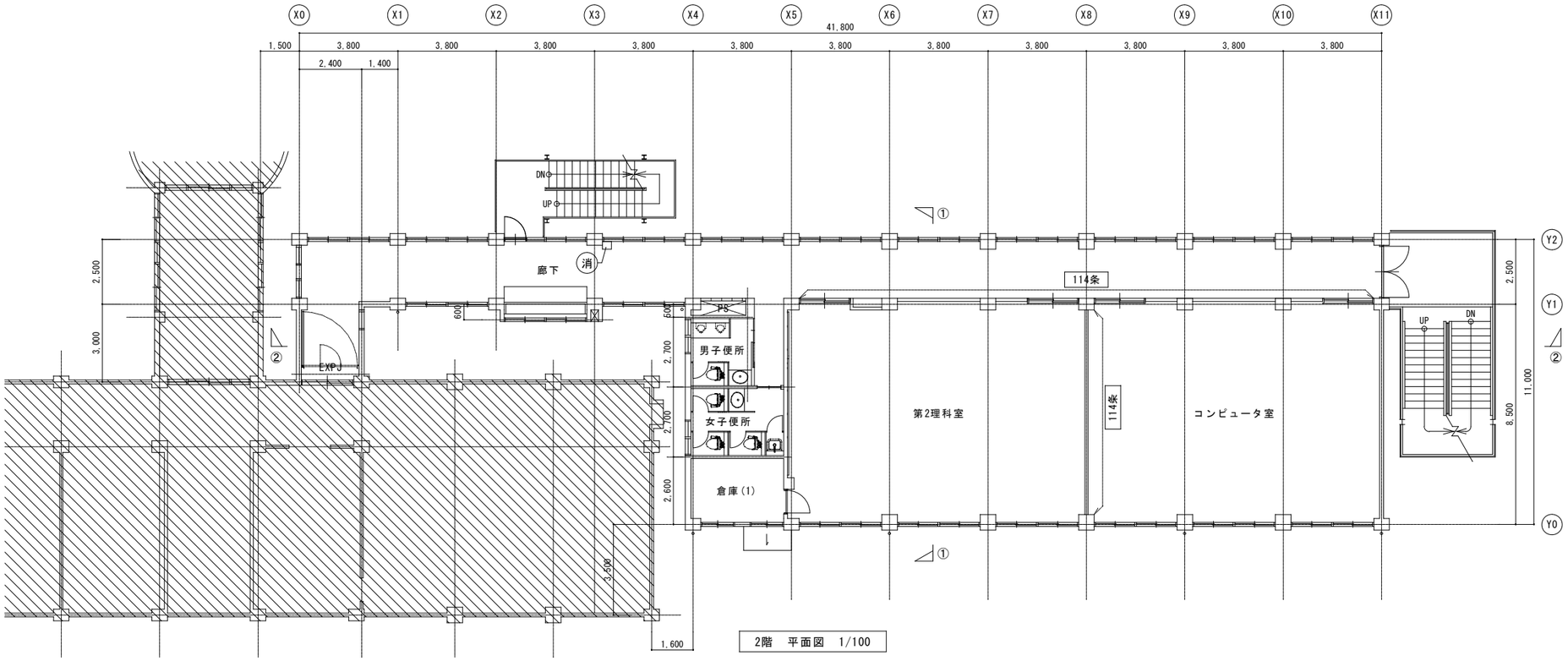


3階　平面図　1/100

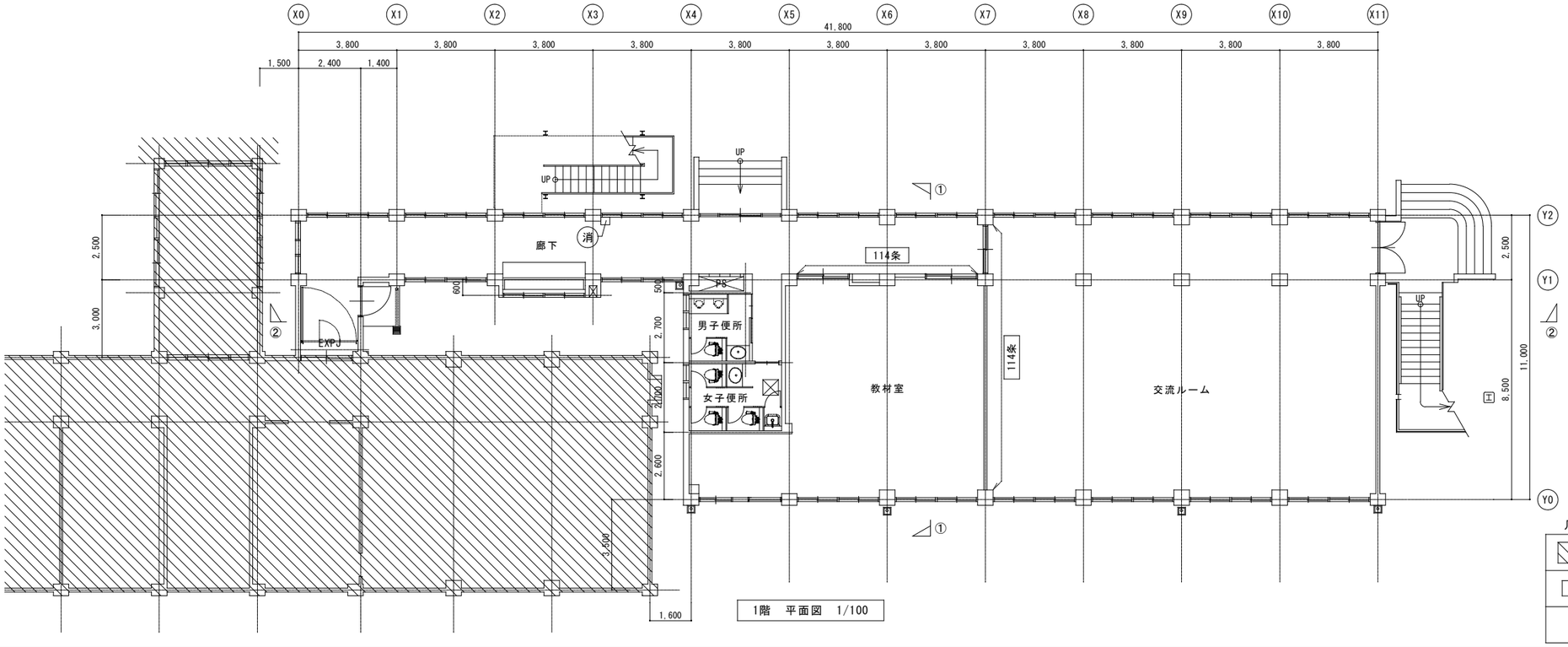
凡例

既存部分を示す

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事
									図面内容 3階・屋階平面図【既存】
									縮尺 A1：1/100 A3：1/200
									図面区分 建築意匠
									図面番号 A-04



2階　平面図　1/100



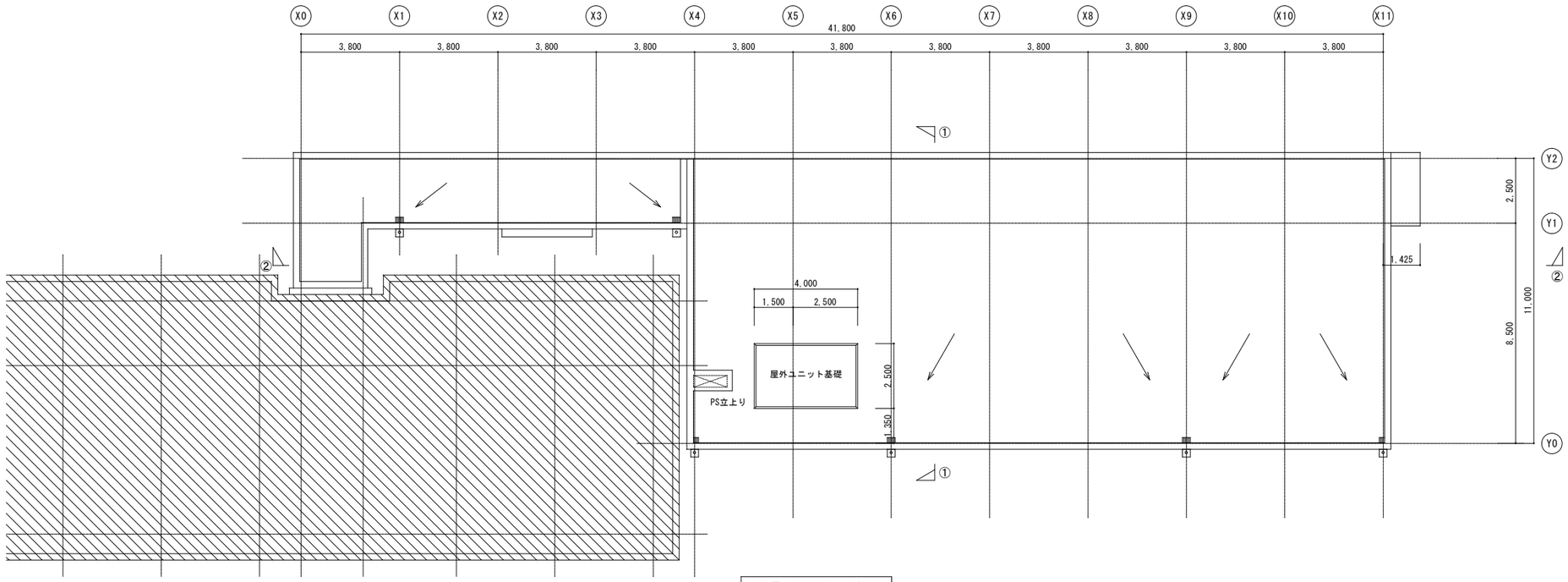
1階　平面図　1/100

凡例

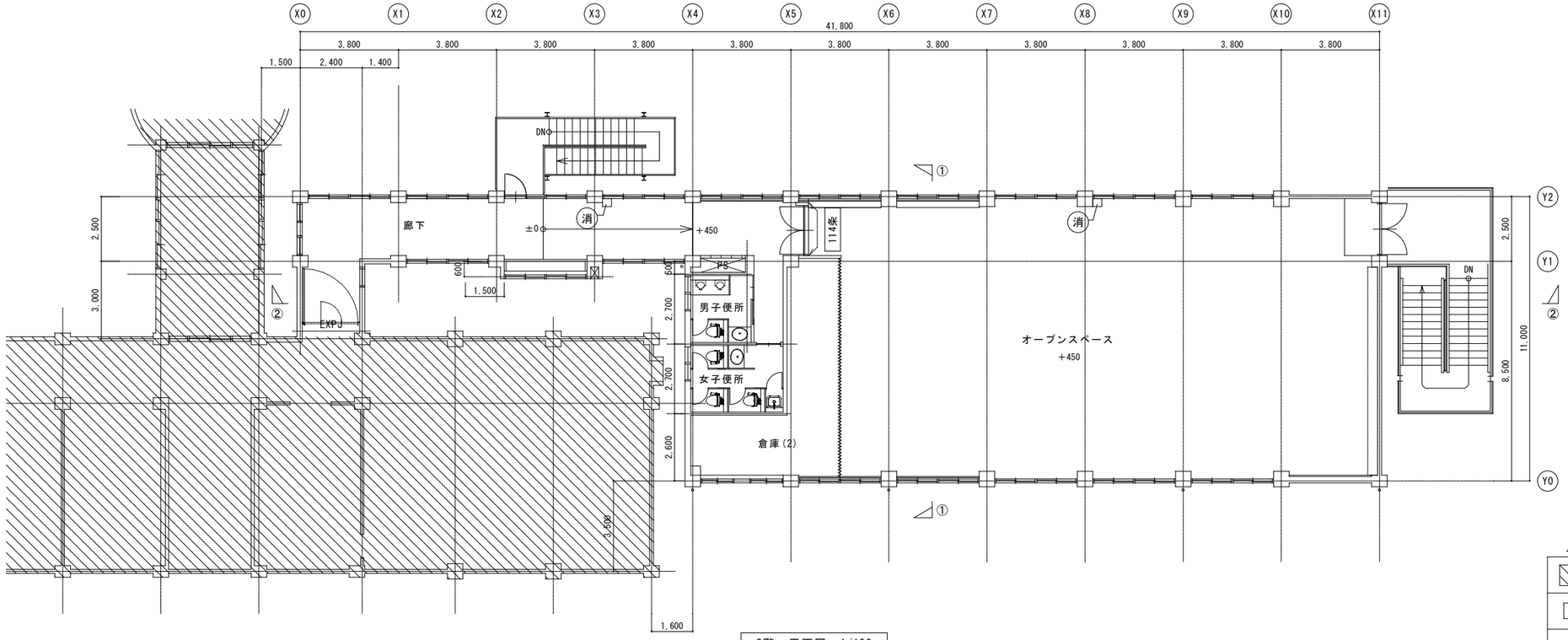
	既存部分を示す
114条	防火上主要な間仕切（114条区画）
消	消火器BOX　新設

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事
									図面内容 1階・2階平面図【改修後】

縮尺 A1：1/100 A3：1/200　図面区分 建築意匠　図面番号 A-05



屋階　平面図　1/100



3階　平面図　1/100

凡例

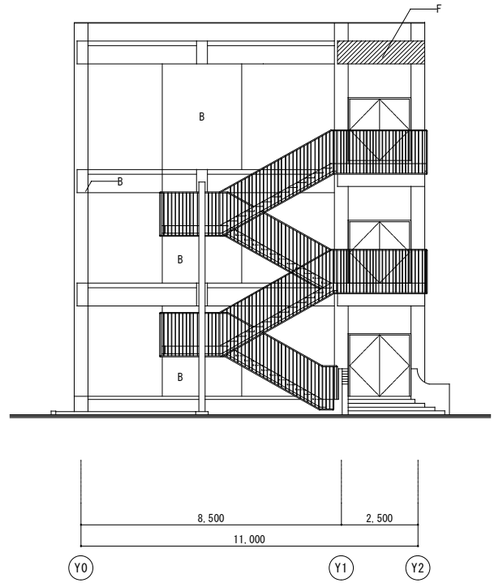
	既存部分を示す
114条	防火上主要な間仕切（114条区画）
消	消火器BOX　新設

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事
									図面内容 3階・屋階平面図【改修後】

縮尺 A1：1/100 A3：1/200　図面区分 建築意匠　図面番号 A-06



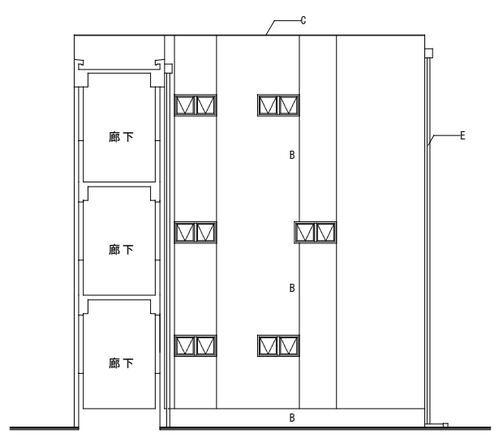
南　立面図　1/100



東　立面図　1/100



北　立面図　1/100



西　立面図　1/100

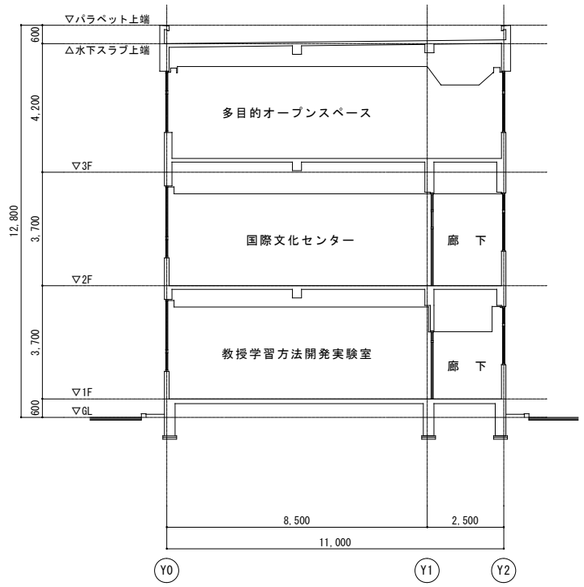
浮き、クラック等補修数量＜参考数量＞
爆裂：(エポキシ樹脂モルタル充填工法) ＜20箇所＞
浮き：(ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法) ＜100㎡＞
ｸﾗｯｸ：(Uｶｯﾄ可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂充填工法) ＜100m＞

※工事に先立ち、改修外壁面全ての浮き、クラック等の数量調査を行うこと。
上記想定数量と変更のある場合は別途清算とする。

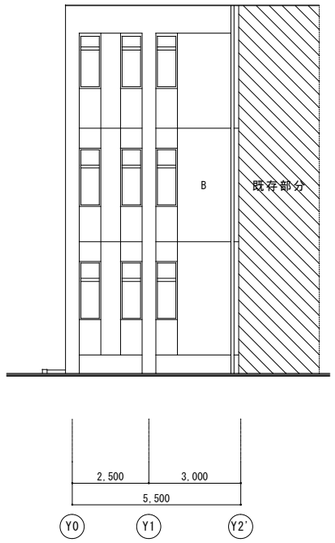
凡例

	仕上	改修内容
A	コンクリート仕上げ下地の上リシン吹付	高圧洗浄
B	コンクリート打放しのまま	高圧洗浄
C	コンクリート金コテ仕上げ	既存のまま
D	モルタル金ゴテ	高圧洗浄
E	硬質塩化ビニール管呼称100SOP	撤去
F	コンクリート庇	部分撤去
G	モルタル塗	撤去
H	コンクリート庇	撤去

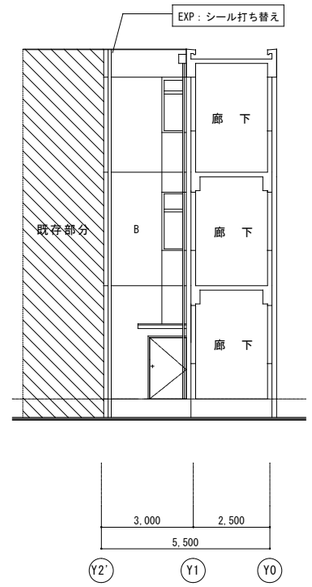
株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容 立面図【既存】	縮尺 A1：1/100	図面区分 建築意匠
											図面番号 A-07



①－①断面図　1/100



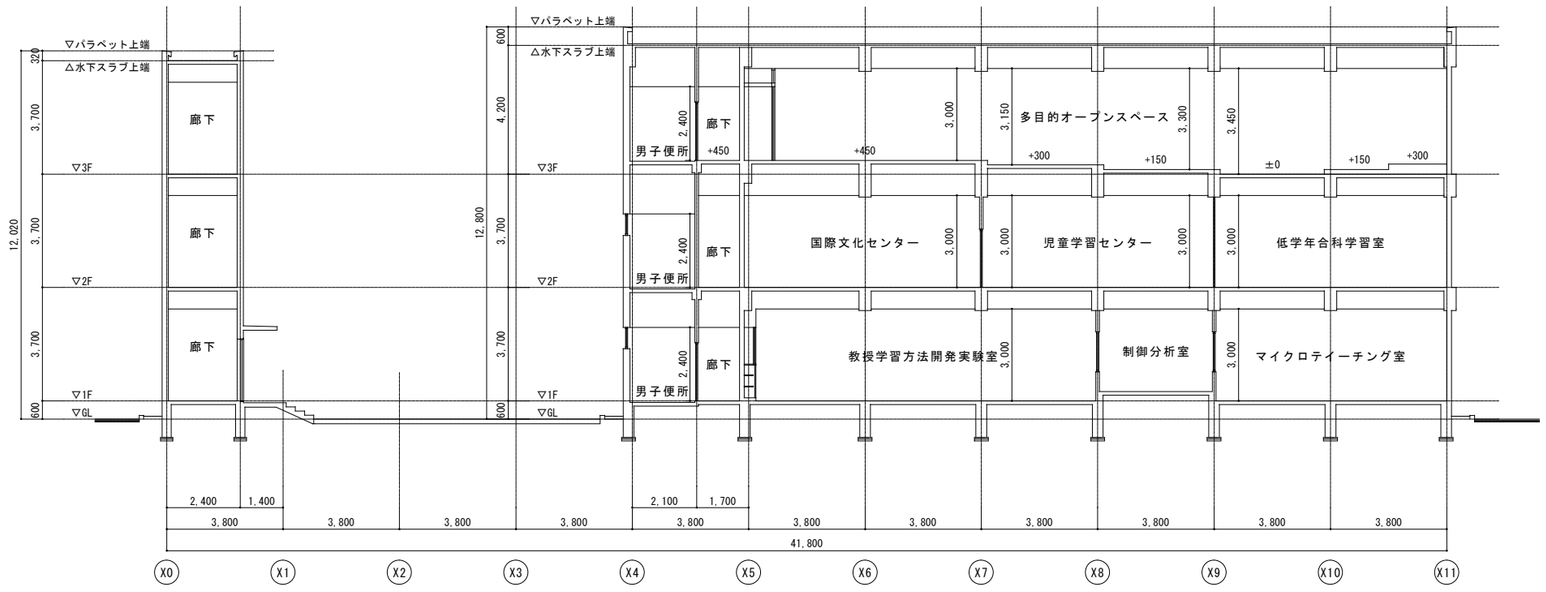
西　立面図　1/100



東　立面図　1/100

凡例

仕上	改修内容
B：コンクリート打放しのまま	高圧洗浄

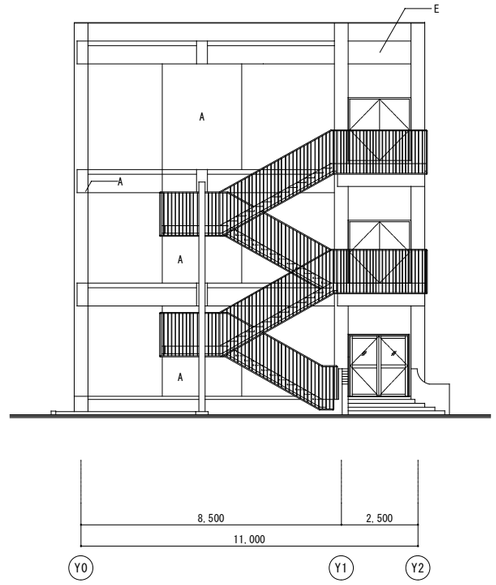


②－②断面図　1/100

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容	断面図・立面図【既存】	縮尺 A1：1/100	図面区分 建築意匠 / 図面番号 A-08



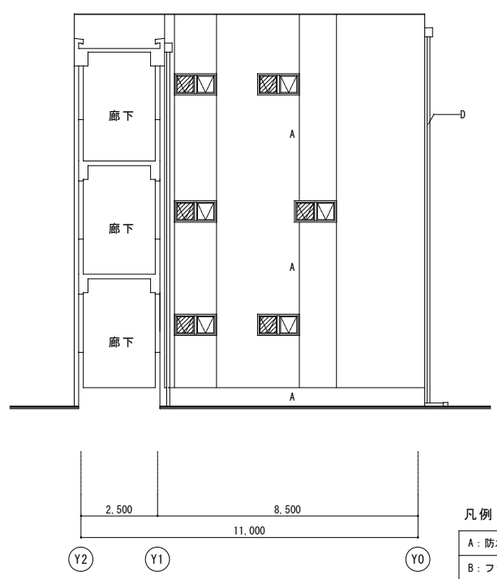
南　立面図　1/100



東　立面図　1/100



北　立面図　1/100



西　立面図　1/100

凡例

仕上	改修内容
A：防水型複層塗材E	下地調整の上新設
B：フッ素樹脂鋼板パネル t 1.6	新設
C：ウレタン塗膜防水	下地調整の上新設
D：硬質塩化ビニール縦樋100φカラー	新設
E：コンクリート庇	モルタル補修の上ウレタン塗膜防水
F：コンクリート庇撤去跡	モルタル補修の上防水型複層塗材E
：アルミパネル	新設

株式会社 綜企画設計

承認	製図

特記

東京学芸大学
財務施設部 施設課

課長	副課長	係長	主任

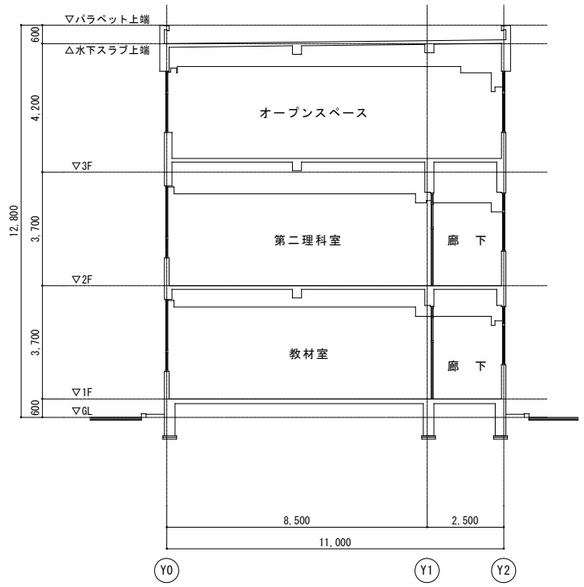
工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　立面図【改修後】

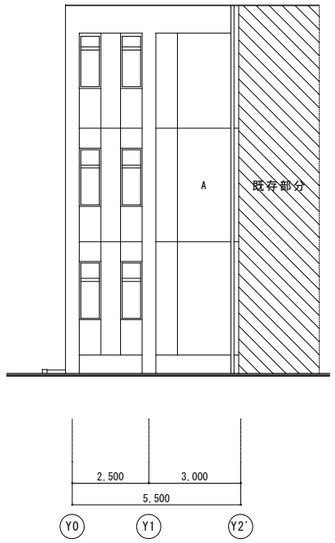
縮尺　A1：1/100

図面区分　建築意匠

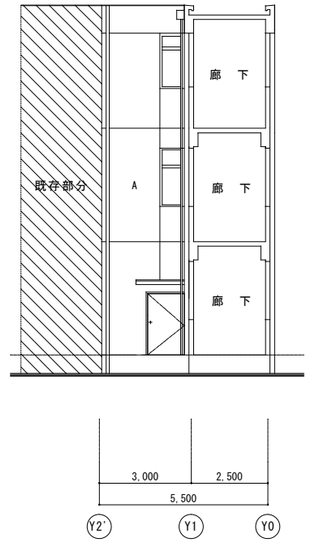
図面番号　A-09



①－①断面図　1/100



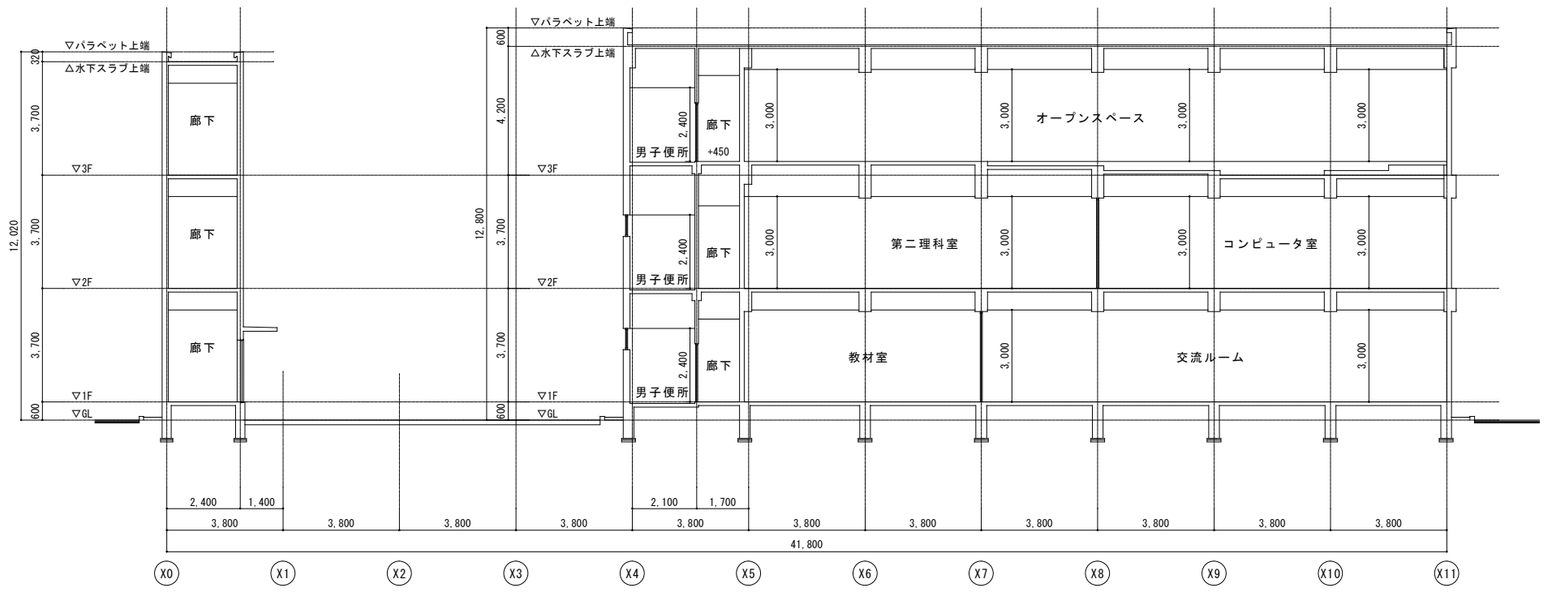
西　立面図　1/100



東　立面図　1/100

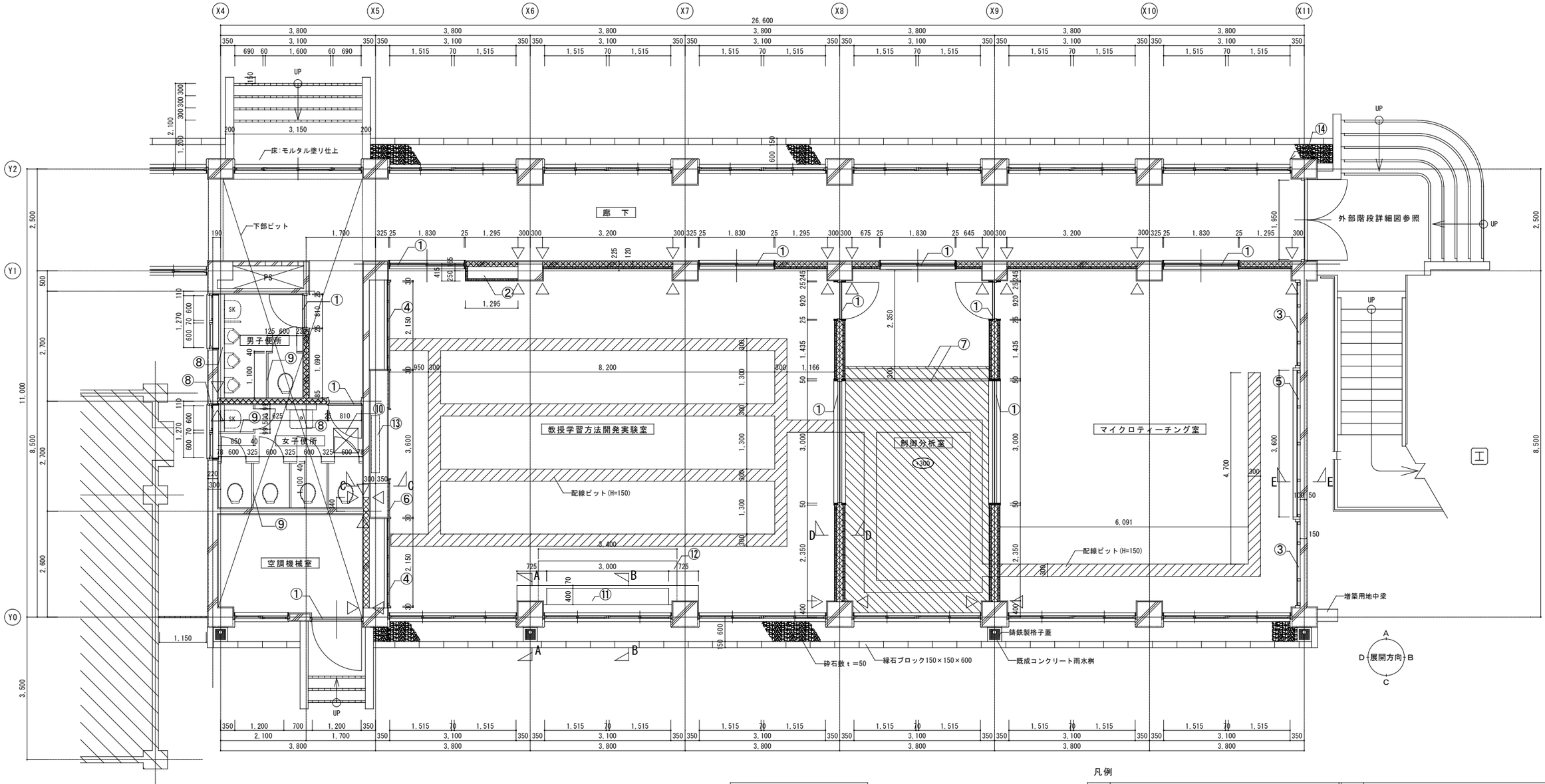
凡例

仕上	改修内容
A：防水型複層塗材Ｅ	下地調整の上新設



②－②断面図　1/100

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容 断面図・立面図【改修後】	縮尺 A1：1/100	図面区分 建築意匠 / 図面番号 A-10



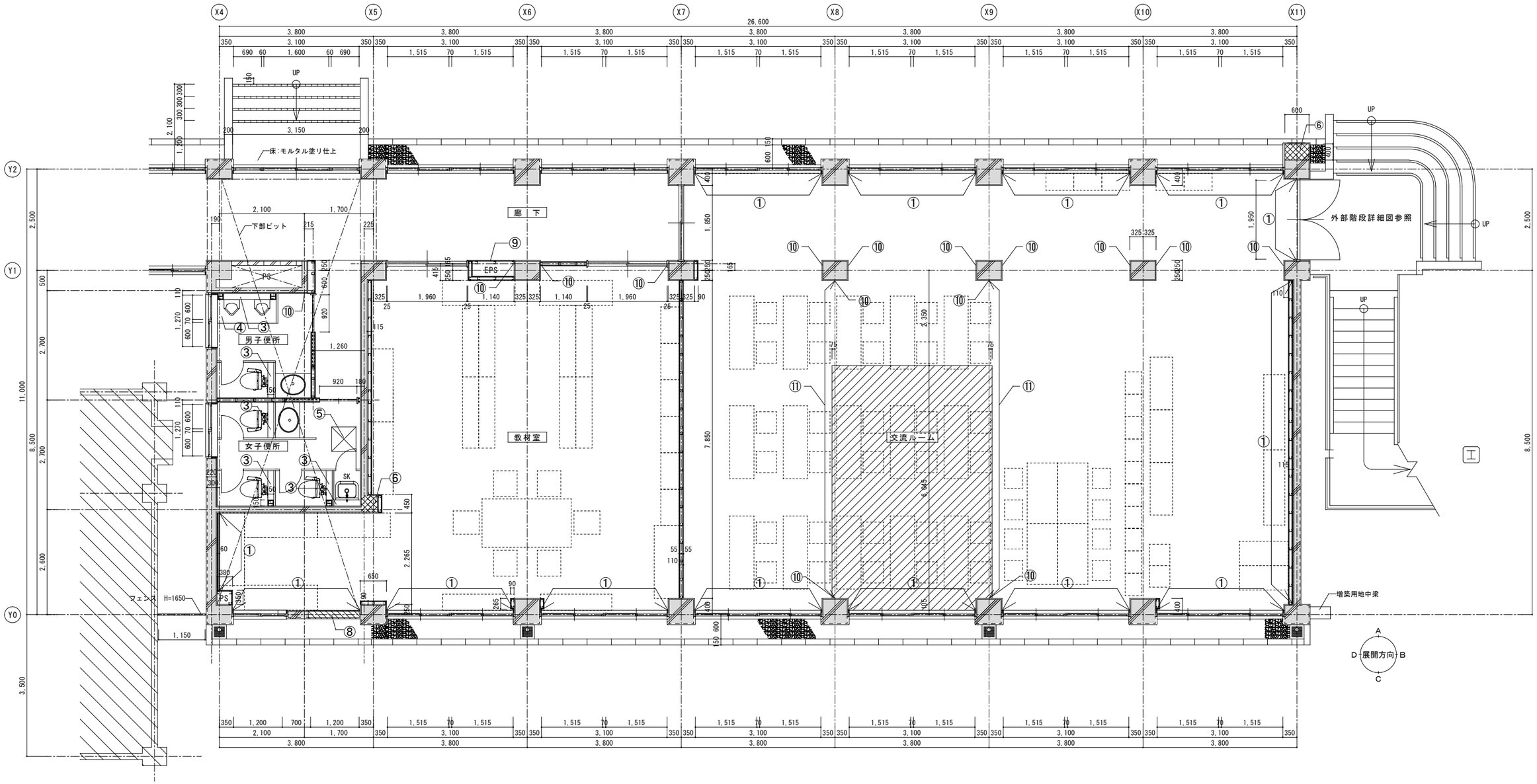
1階平面詳細図　1/50

凡例

①	建具　撤去（枠，沓摺共）	⑪	人研流し台　撤去
②	LGS壁　撤去	⑫	床 人研　撤去
③	掲示板（アルミ製枠）撤去	⑬	スクリーン　撤去
④	掲示板（木製枠）撤去	⑭	モルタル塗　撤去
⑤	上下黒板　撤去（アルミ製枠1800×3600）		RC壁撤去
⑥	引分黒板　撤去		配線ピット撤去し，シンダーコンクリートt150　打設
⑦	SUS製ノンスリップ ビニールタイヤ入　撤去		コンクリートスラブ　撤去
⑧	ライニング　撤去		カッター入れを示す
⑨	トイレブーズ　撤去		雑詳細図参照
⑩	床点検口　扉のみ撤去		

※　衛生機器撤去後スラブをコンクリート穴埋め　〈男女便所共通〉

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容	1階　平面詳細図 【既存】	縮尺 A1：1/50 A3：1/100	図面区分 建築意匠 / 図面番号 A-11



1階平面詳細図　1/50

凡例

	RC壁・柱　既存	⑧	コンクリート打設＜D10-@200タテヨコ＞ 柱面、床面は金属系あと施工アンカーD10@200 それ以外は既存鉄筋はつり出しの上、新設鉄筋と溶接
	LGS壁　新設		
①	断熱材：硬質ウレタンフォームｔ25　吹付範囲	⑨	壁 開口補強　600×900
②	欠番	⑩	コンクリート壁撤去跡モルタル補修
③	ライニング　新設	⑪	(上部梁下)コンクリート壁撤去跡モルタル補修
④	汚垂石　新設		コンクリートスラブｔ120　新設範囲
⑤	床下点検口（600角）　扉のみ新設		工事外備品
⑥	RC柱 増し打ち		
⑦	欠番	※	便器，洗面，ＳＫ，流し台，実験台は設備工事（別途）

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

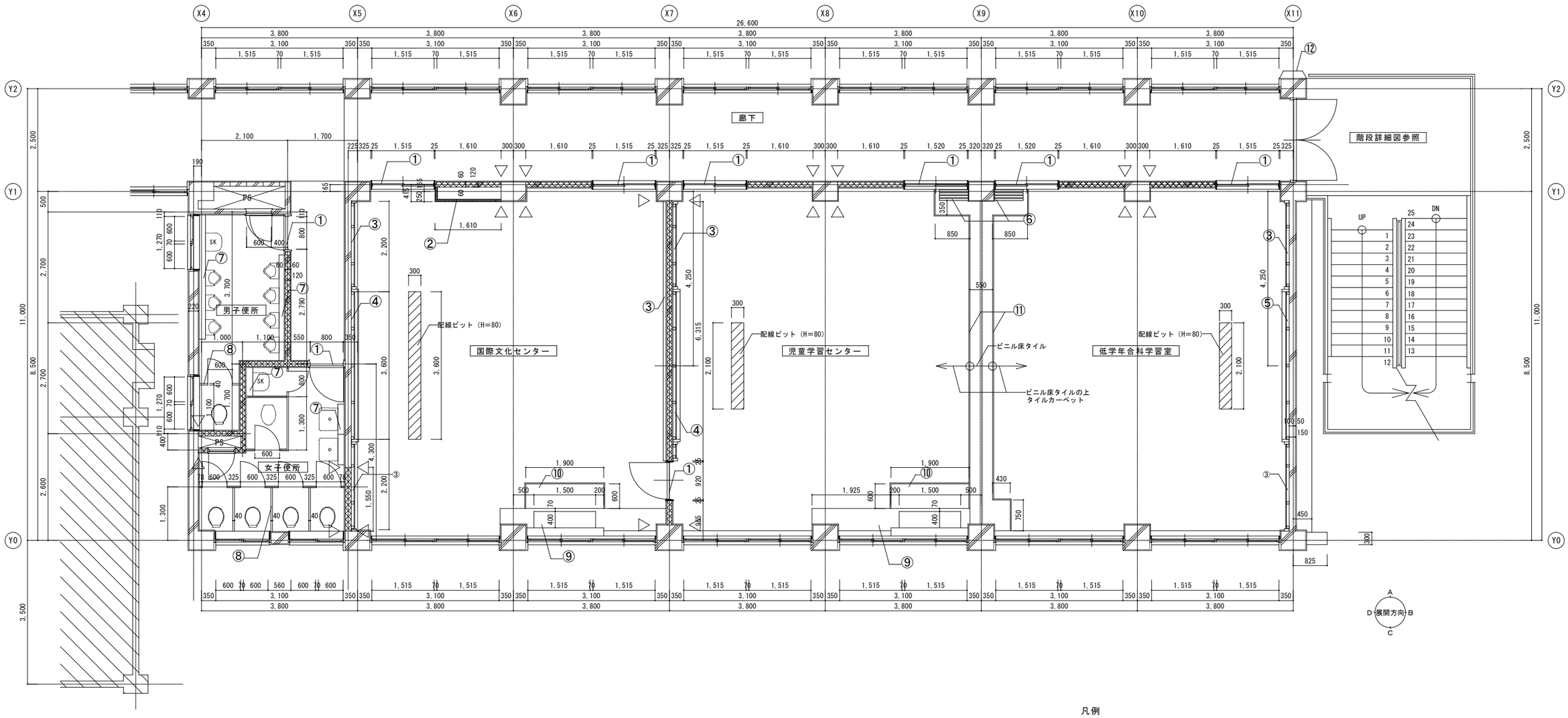
工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　１階　平面詳細図　【改修後】

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

図面区分　建築意匠

図面番号　A-12



2階平面詳細図　1/50

凡例

①	建具　撤去（枠，沓摺共）	⑨	人研流し台　撤去
②	LGS壁　撤去	⑩	床 人研　撤去
③	掲示板（アルミ製枠）撤去	⑪	アルミ製見切 W20　撤去
④	普通黒板（アルミ枠3600×1200）	⑫	モルタル塗　撤去
⑤	上下黒板　撤去（アルミ製枠1800×3600）		RC壁撤去
⑥	スライディングパネル　撤去		配線ピット撤去し，シンダーコンクリートt80　打設
⑦	ライニング　撤去	△	カッター入れを示す
⑧	トイレブース　撤去		

※　衛生機器撤去後スラブをコンクリート穴埋め　〈男女便所共通〉

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

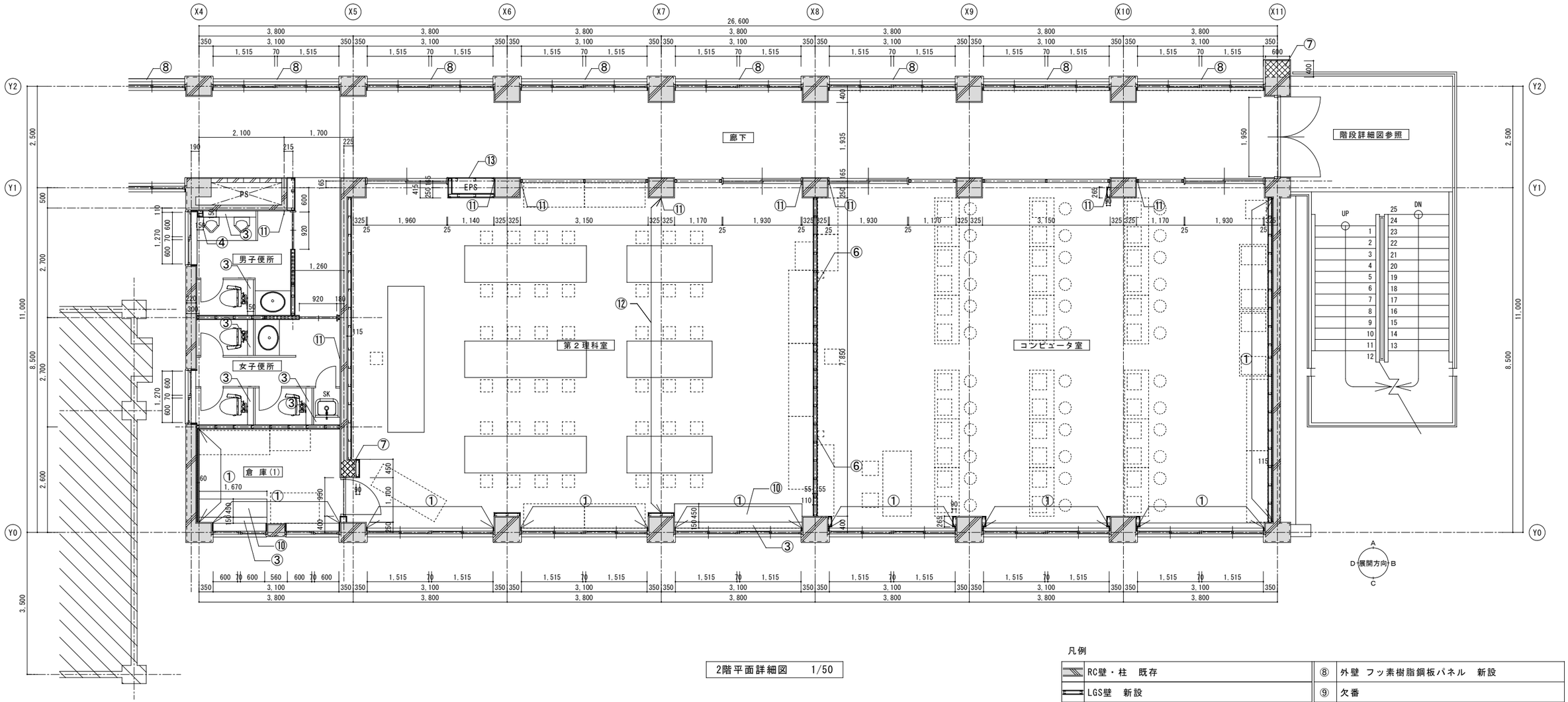
工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　2階　平面詳細図　【既存】

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

図面区分　建築意匠

図面番号　A-13



2階平面詳細図　1/50

凡例

	RC壁・柱　既存	⑧	外壁 フッ素樹脂鋼板パネル　新設
	LGS壁　新設	⑨	欠番
①	断熱材：硬質ウレタンフォームｔ25　吹付範囲	⑩	流し台　（別途）
②	欠番	⑪	コンクリート壁撤去跡モルタル補修
③	ライニング　新設	⑫	(上部梁下)コンクリート壁撤去跡モルタル補修
④	汚垂石　新設	⑬	壁 開口補強　600×900
⑤	欠番		工事外備品
⑥	スピーカー用補強　新設		
⑦	RC柱 増し打ち	※	便器，洗面，ＳＫ，流し台，実験台は設備工事（別途）

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

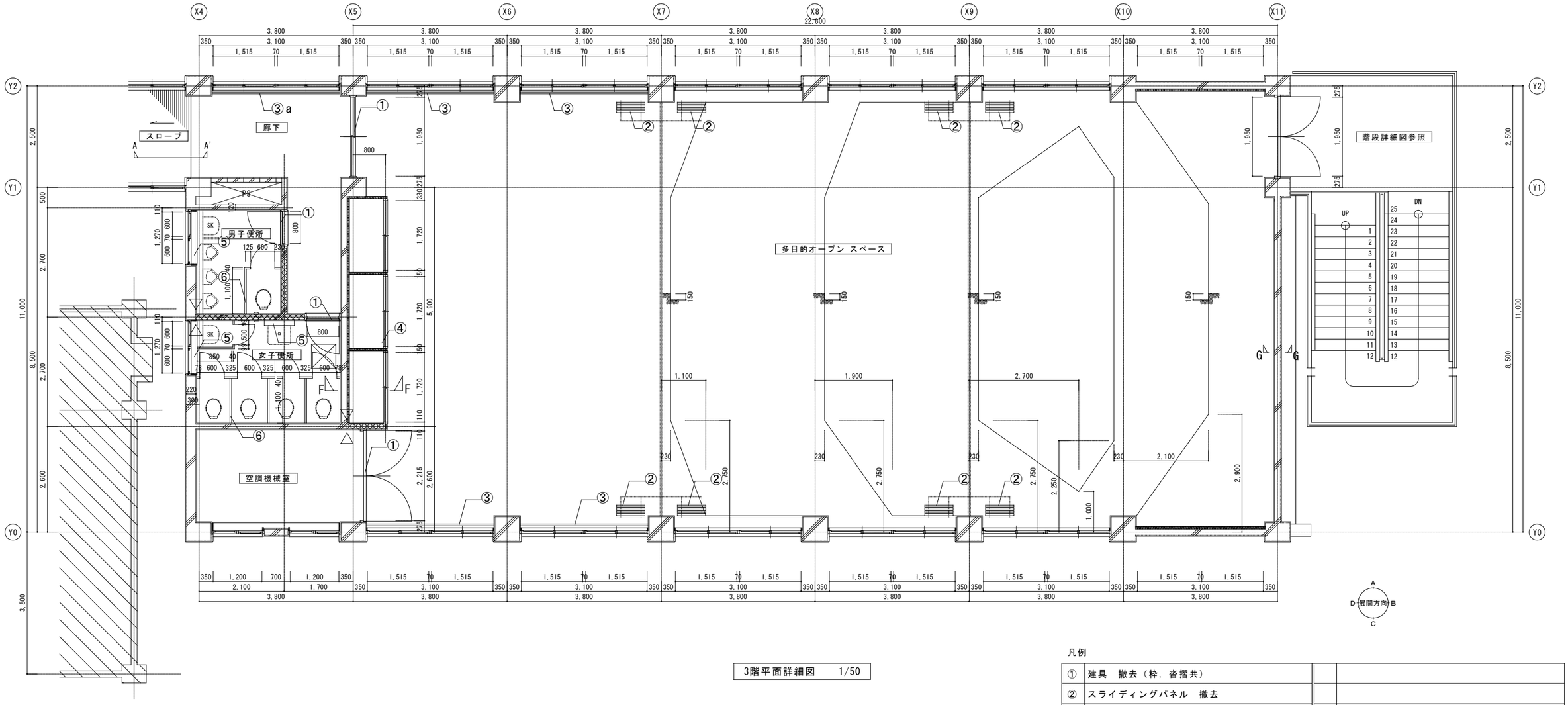
工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　2階　平面詳細図　【改修後】

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

図面区分　建築意匠

図面番号　A-14



3階平面詳細図　1/50

凡例

①	建具　撤去（枠，沓摺共）		
②	スライディングパネル　撤去		
③	手摺SUS製42.7φH＝1200　既存のまま		
④	椅子収納棚　撤去		
⑤	ライニング　撤去		
⑥	トイレブース　撤去		
▨	RC壁撤去		
△	カッター入れを示す		
A A	雑詳細図参照		

※　衛生機器撤去後スラブをコンクリート穴埋め　〈男女便所共通〉

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

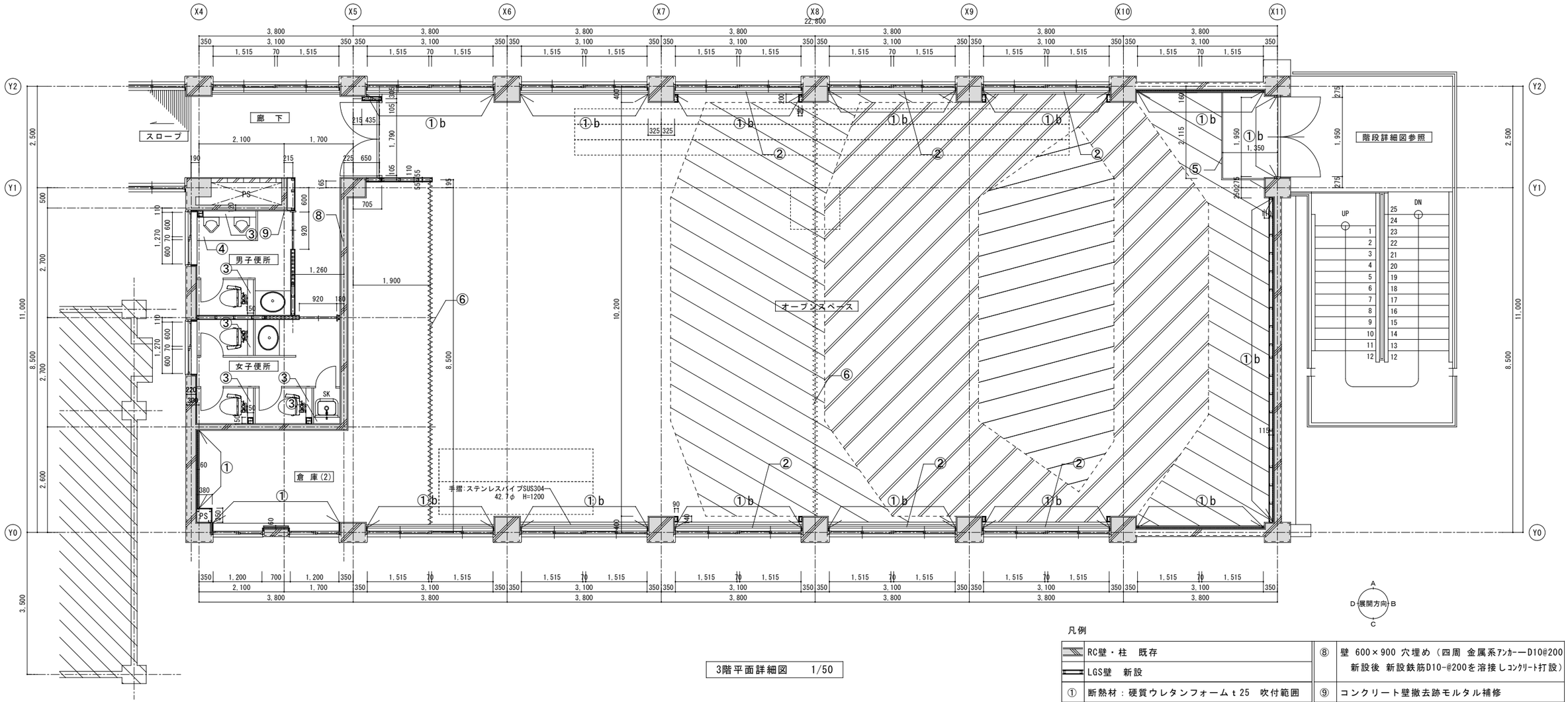
工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　3階　平面詳細図　【既存】

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

図面区分　建築意匠

図面番号　A-15



3階平面詳細図　1/50

凡例

	RC壁・柱　既存	⑧	壁 600×900 穴埋め（四周 金属系ｱﾝｶｰ―D10@200 新設後 新設鉄筋D10-@200を溶接しｺﾝｸﾘｰﾄ打設）
	LGS壁　新設		
①	断熱材：硬質ウレタンフォームｔ25　吹付範囲	⑨	コンクリート壁撤去跡モルタル補修
①b	梁のみ断熱材		鋼製床下地　H450　新設範囲
②	ステンレスパイプ42.7φ　新設		鋼製床下地　H300　新設範囲
③	ライニング　新設		鋼製床下地　H150　新設範囲
④	汚垂石　新設		工事外備品
⑤	ステンレス製上り框　新設	※	便器，洗面，ＳＫ，流し台，実験台は設備工事（別途）
⑥	カーテンレール（別途）		
⑦	欠番		

株式会社 綜企画設計

承認	製図	特記

東京学芸大学
財務施設部 施設課

課長	副課長	係長	主任

工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

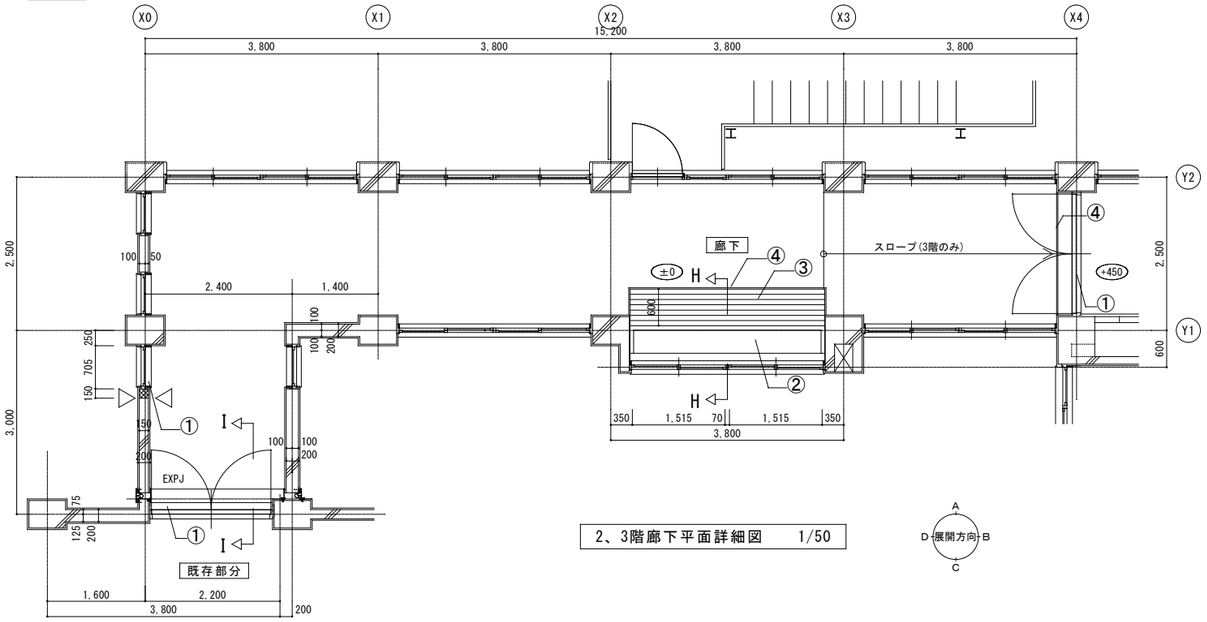
図面内容　3階　平面詳細図　【改修後】

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

図面区分　建築意匠

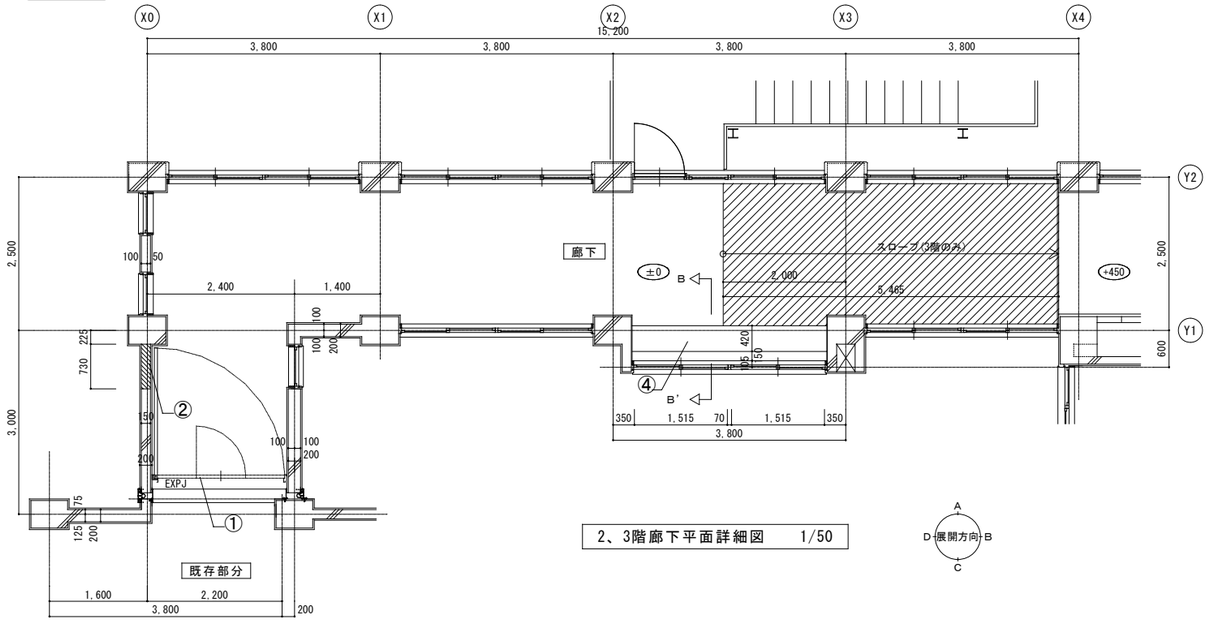
図面番号　A-16

既存

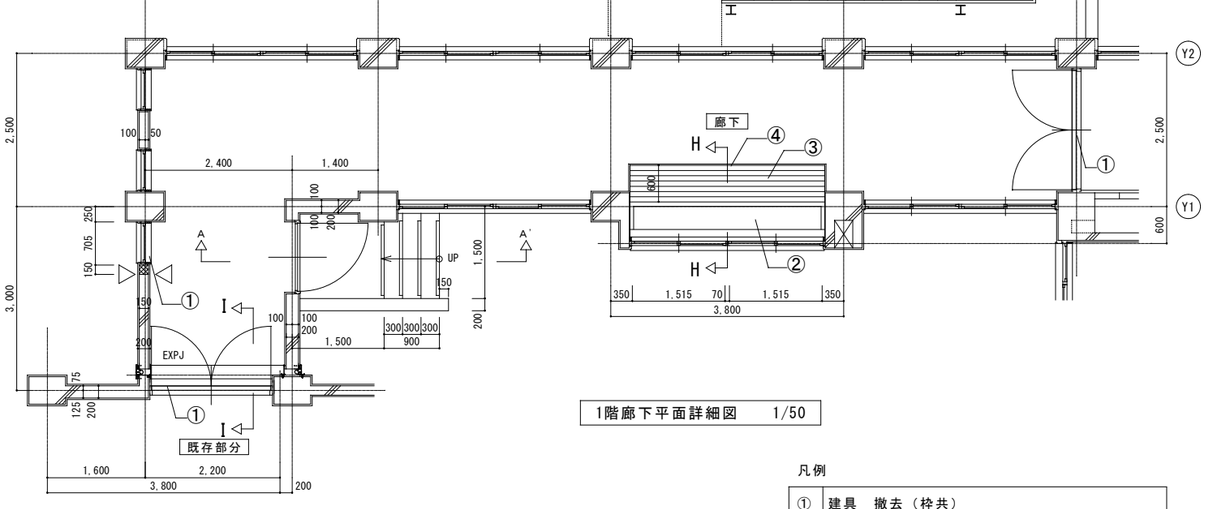


2、3階廊下平面詳細図　1/50

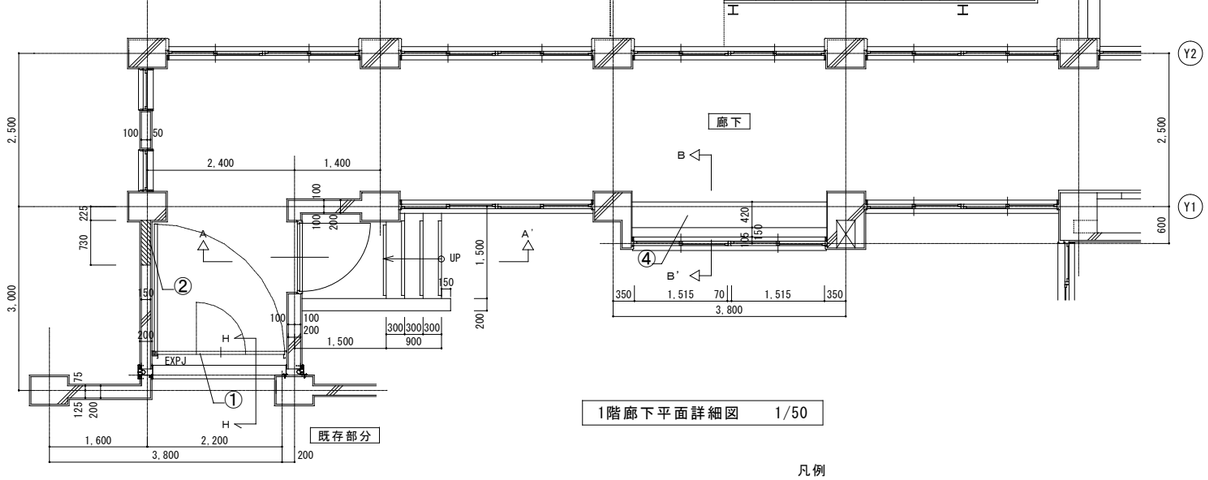
改修後



2、3階廊下平面詳細図　1/50



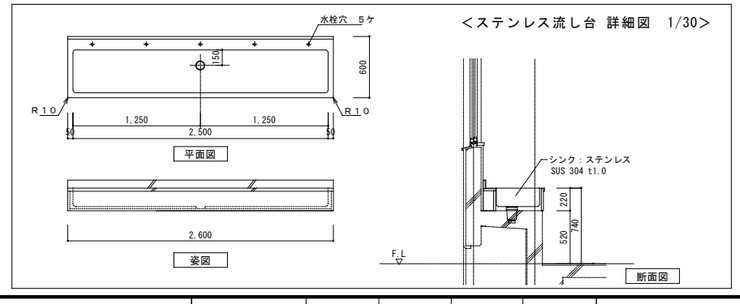
1階廊下平面詳細図　1/50



1階廊下平面詳細図　1/50

凡例

①	建具　撤去（枠共）
②	人研流し石　撤去
③	床：ノンスリップビニル床シートはり　撤去
④	アルミ製見切W20　撤去
▩	RC壁撤去　既存鉄筋残し
△	カッター入れを示す



凡例

①	建具　新設（枠共）
②	コンクリート打設＜D10-@200ダブル＞
③	欠番
④	ステンレス流し台　新設
▨	床増し打ち

株式会社 綜企画設計

承認	製図	特記

東京学芸大学
財務施設部 施設課

課長	副課長	係長	主任

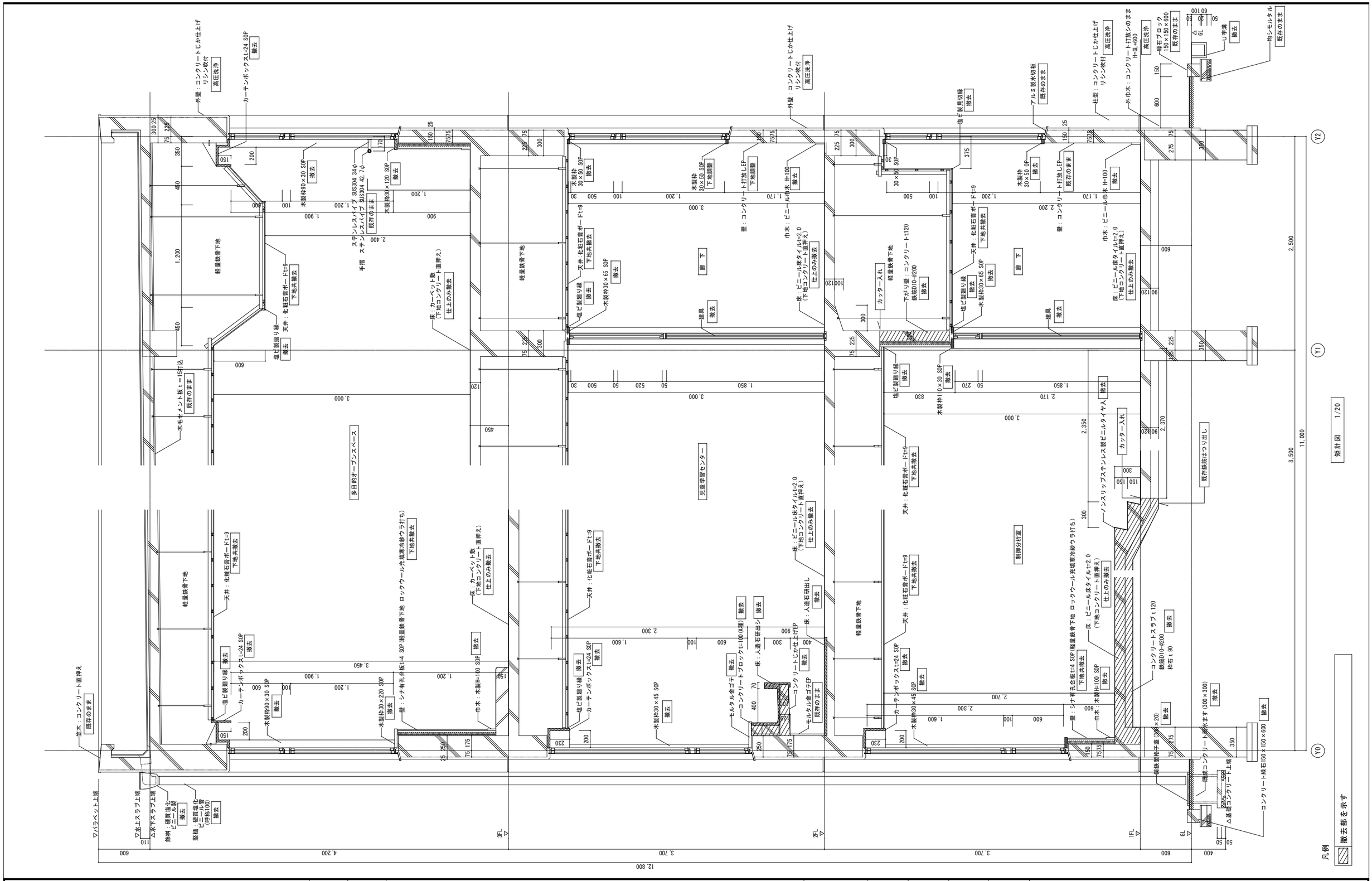
工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　廊下詳細図【既存・改修後】

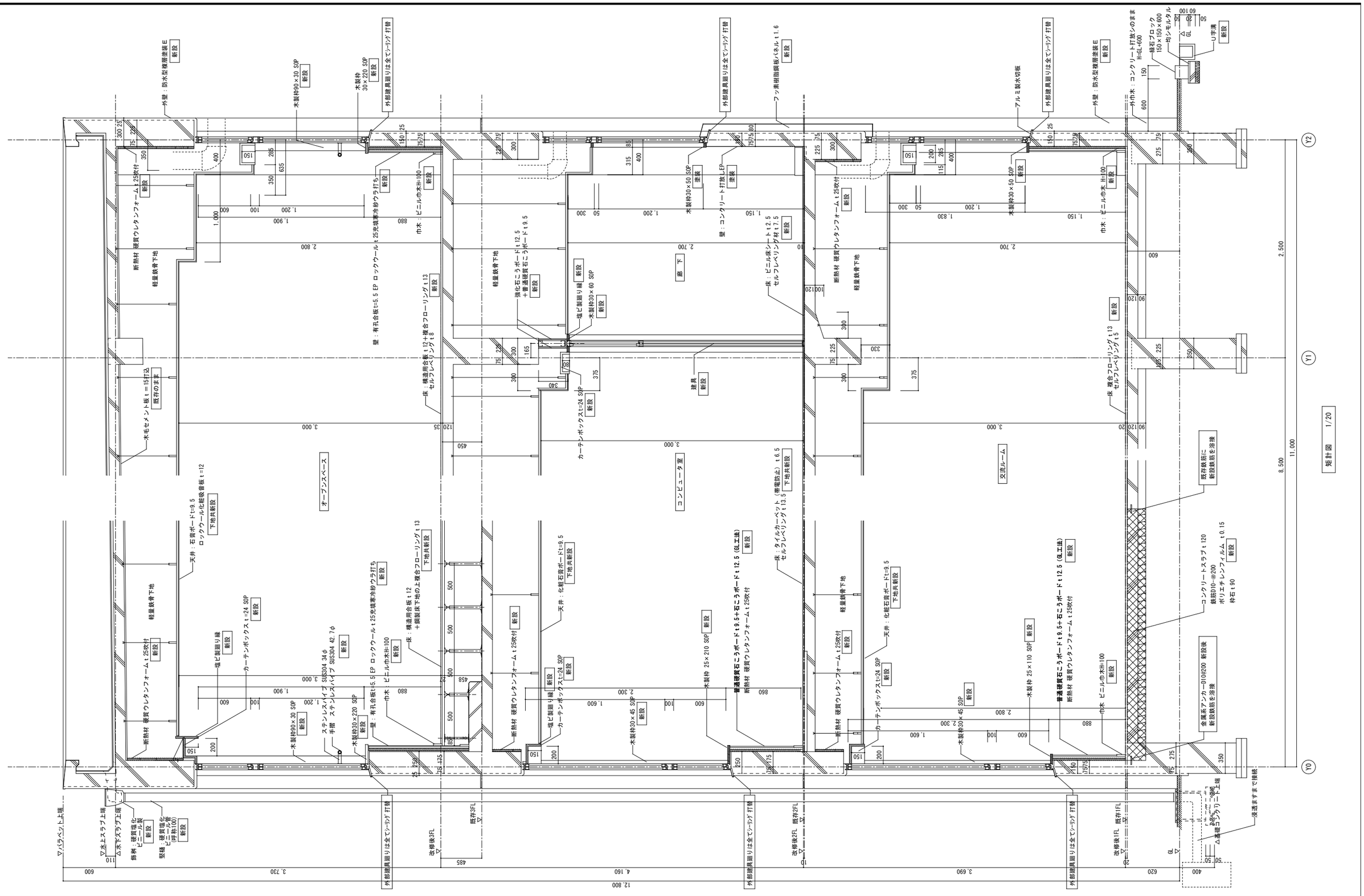
縮尺　A1：1/50　1/20　1/5

図面区分　建築意匠

図面番号　A-17

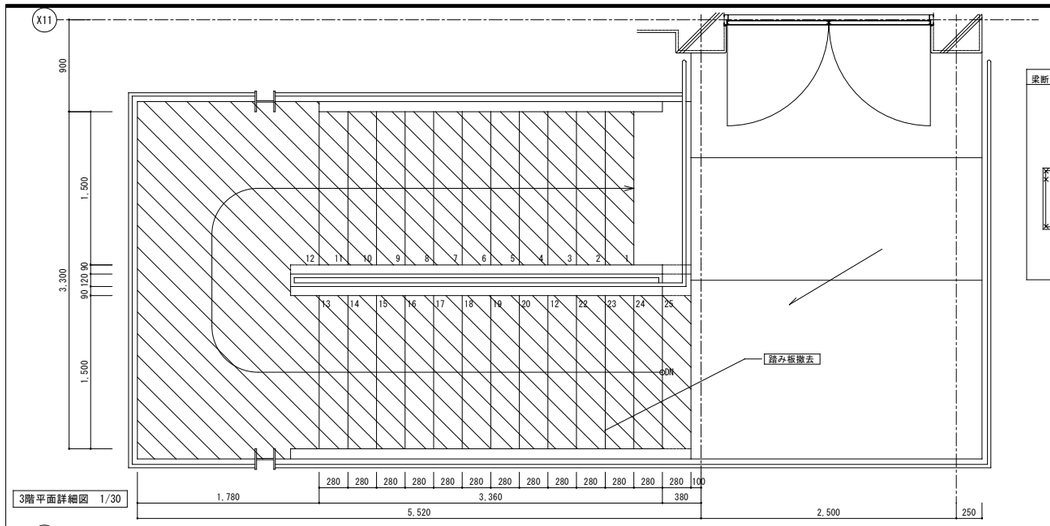


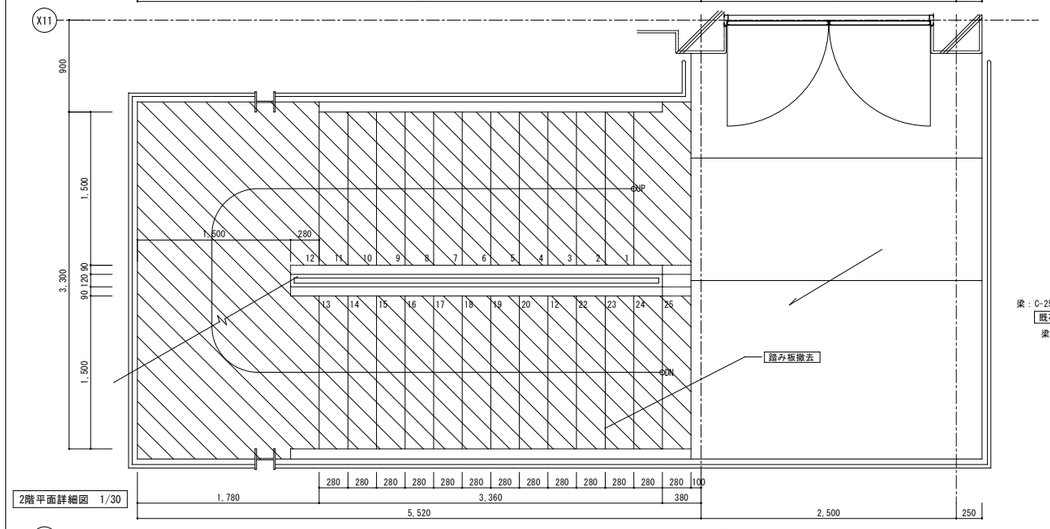
株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容 矩計図 【既存】	縮尺 A1：1/20 A3：1/40	図面区分 建築意匠 図面番号 A-18

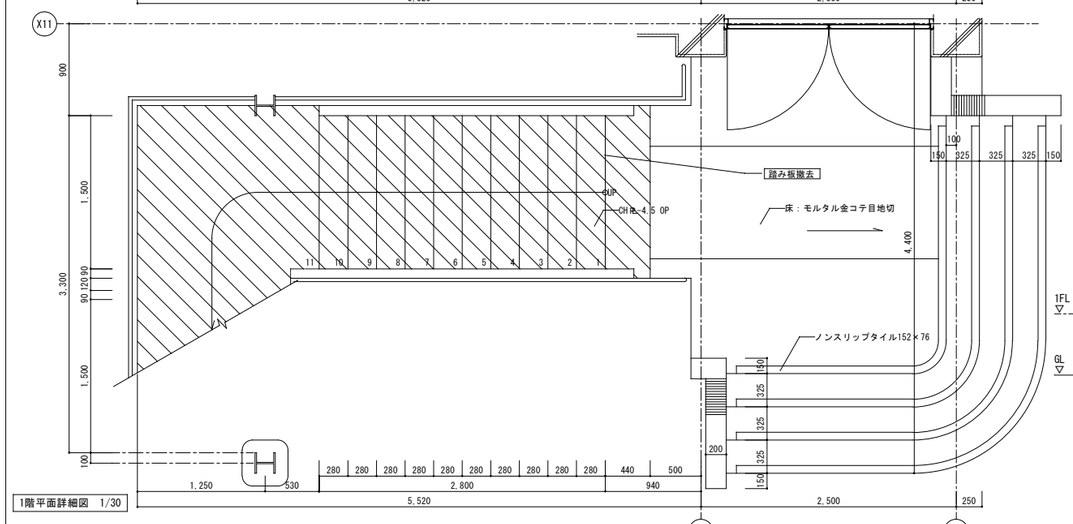


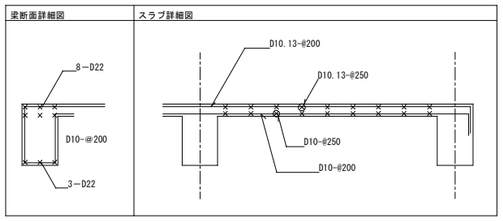
矩計図 1/20

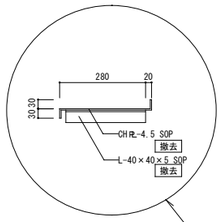
株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容 矩計図 【改修後】	縮尺 A1：1/20 A3：1/40	図面区分 建築意匠 図面番号 A-19

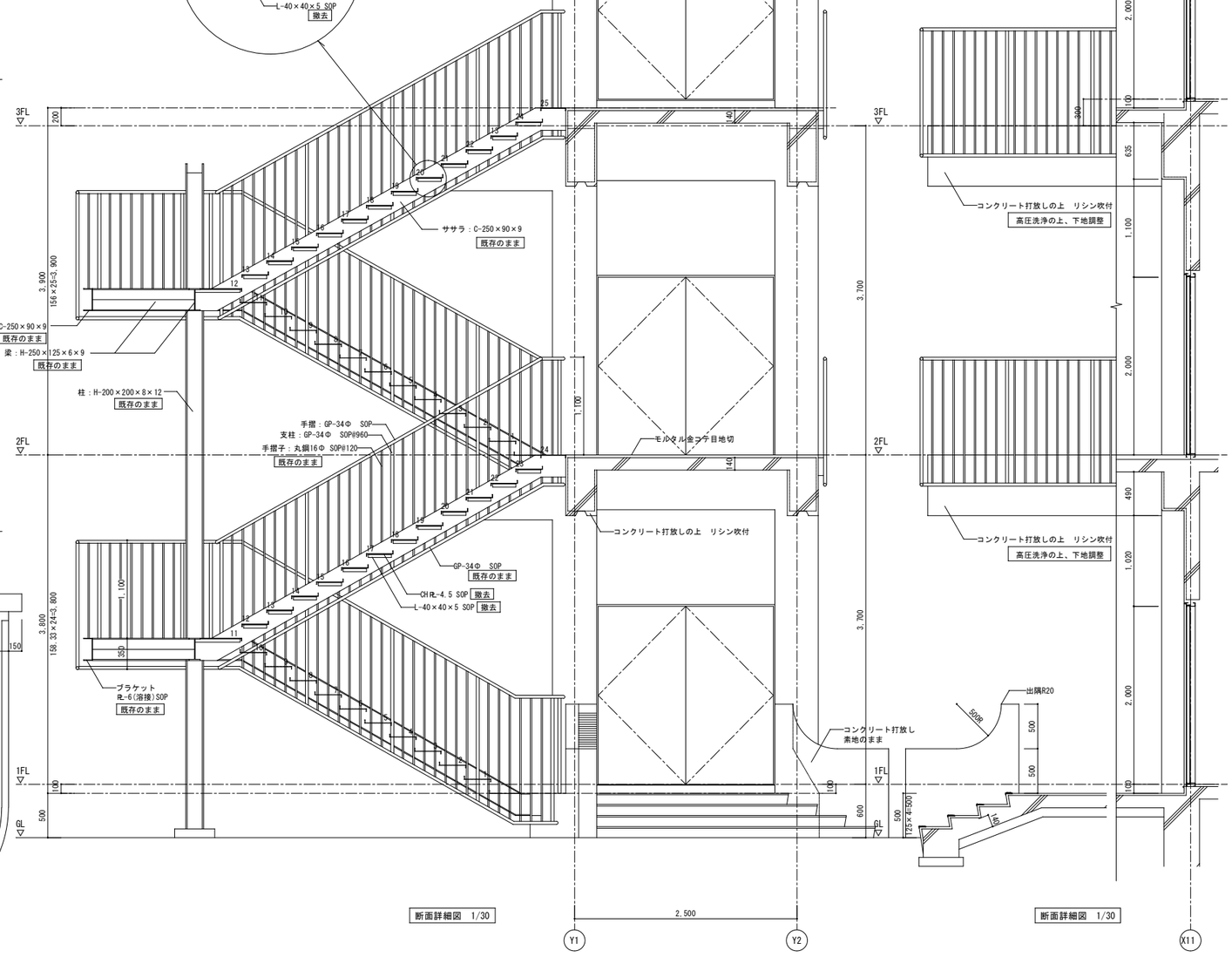












株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

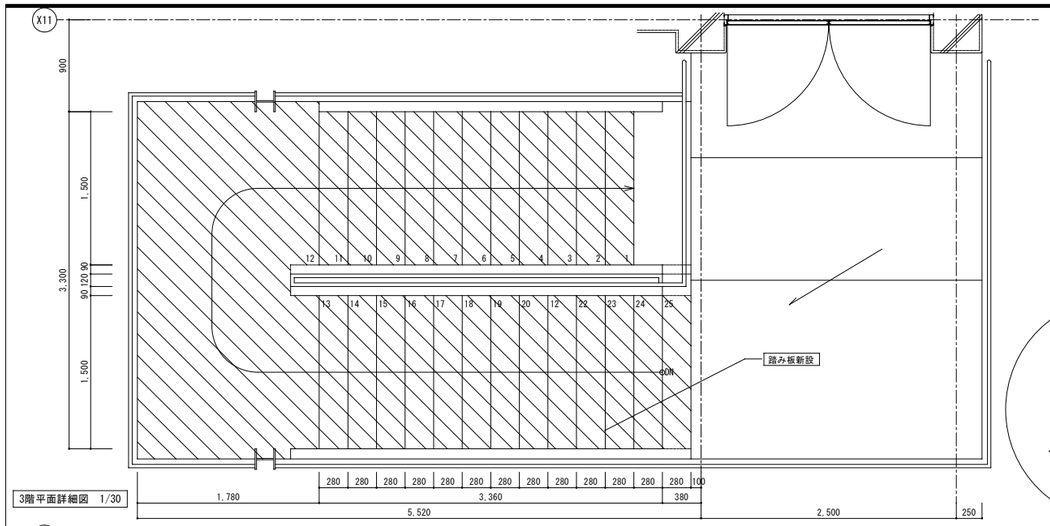
工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

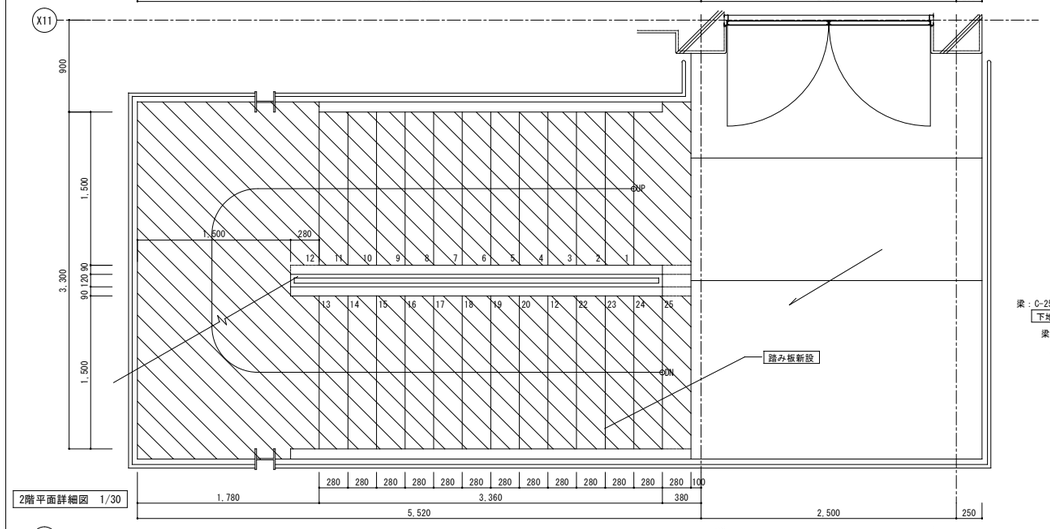
図面内容 階段詳細図（1）【既存】

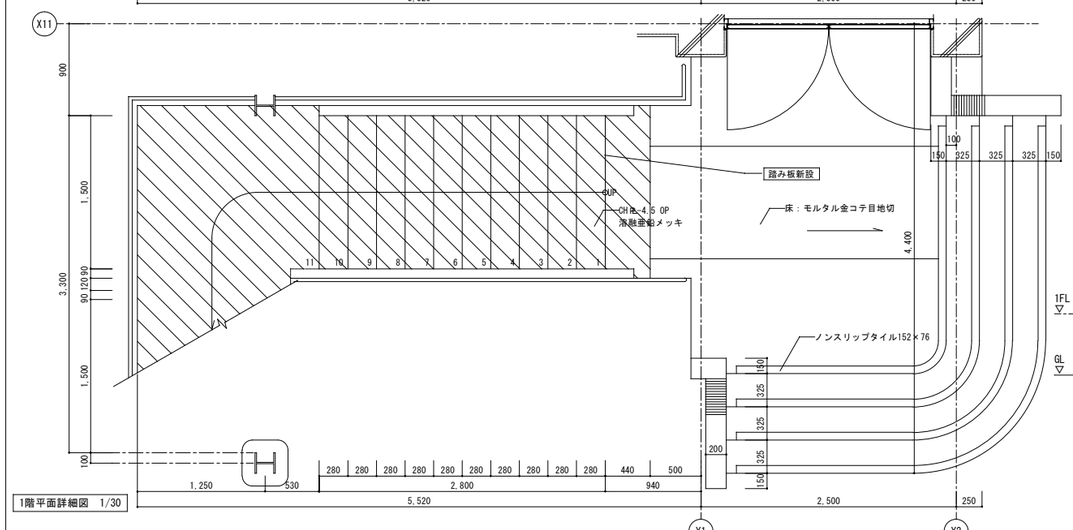
縮尺 A1：1/30 A3：1/60

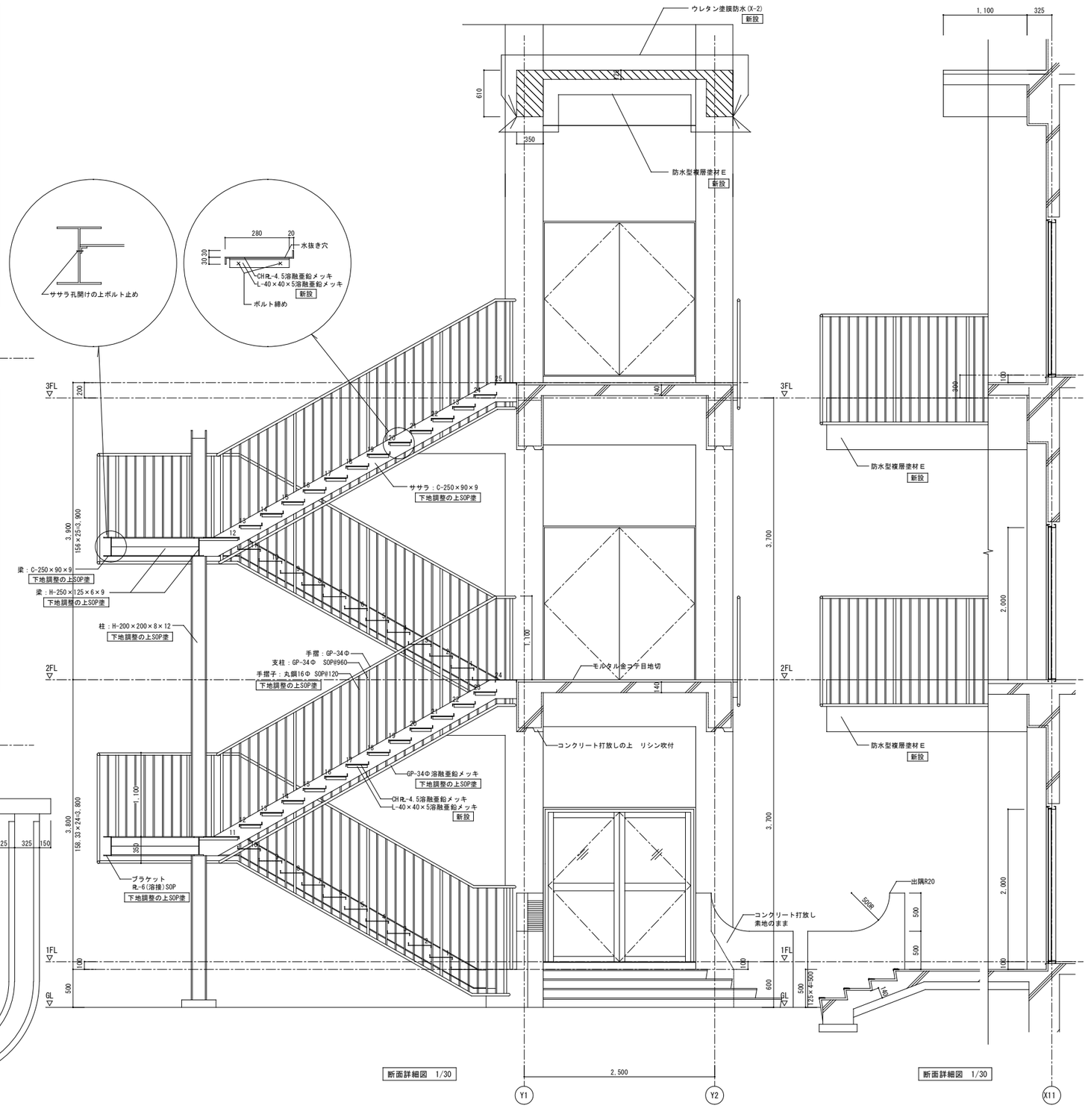
図面区分 建築意匠

図面番号 A-20









株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

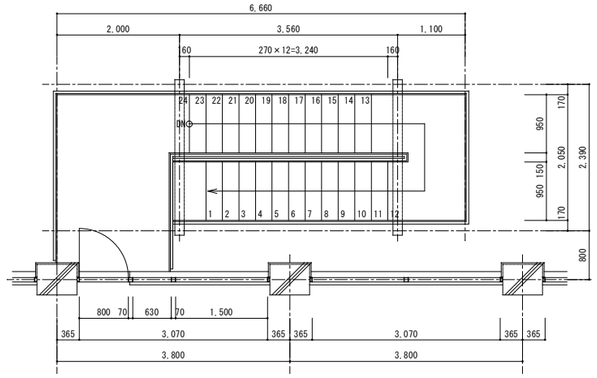
工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容 階段詳細図（1）【改修後】

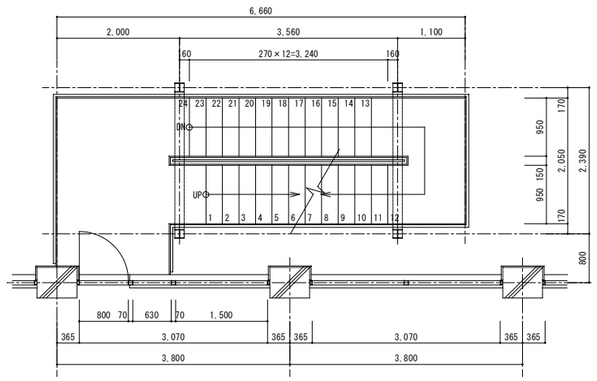
縮尺 A1：1/30 A3：1/60

図面区分 建築意匠

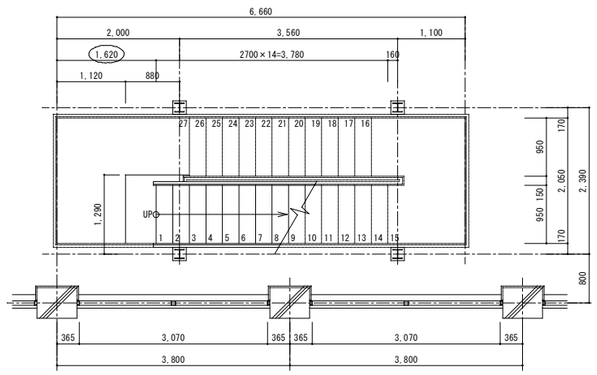
図面番号 A-21



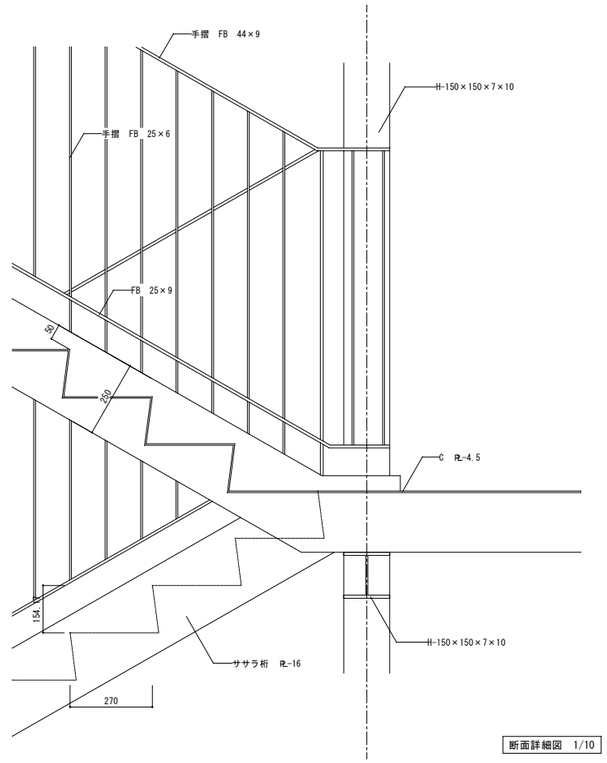
3階平面詳細図　1/50

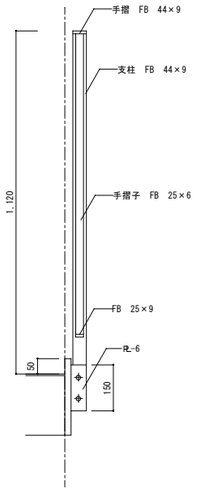


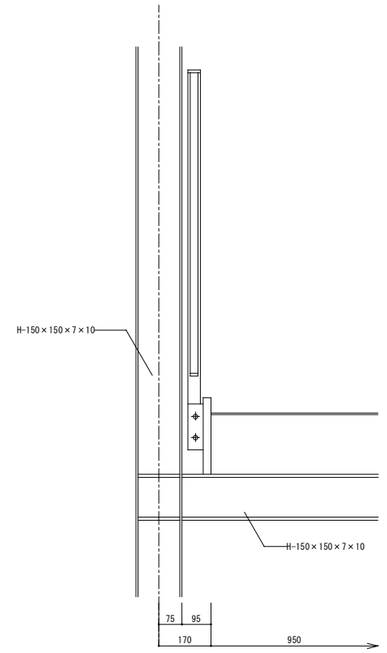
2階平面詳細図　1/50



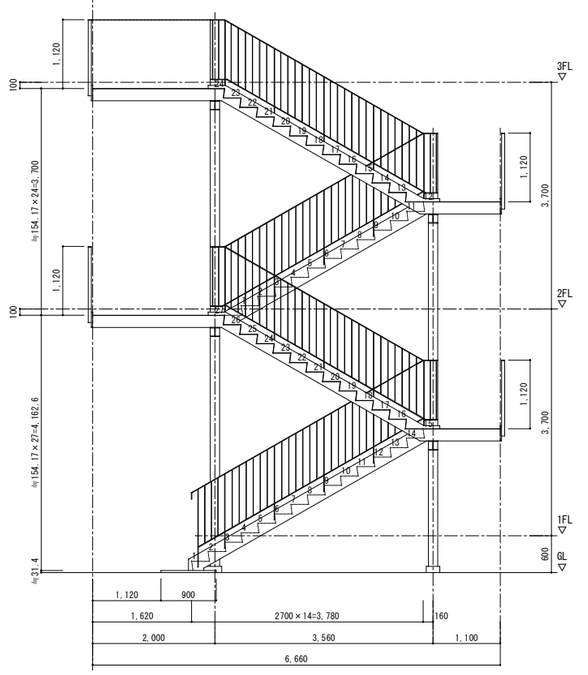
1階平面詳細図　1/50







断面詳細図　1/10

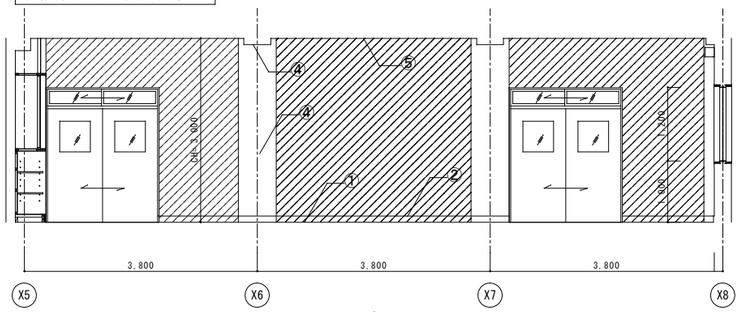


断面詳細図　1/50

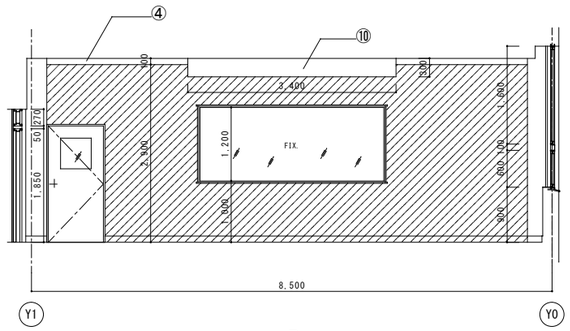
鉄部　下地調整の上ＳＯＰ塗

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事 図面内容 階段詳細図(2)【既存・改修後】 縮尺 A1：1/50 A3：1/100 図面区分 建築意匠 図面番号 A-22

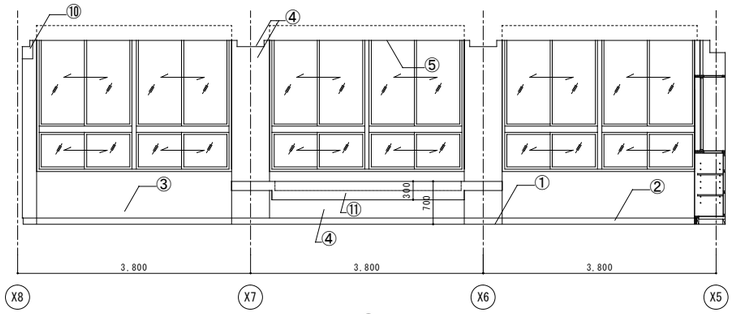
教授学習方法開発実験室



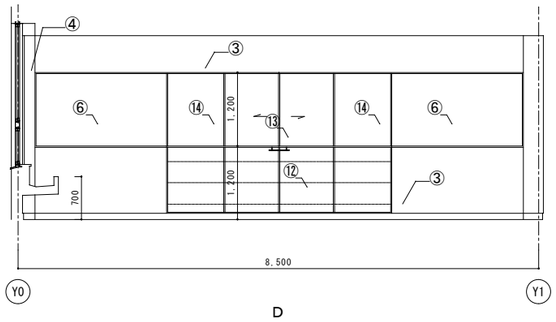
A



B



C

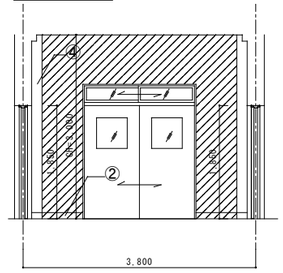


D

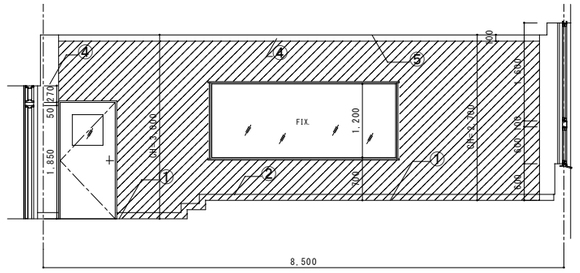
仕上概要

	仕上げ	改修内容
①	床:ビニル床タイル（半硬質） t2.0	仕上げ撤去
②	幅木:木製幅木ＳＯＰ	仕上げ撤去
③	壁:シナ合板 t4.0（ロックウール t25充填 寒冷紗ウラ打ち）ＳＯＰ	下地共撤去
④	柱型・梁型・腰壁:モルタル金こて仕上ＥＰ	下地調整
⑤	天井・梁型:化粧せっこうボード（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ） t9.0	下地共撤去
⑥	掲示板（木枠）	撤去
⑦	上下黒板（アルミ枠）	撤去
⑧	掲示板（アルミ枠）	撤去
⑨	床:タイルカーペット t6.5	仕上げ撤去
⑩	カーテンボックス t24ＳＯＰ	撤去
⑪	人研流し台	撤去
⑫	棚	撤去
⑬	引分黒板	撤去
⑭	黒板	撤去
	ＲＣ壁撤去範囲	

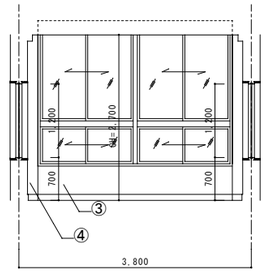
制御分析室



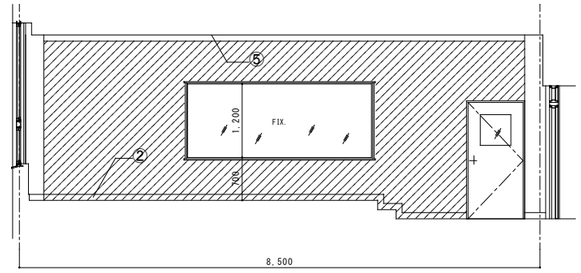
A



B

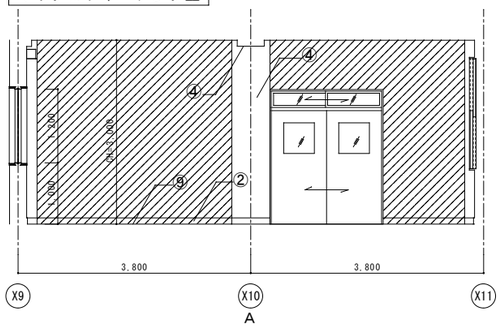


C

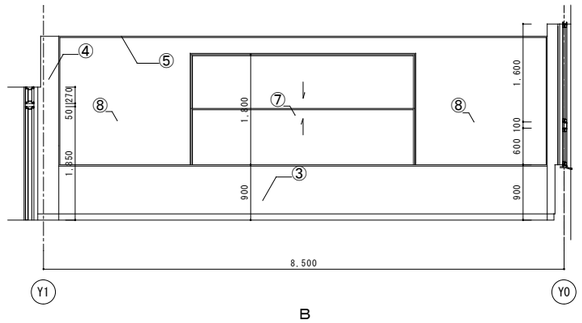


D

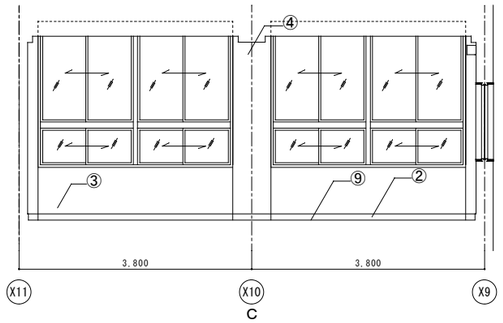
マイクロティーチング室



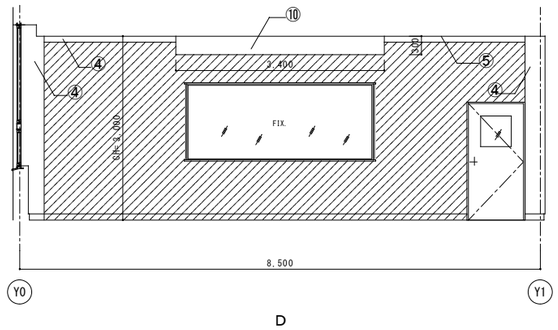
A



B



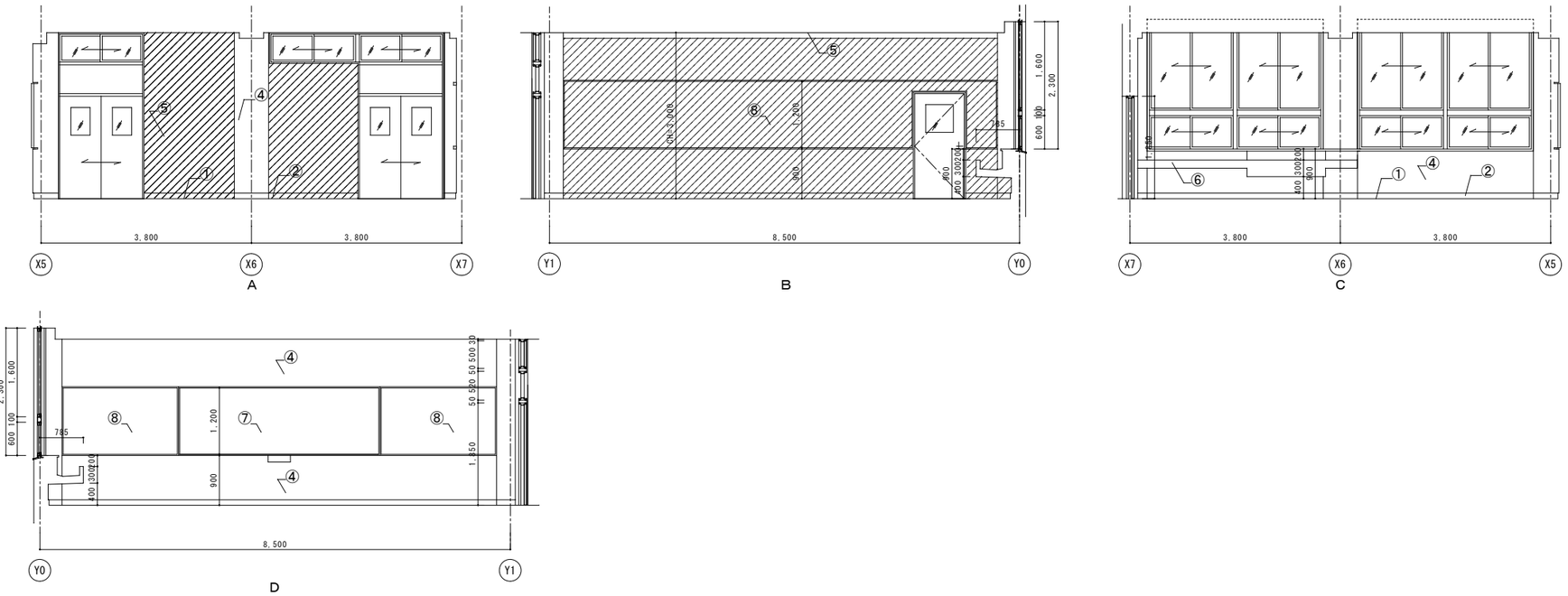
C



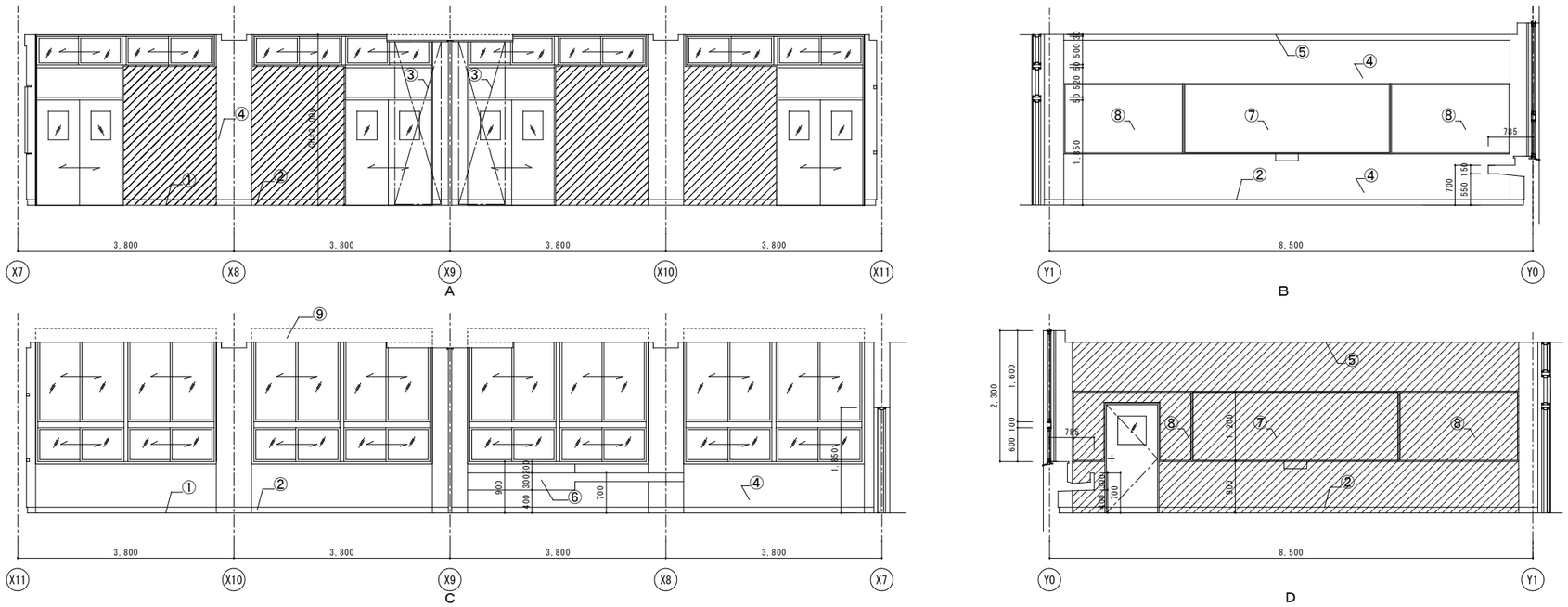
D

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容	展開図-1【既存】	縮尺 A1：1/50 A3：1/100	図面区分 建築意匠 図面番号 A-23

国際文化センター



児童学習センター
低学年合科学習室



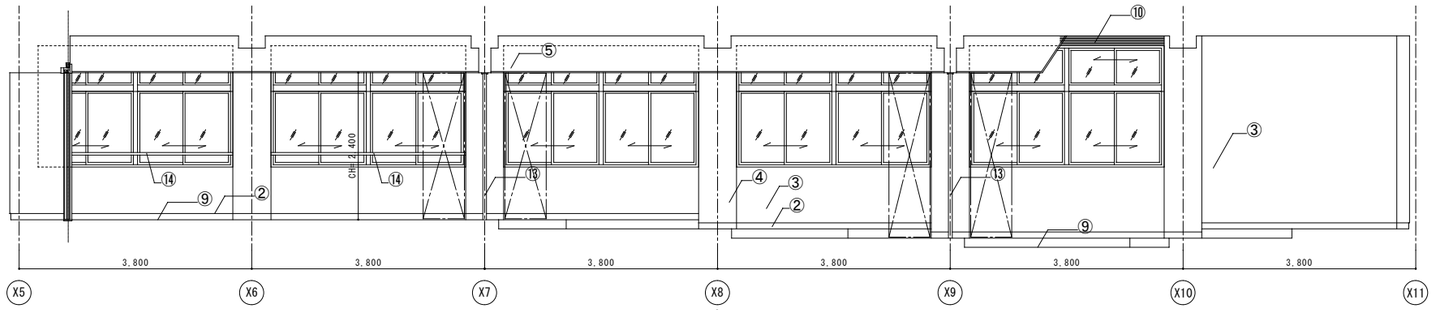
仕上概要

	仕上げ	改修内容
①	床:ビニル床タイル（半硬質） t 2.0	仕上げ撤去
②	幅木:ビニル幅木	仕上げ撤去
③	スライディングパネル	撤去
④	柱型・梁型・腰壁:モルタル金こて仕上ＥＰ	下地調整
⑤	天井・梁型・壁:化粧せっこうボード(ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ)t9.0	下地共撤去
⑥	人研流し台	撤去
⑦	普通黒板（W3600H1200）	撤去
⑧	掲示板	撤去
⑨	カーテンボックス	撤去
	ＲＣ壁撤去範囲	

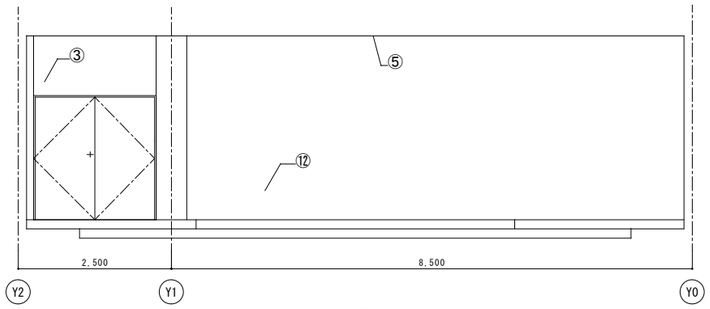
株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事
									図面内容 展開図-2【既存】

縮尺	図面区分	図面番号
A1：1/50 A3：1/100	建築意匠	A-24

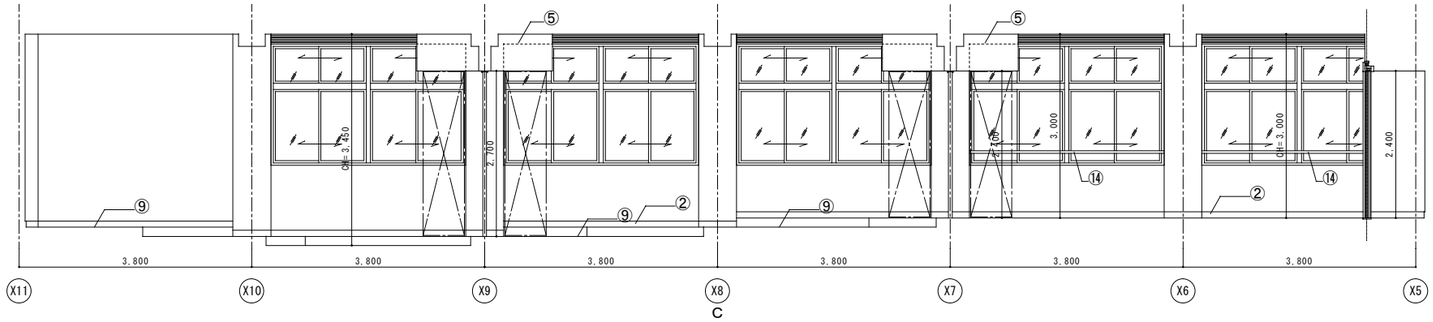
多目的オープンスペース



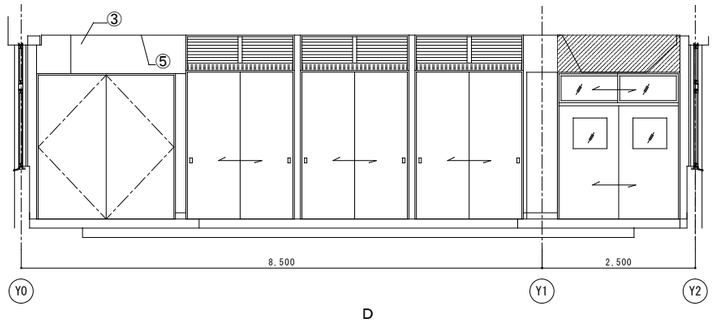
A



B

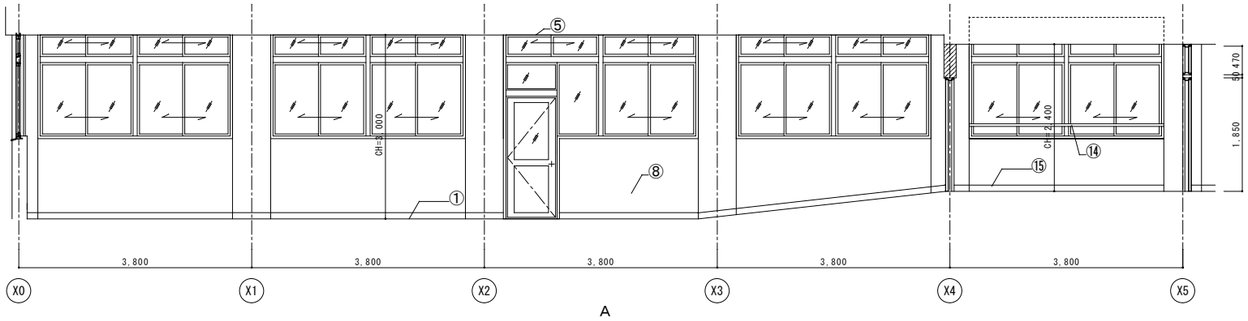


C

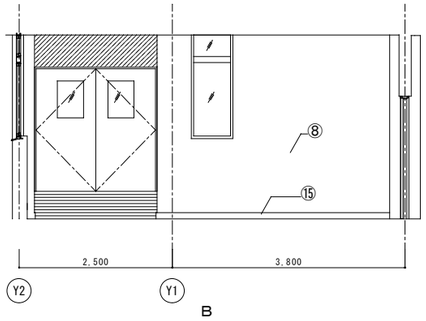


D

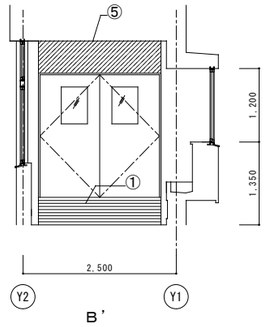
3階　廊下



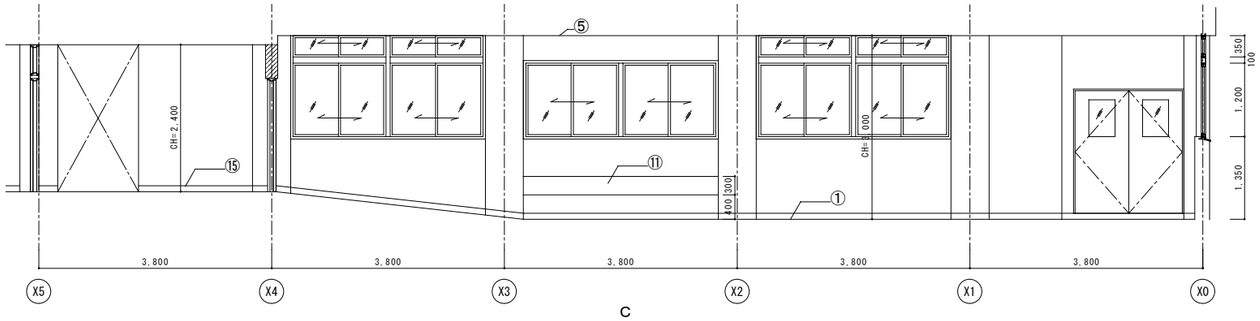
A



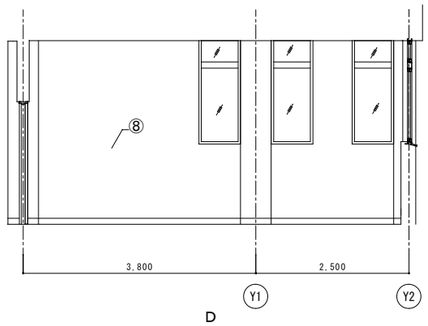
B



B'



C



D

仕上概要

	仕上げ	改修内容
①	床:ビニル床タイル（半硬質） t2.0	仕上げ撤去
②	幅木:木製幅木ＳＯＰ	仕上げ撤去
③	壁:シナ合板ｔ4.0（ロックウール	下地共撤去
	ｔ25充填 寒冷紗ウラ打ち）ＳＯＰ	
④	柱型・梁型・腰壁:モルタル金こて仕上ＥＰ	下地調整
⑤	天井・梁型:化粧せっこうボード（ﾄﾗﾝﾊﾟｰﾁﾝ） t9.0	下地共撤去
⑥	欠番	-
⑦	欠番	-
⑧	壁:コンクリート打放ＥＰ	既存のまま
⑨	床:タイルカーペットｔ6.5	仕上げ撤去
⑩	カーテンボックス200×150ワランｔ25ＳＯＰ	撤去
⑪	人研流し台	撤去
⑫	飾り壁:コンクリート打放しの上クロス貼	仕上げ撤去
⑬	スライディングパネル	撤去
⑭	手摺:ステンレスパイプφ42.7	既存のまま
⑮	幅木:ビニル幅木	仕上げ撤去
	ＲＣ壁撤去範囲	

株式会社 綜企画設計

承認	製図	特記

東京学芸大学
財務施設部 施設課

課長	副課長	係長	主任

工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

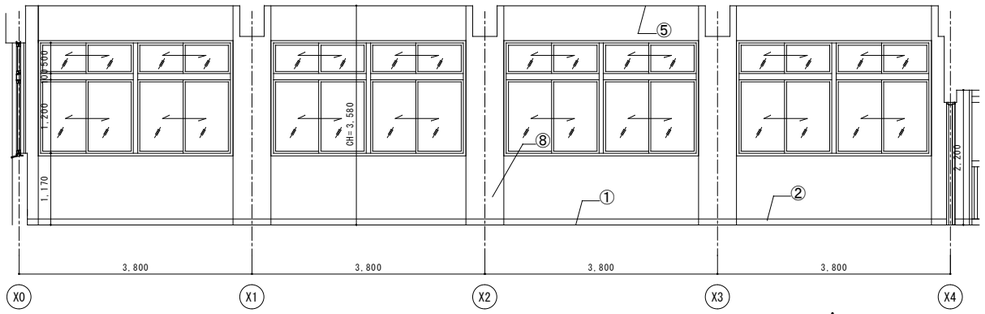
図面内容 展開図-3【既存】

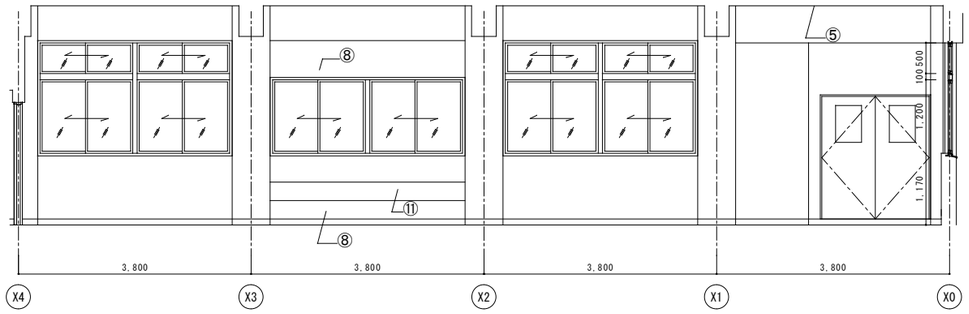
縮尺 A1：1/50 A3：1/100

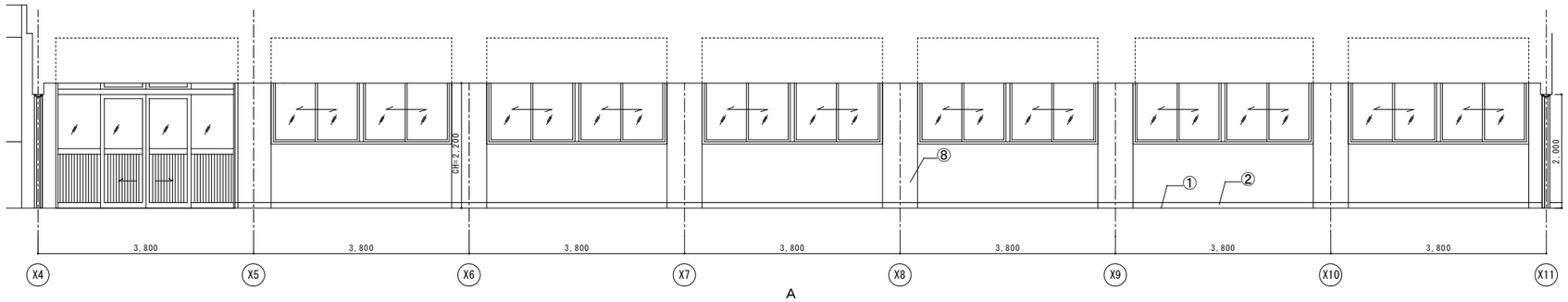
図面区分 建築意匠

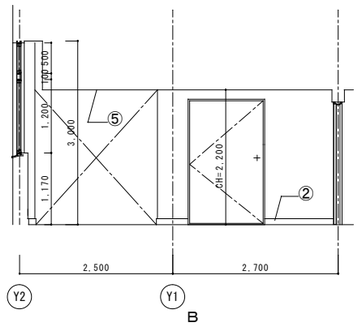
図面番号 A-25

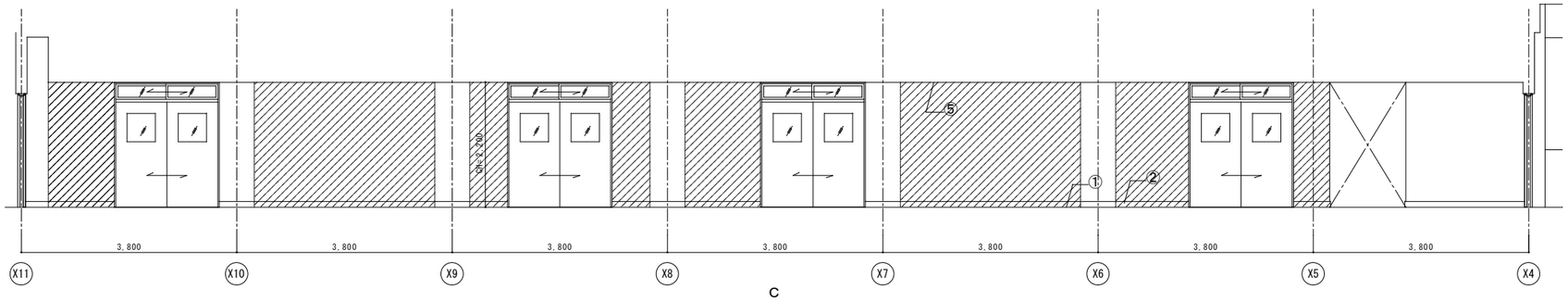
1階　廊下

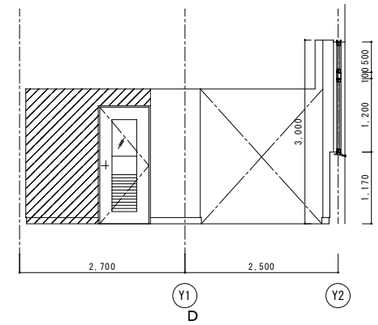




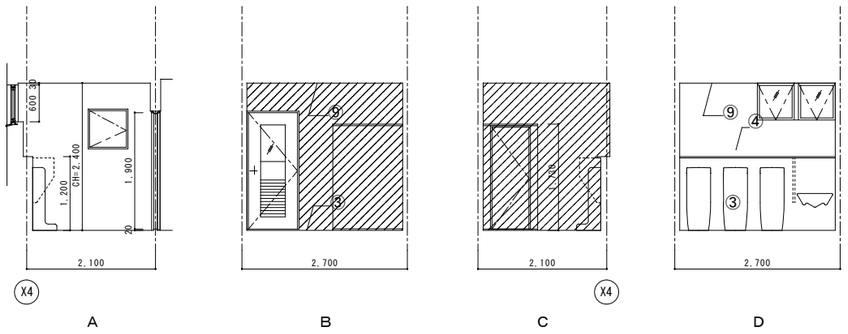




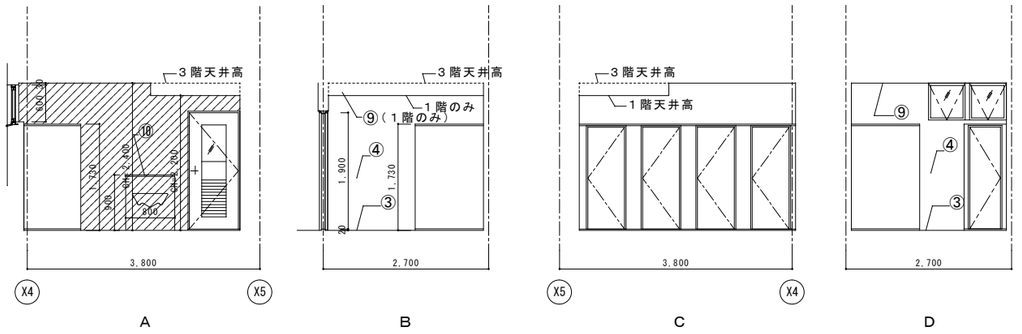




1，3階　男子便所



1，3階　女子便所



仕上概要

	仕上げ	改修内容
①	床：ビニル床タイル（半硬質） t2.0	仕上げ撤去
②	幅木：ビニル幅木	仕上げ撤去
③	床：ビニル床シート t2.0	仕上げ撤去
④	柱型・梁型・腰壁：モルタル金こて仕上ＥＰ	既存のまま
⑤	天井・梁型：化粧せっこうボード（ﾄﾗﾝﾊﾟｰﾁﾝ） t9.0	下地共撤去
⑥	欠番	–
⑦	欠番	–
⑧	壁・柱型：コンクリート打放ＥＰ	既存のまま
⑨	梁型・天井：石綿ｽﾚｰﾄﾌﾚｷｼﾌﾞﾙ板t4.0ＥＰ（目ｽｶｼ張り）	下地共撤去
⑩	甲板：内装タイル貼	撤去
⑪	人研流し台	撤去
	ＲＣ壁撤去範囲	

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

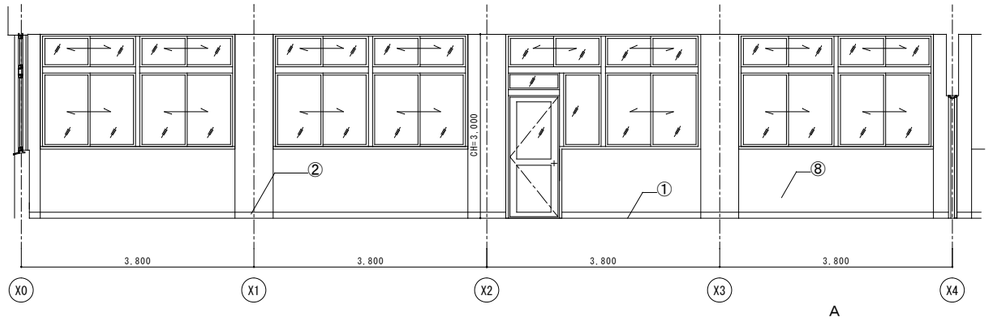
図面内容　展開図-4【既存】

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

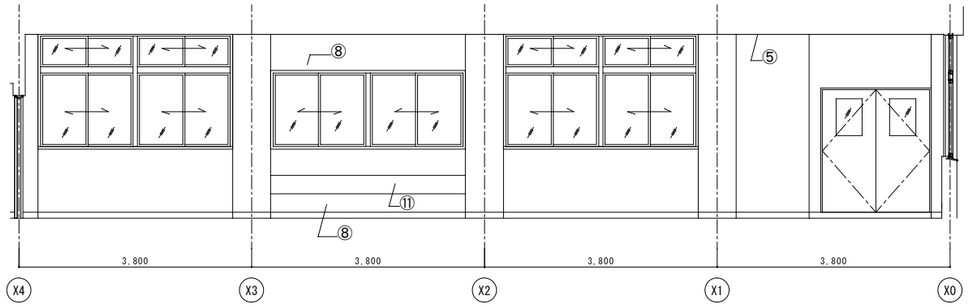
図面区分　建築意匠

図面番号　A-26

2階　廊下



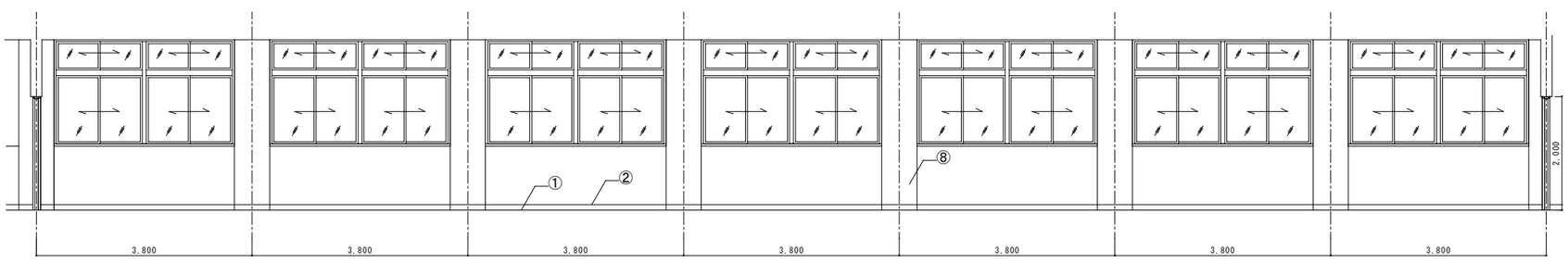
A



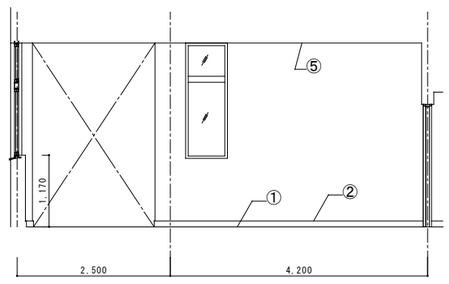
C

仕上概要

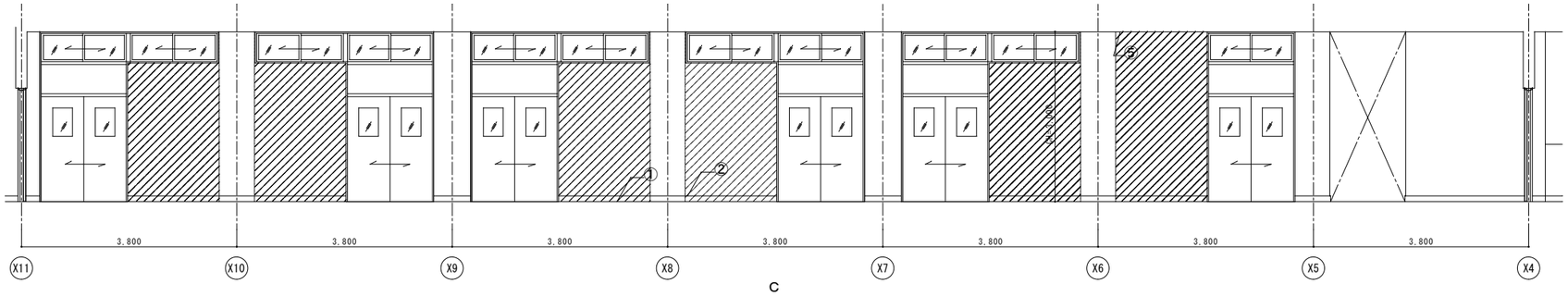
	仕上げ	改修内容
①	床：ビニル床タイル（半硬質） t2.0	仕上げ撤去
②	幅木：ビニル幅木	仕上げ撤去
③	床：ビニル床シート t2.0	仕上げ撤去
④	柱型・梁型・腰壁：モルタル金こて仕上ＥＰ	既存のまま
⑤	天井・梁型：化粧せっこうボード（ﾄﾗﾝﾊﾟｰﾁﾝ） t9.0	下地共撤去
⑥	欠番	–
⑦	欠番	–
⑧	壁・柱型：コンクリート打放ＥＰ	既存のまま
⑨	梁型・天井：石膏ﾗｽﾄﾌﾙｷｯﾌﾟﾎﾞﾄﾞ板t4.0EP（目ｽｶｼ張り）	下地共撤去
⑩	欠番	撤去
⑪	人研流し台	撤去
	ＲＣ壁撤去範囲	



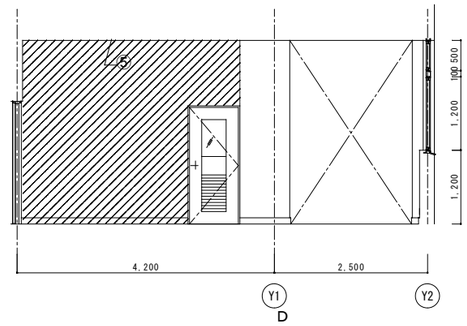
A



B

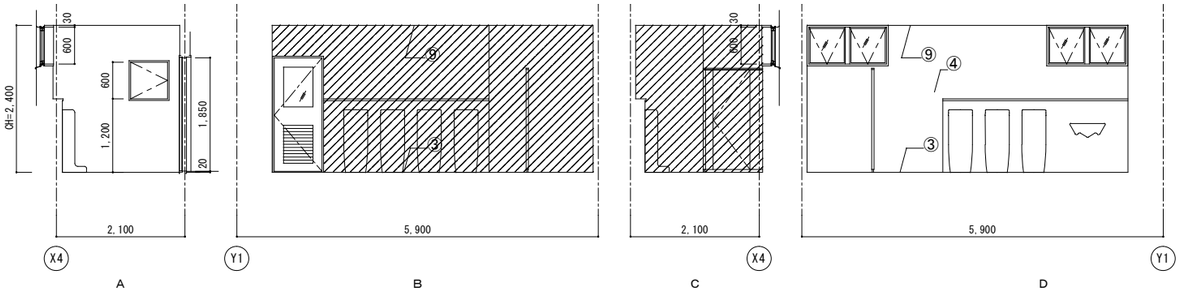


C



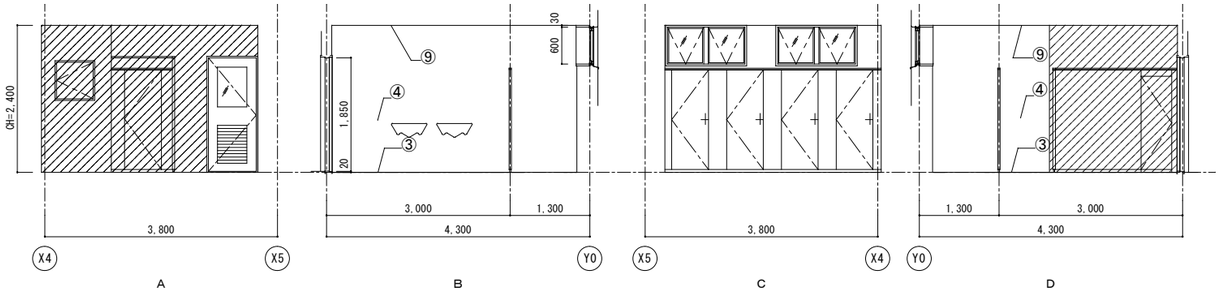
D

2階　男子便所



A　B　C　D

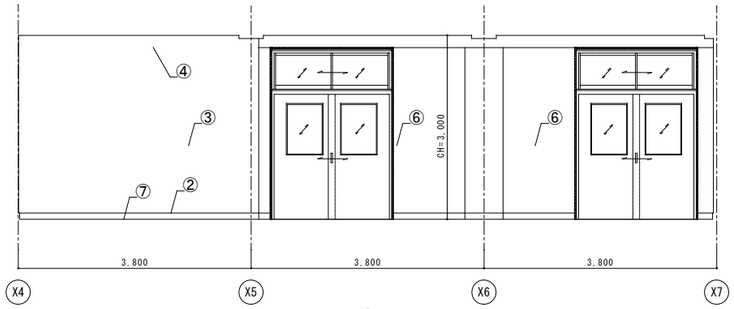
2階　女子便所



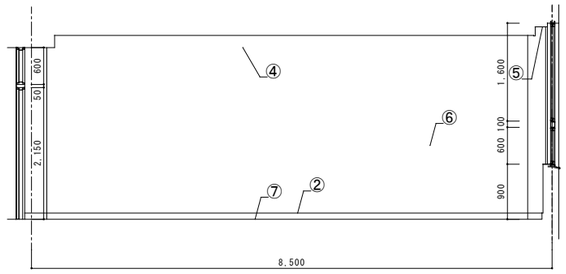
A　B　C　D

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容 展開図-5【既存】	縮尺 A1：1/50 A3：1/100	図面区分 建築意匠 図面番号 A-27

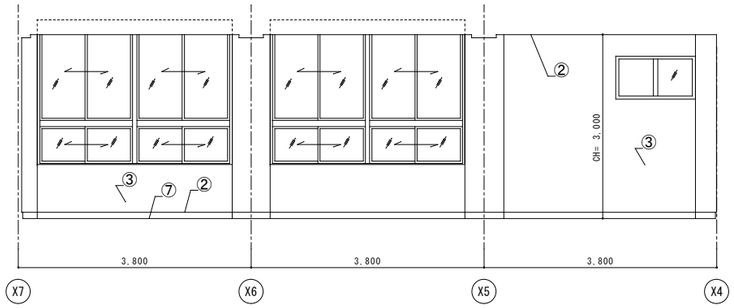
教材室



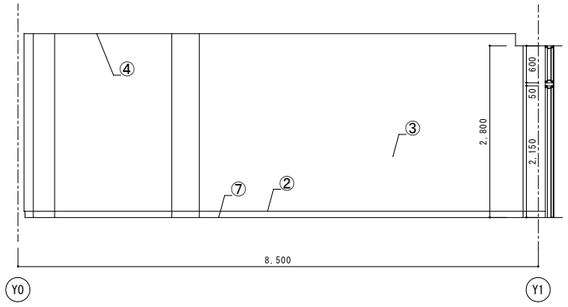
A



B

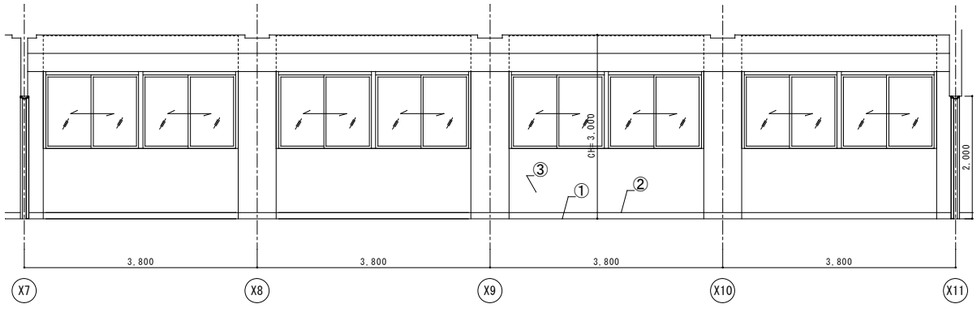


C

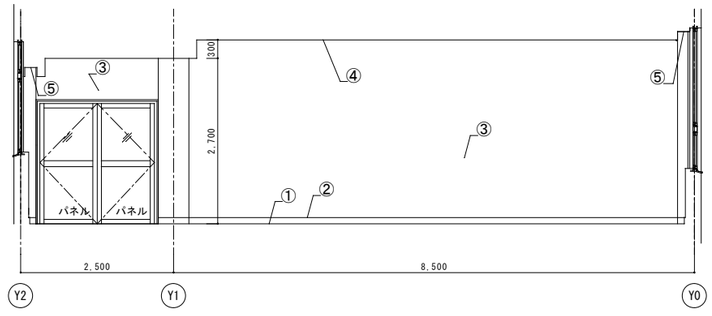


D

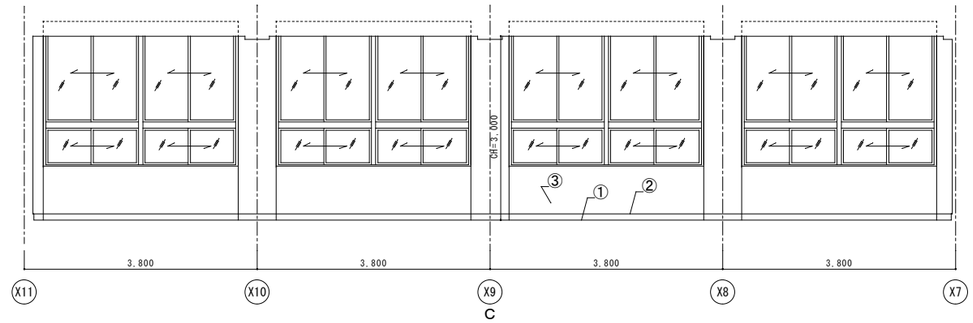
交流ルーム



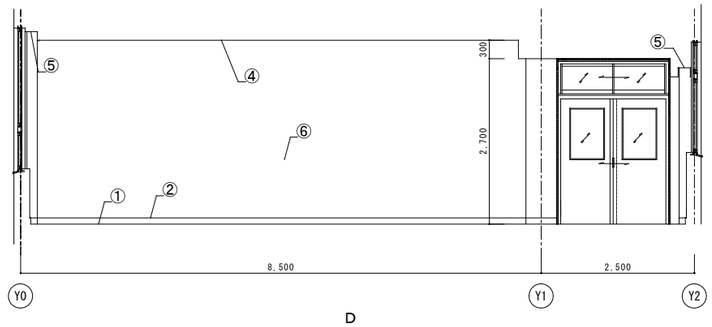
A



B



C



D

仕上概要

	仕上げ	改修内容
①	床:複合フローリング t 13	新設
②	幅木:ビニル幅木 H=100	新設
③	壁:普通硬質石こうボードt9.5+石こうボードt12.5 (GL工法)	新設
④	天井・梁型:化粧せっこうボード t 9.5	下地共新設
⑤	カーテンボックス t 24ＳＯＰ	新設
⑥	壁:普通硬質石こうボード t 9.5ＥＰ	新設
⑦	ビニル床シート	新設
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		
⑫		
⑬		
⑭		

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

工事名称：東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

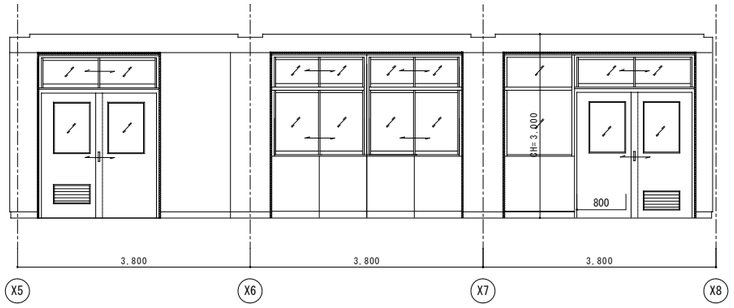
図面内容：展開図-1【改修後】

縮尺：A1：1/50 A3：1/100

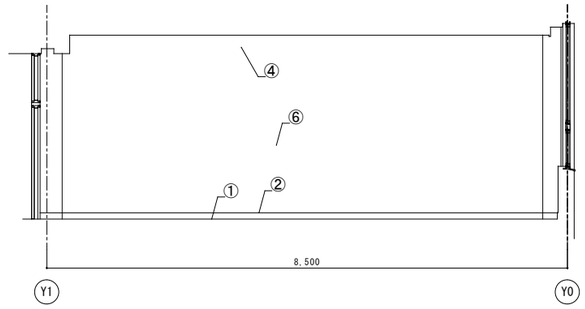
図面区分：建築意匠

図面番号：A-28

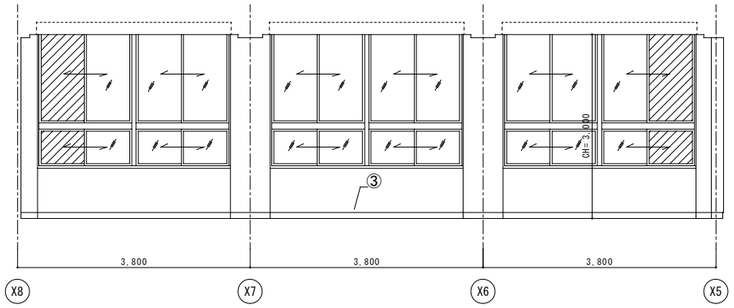
第２理科室



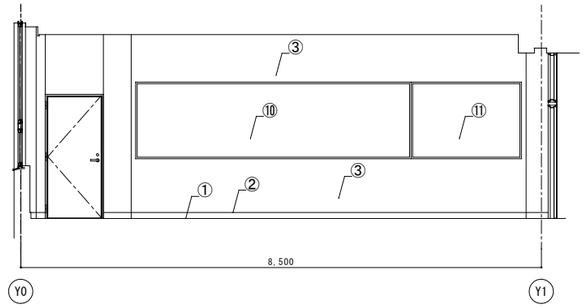
A



B

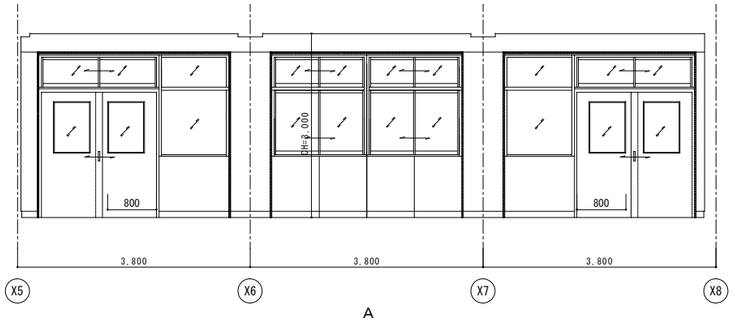


C

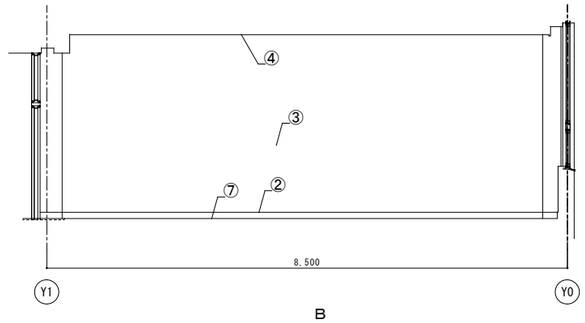


D

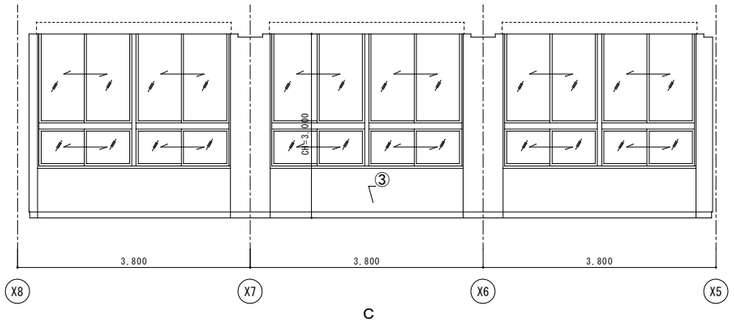
コンピュータ室



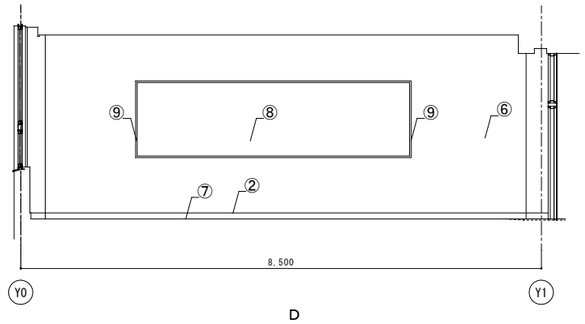
A



B



C



D

仕上概要

	仕上げ	改修内容
①	床:ビニル床シート t 2.5	新設
②	幅木:ビニル幅木 H=100	新設
③	壁:普通硬質石こうボードt9.5+石こうボードt12.5 (GL工法)	新設
④	天井・梁型:化粧せっこうボード t 9.5	下地共新設
⑤	カーテンボックス t 24ＳＯＰ	新設
⑥	壁:普通硬質石こうボード t 9.5ＥＰ	新設
⑦	床:タイルカーペット t 6.5（帯電防止）	新設
⑧	ホワイトボード	新設
⑨	スピーカー用補強	新設
⑩	スライダー黒板	新設
⑪	掲示板	新設
⑫		
⑬		
⑭		
▨	ガラス窓撤去　アルミパネル新設	

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

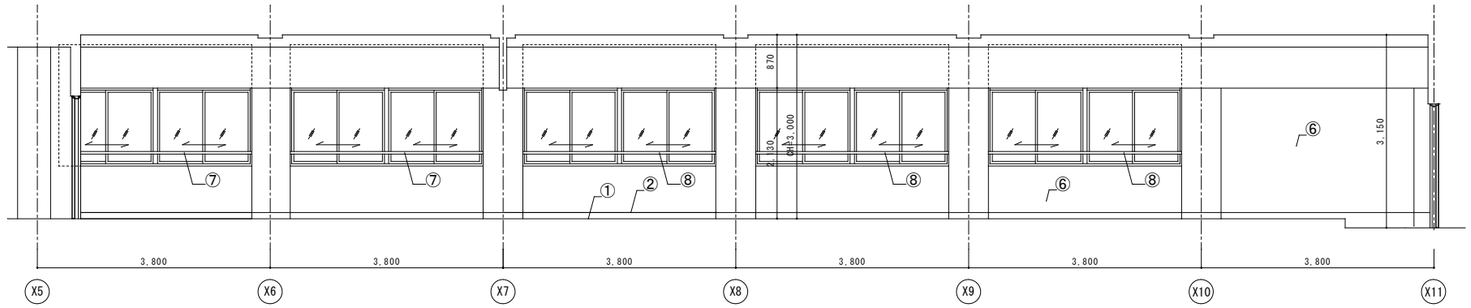
図面内容　展開図-2【改修後】

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

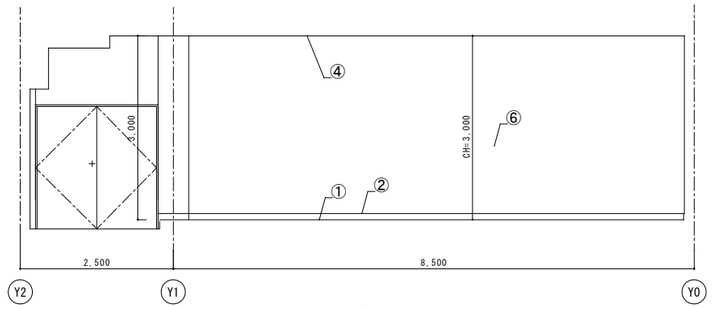
図面区分　建築意匠

図面番号　A-29

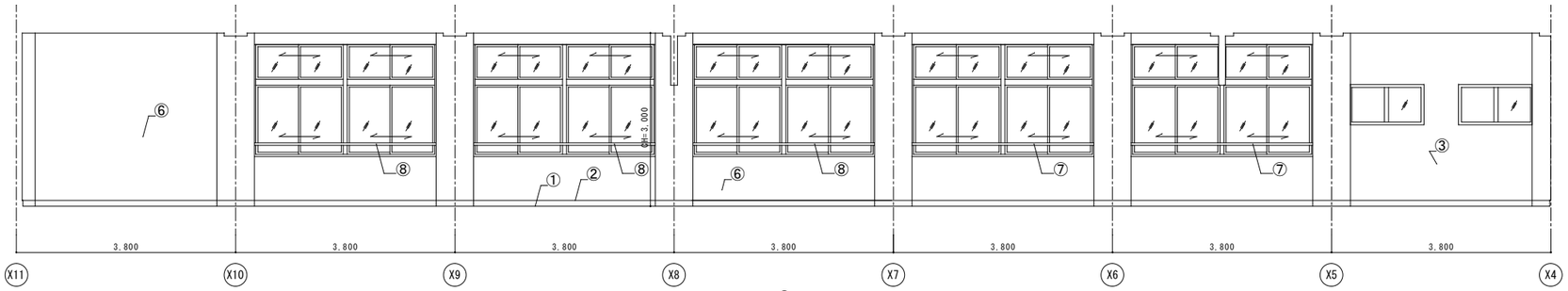
オープンスペース　倉庫（２）



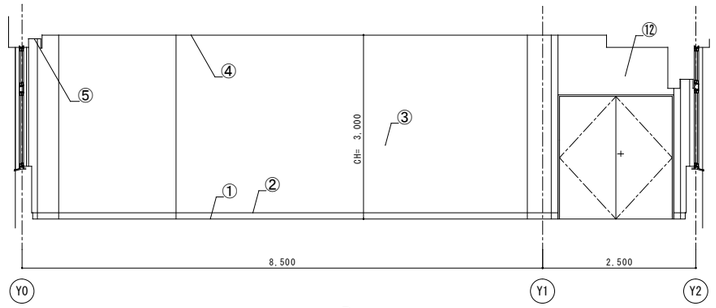
A



B

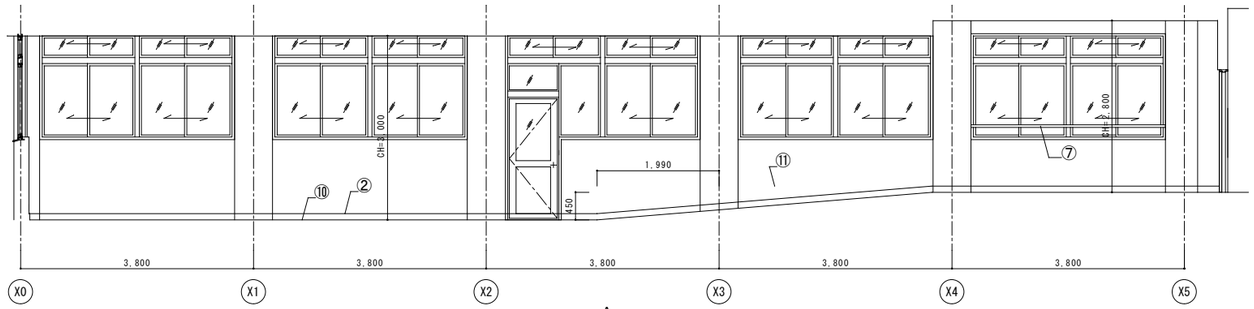


C

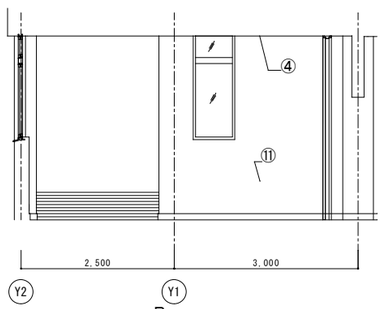


D

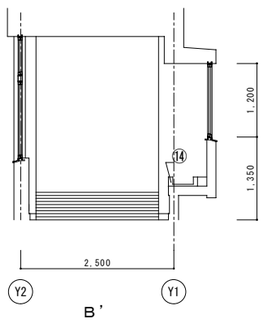
３階　廊下



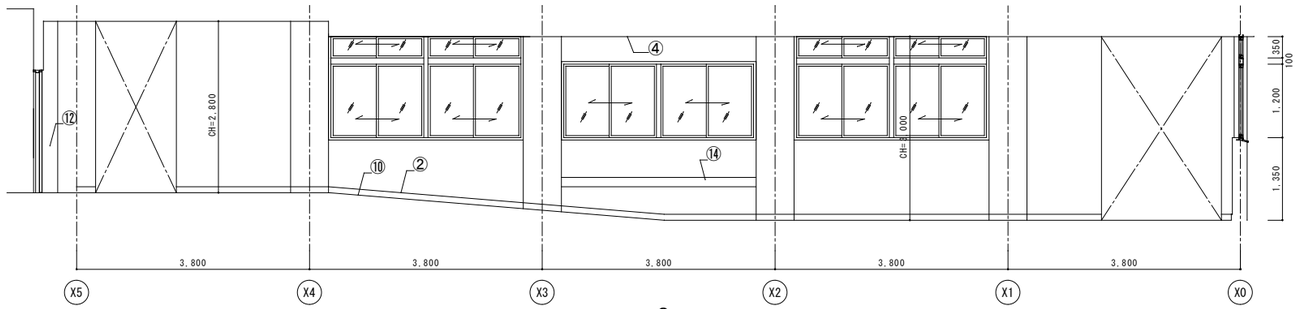
A



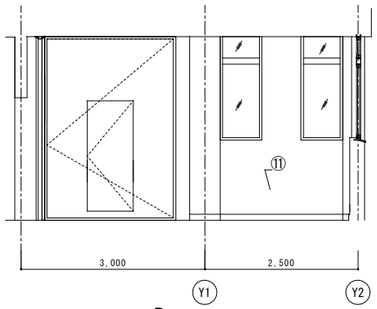
B



B'



C



D

仕上概要

	仕上げ	改修内容
①	床:複合フローリング t 13	新設
②	幅木:ビニル幅木 H=100	新設
③	壁:普通硬質石こうボードt9.5+石こうボードt12.5	新設
	(GL工法)	
④	天井・梁型:化粧せっこうボード t 12.5	下地共新設
	ロックウール化粧吸音板 t =12	
⑤	カーテンボックス t 24ＳＯＰ	新設
⑥	壁:有孔合板 t =5.5ＥＰロックウール t 25	新設
	充填寒冷紗ウラ打ち	
⑦	手すり　ステンレスパイプ　SUS304 42.7φ	既存のまま
⑧	手すり　ステンレスパイプ　SUS304 42.7φ	新設
⑨	欠番	
⑩	床:ビニル床シート	下地共新設
⑪	壁:合成樹脂エマンションペイント塗り	塗装の塗り替え
⑫	壁:普通硬質石こうボード t =9.5ＥＰ	新設
⑬	欠番	
⑭	ステンレス流し台	新設

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

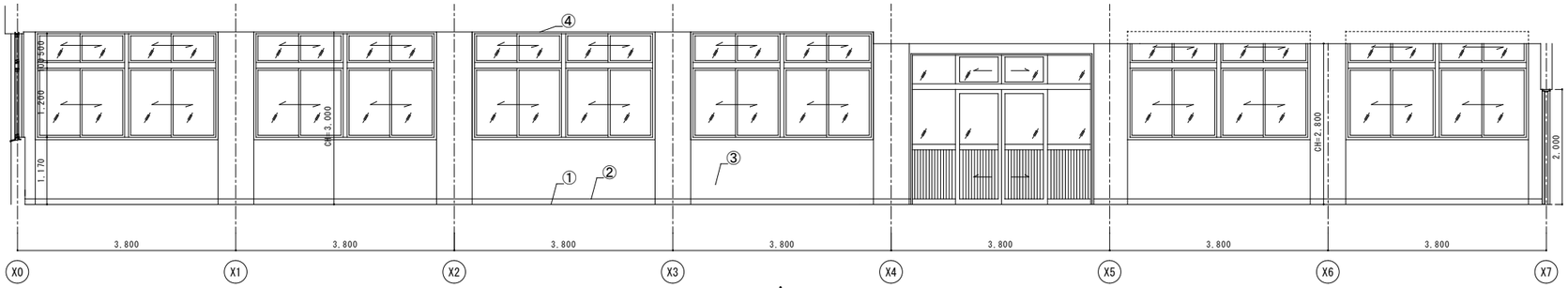
図面内容　展開図-3【改修後】

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

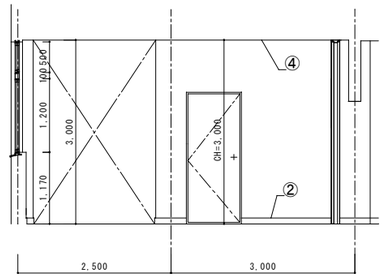
図面区分　建築意匠

図面番号　A-30

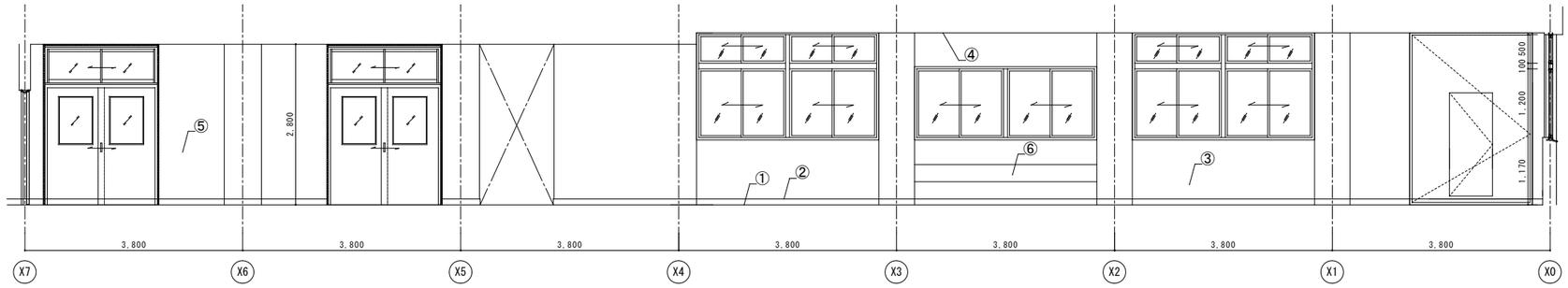
１階　廊下



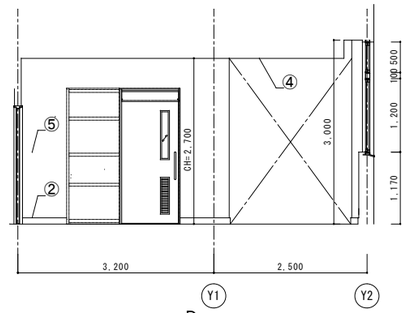
A



B



C



D

仕上概要

	仕上げ	改修内容
①	床：ビニル床シート	下地共新設
②	幅木：ビニル幅木 H=100	新設
③	壁：合成樹脂エマンションペイント塗り	塗装の塗り替え
④	天井・梁型：化粧せっこうボード t 12.5	下地共新設
⑤	壁：普通硬質石こうボード t =9.5Ｅ Ｐ	新設
⑥	ステンレス流し台	新設
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

工事名称：東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

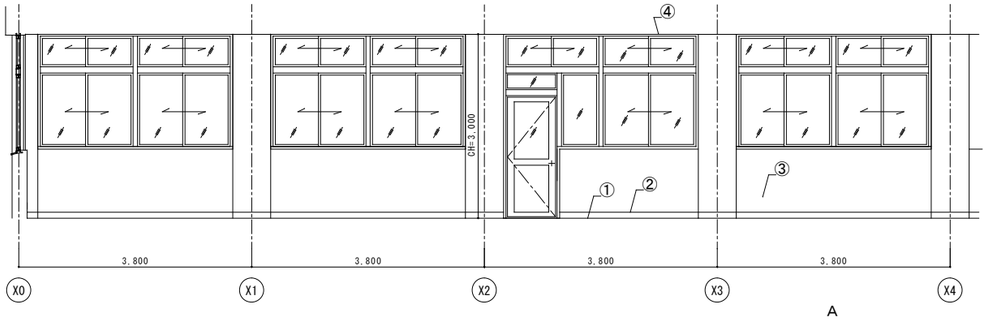
図面内容：展開図-4【改修後】

縮尺：A1：1/50　A3：1/100

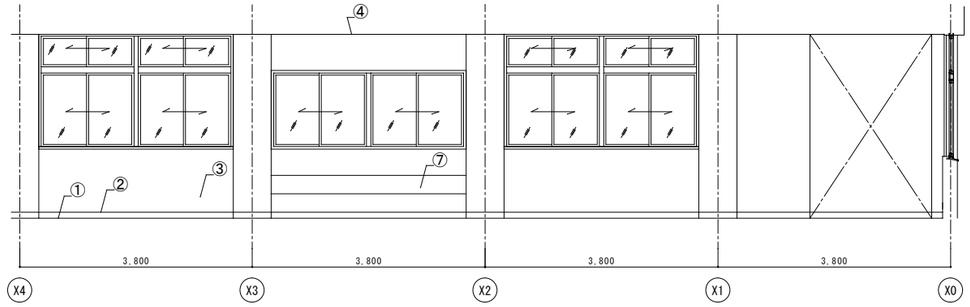
図面区分：建築意匠

図面番号：A-31

2階　廊下



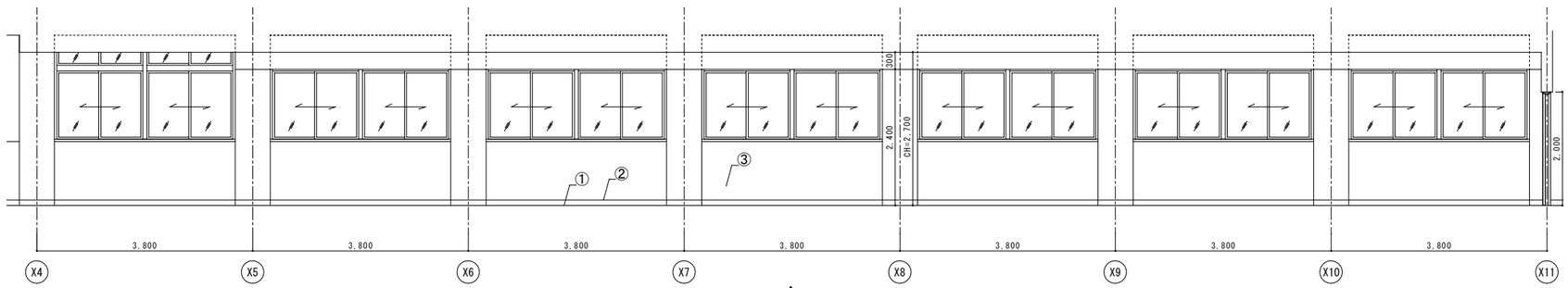
A



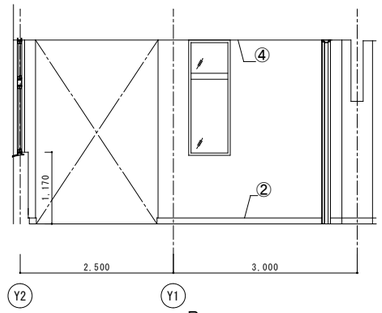
C

仕上概要

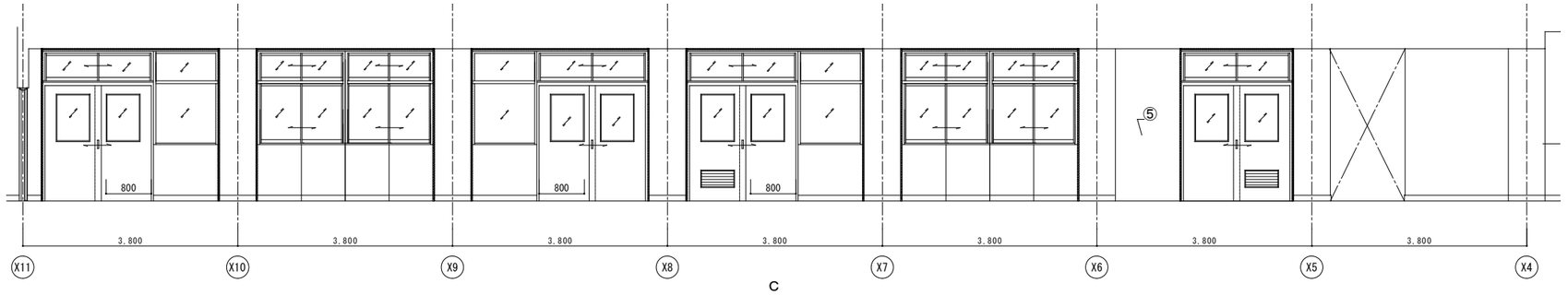
	仕上げ	改修内容
①	床:ビニル床シート	下地共新設
②	幅木:ビニル幅木 H=100	新設
③	壁:合成樹脂エマンションペイント塗り	塗装の塗り替え
④	天井・梁型:化粧せっこうボード t 12.5	下地共新設
⑤	壁:普通硬質石こうボード t =9.5E P	新設
⑥	シージングせっこうボード t =12.5	下地共新設
	＋化粧ケイカル板 t =6.0	
⑦	ステンレス流し台	新設
⑧	幅木:SUS製幅木 H=60	新設
⑨		



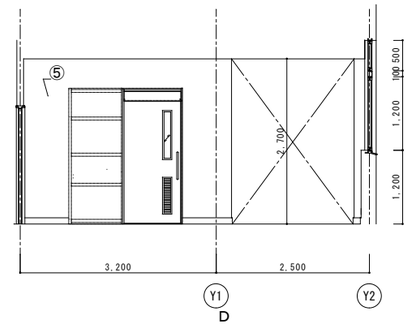
A



B

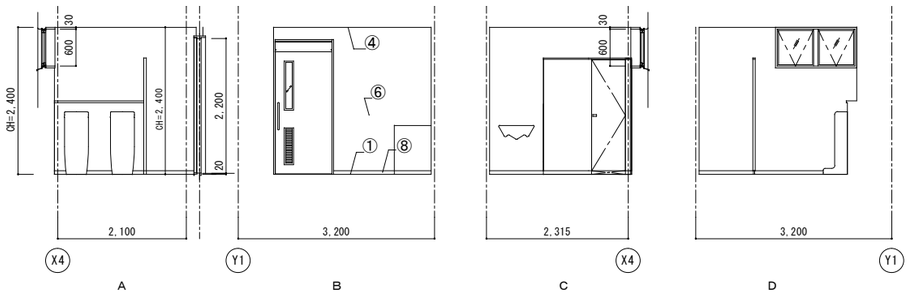


C



D

男子便所



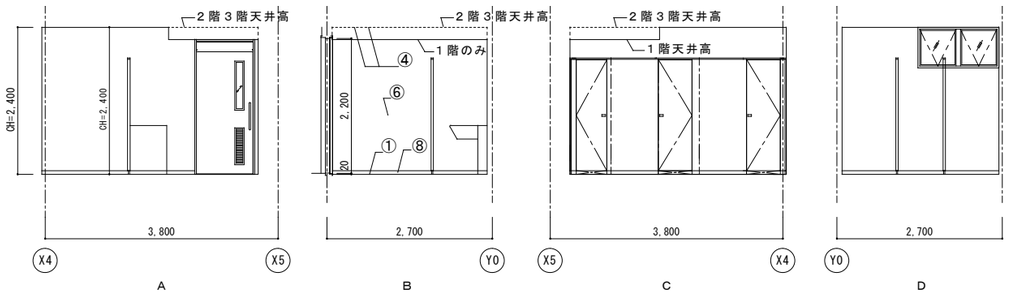
A

B

C

D

女子便所



A

B

C

D

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

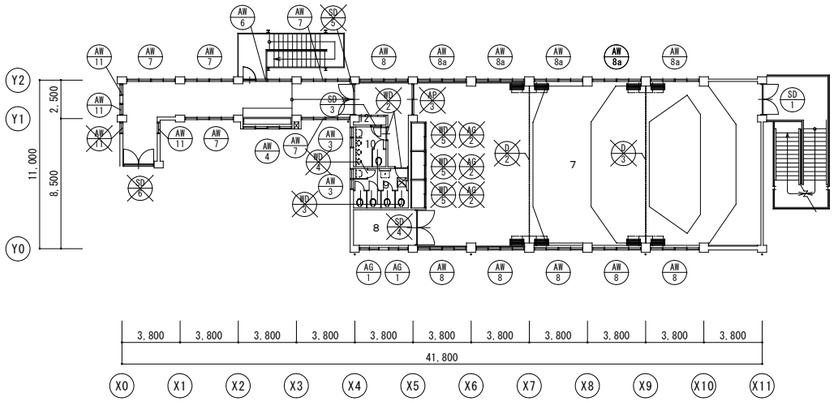
図面内容　展開図-5【改修後】

縮尺　A1：1/50　A3：1/100

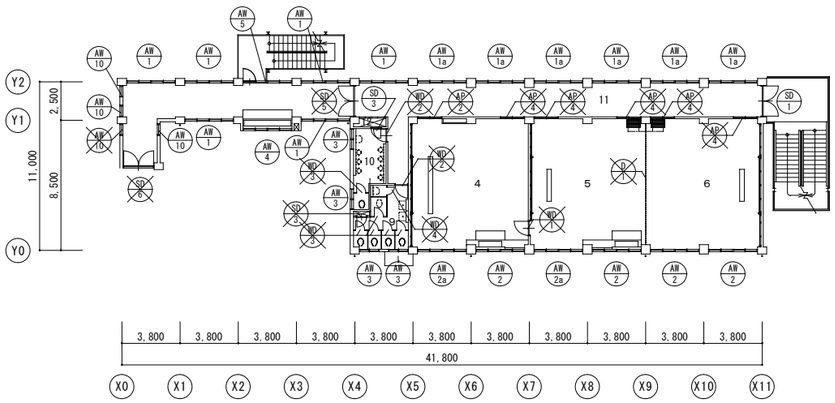
図面区分　建築意匠

図面番号　A-32

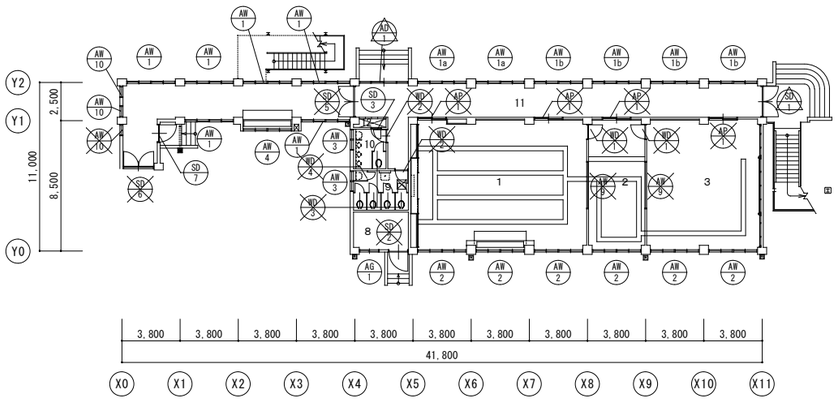
既存



３階建具配置図　1/200



２階建具配置図　1/200



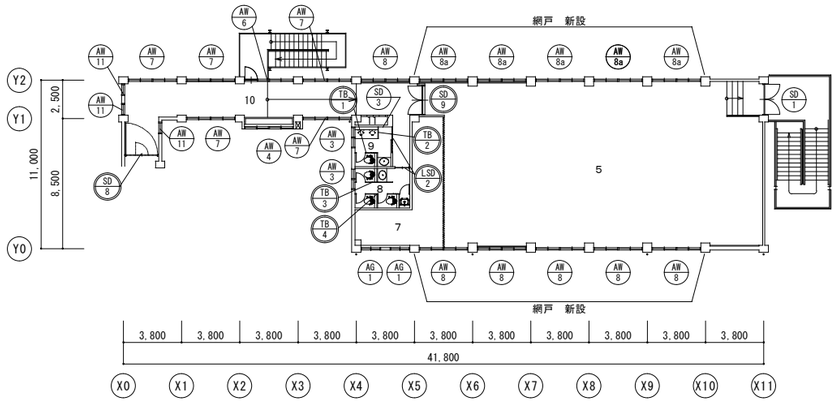
１階建具配置図　1/200

凡　例

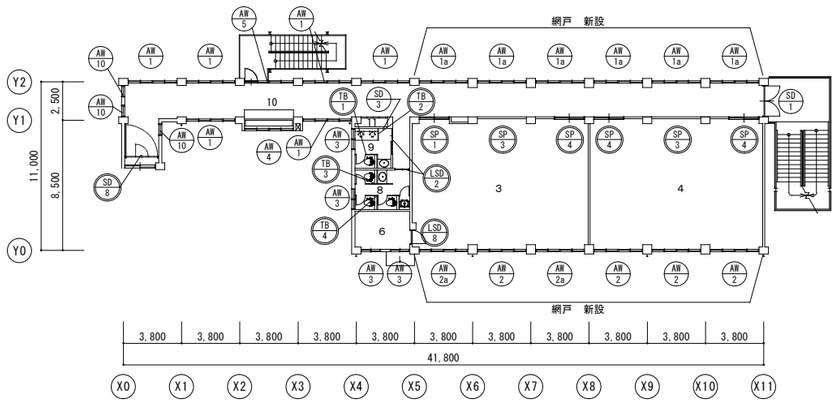
	既存のまま
	枠共撤去
	枠残し撤去

符号	室　　名
1	教授学習方法開発実験室
2	制御分析室
3	マイクロティーチング室
4	国際文化センター
5	児童学習センター
6	低学年合科学習室
7	多目的オープンスペース
8	空調機械室
9	女子便所
10	男子便所
11	廊下
12	Ｐ・Ｓ

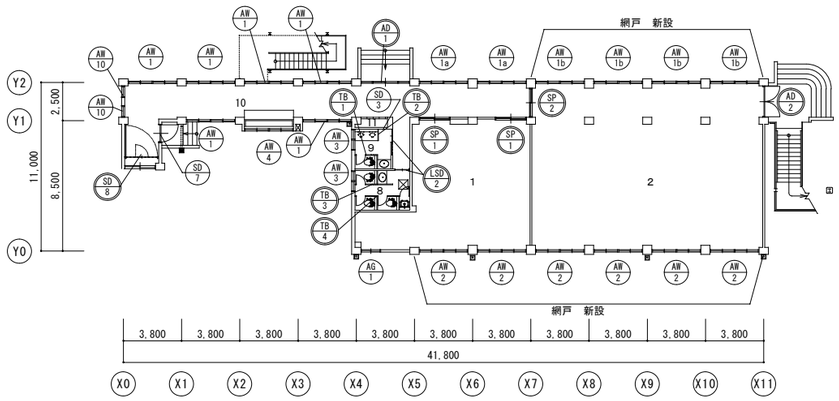
改修後



３階建具配置図　1/200



２階建具配置図　1/200



１階建具配置図　1/200

凡　例

	改修
	新設

符号	室　　名
1	教材室
2	交流ルーム
3	第２理科室
4	コンピュータ室
5	多目的オープンスペース
6	倉庫（１）
7	倉庫（２）
8	女子便所
9	男子便所
10	廊下
11	Ｐ・Ｓ

株式会社　綜企画設計

承認	製図	特記

東京学芸大学
財務施設部 施設課

課長	副課長	係長	主任

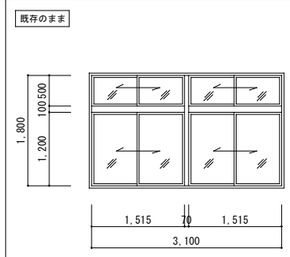
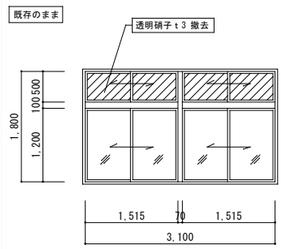
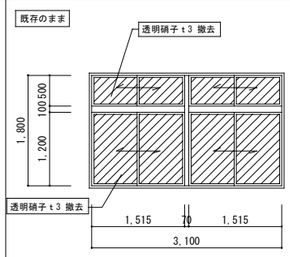
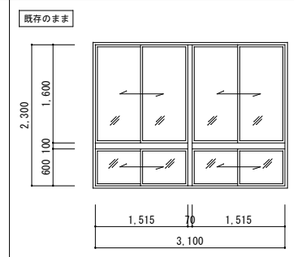
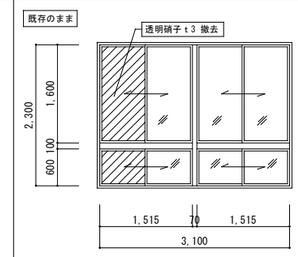
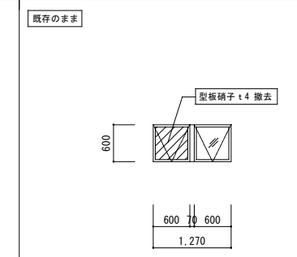
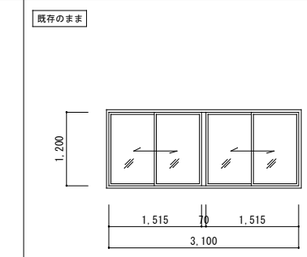
工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

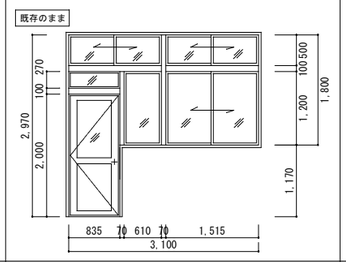
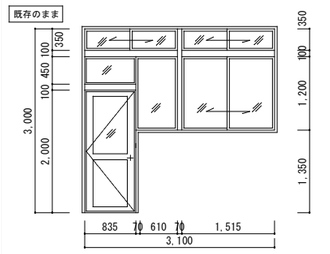
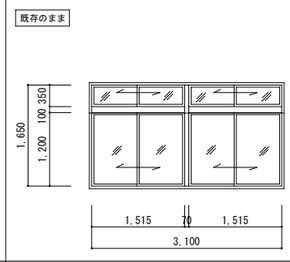
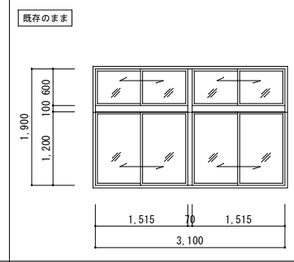
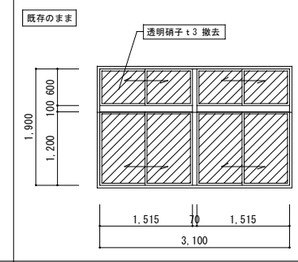
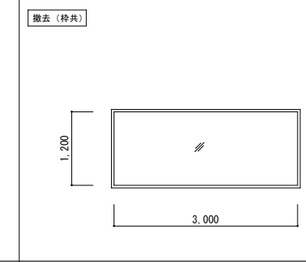
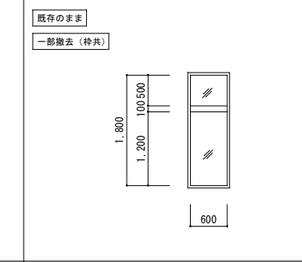
図面内容　建具キープラン【既存・改修後】

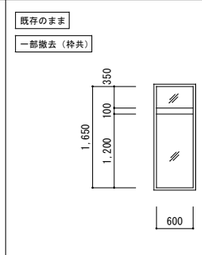
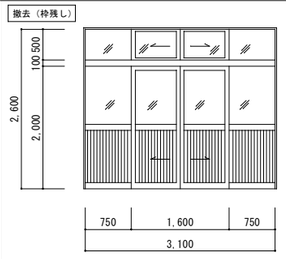
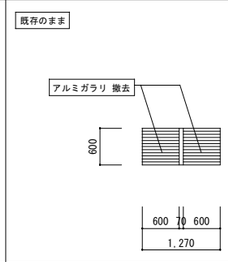
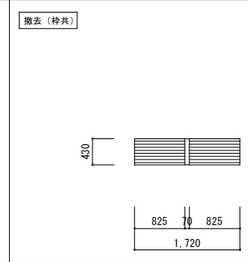
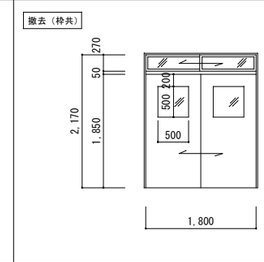
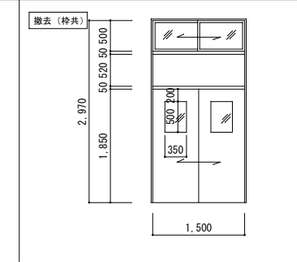
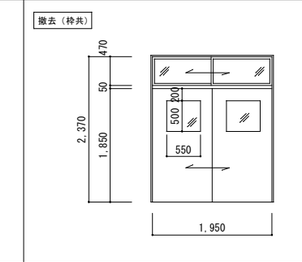
縮尺　A1：1/200　A3：1/400

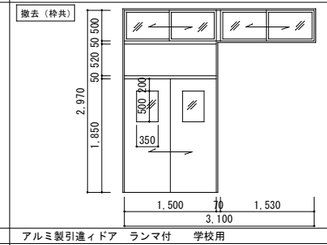
図面区分　建築意匠

図面番号　A-33

記号	AM 1 ×12ヶ所	AM 1a ×8ヶ所	AM 1b ×4ヶ所	AM 2 ×10ヶ所	AM 2a ×2ヶ所	AM 3 ×8ヶ所	AM 4 ×3ヶ所
場所	1階２階　廊下	1階２階　廊下	1階２階　廊下	国際文化センター　教授学習方法開発実験室 児童学習センター　制御分析室 低学年合科学習室　マイクロティーチング室	国際文化センター 児童学習センター	男子便所 女子便所	廊下
姿図							
型式	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製内倒シマド　２連	アルミ製引違イマド　２連
仕上	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理
硝子	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3	型板硝子t=4	透明硝子t=3
見込	70	70	70	70	70	70	70
附属金物	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル
備考							

記号	AM 5 ×1ヶ所	AM 6 ×1ヶ所	AM 7 ×5ヶ所	AM 8 ×6ヶ所	AM 8a ×5ヶ所	AW 5 ×2ヶ所	AM 10 ×5ヶ所　AW 10 ×2ヶ所
場所	2階　廊下	3階　廊下	3階　廊下	多目的オープンスペース	多目的オープンスペース	教授学習方法開発実験室　制御分析室 マイクロティーチング室	1階２階　廊下
姿図							
型式	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製嵌メ殺シマド	アルミ製嵌メ殺シマド
仕上	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理
硝子	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=8	透明硝子t=3
見込	70	70	70	70	70	100	70
附属金物	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル
備考							

記号	AM 11 ×3ヶ所　AW 11 ×1ヶ所	AD 1 ×1ヶ所	AG 1 ×3ヶ所	AG 2 ×3ヶ所	AP 1 ×4ヶ所	AP 2 ×1ヶ所	AP 3 ×1ヶ所
場所	3階　廊下	1階　廊下	空調機械室	多目的オープンスペース	教授学習方法開発実験室　制御分析室 マイクロティーチング室	国際文化センター	多目的オープンスペース
姿図							
型式	アルミ製嵌メ殺シマド	アルミ製引分ケドア　ランマ付	アルミ製ガラリ	アルミ製ガラリ	アルミ製引違イドア　ランマ付　学校用	アルミ製引違ィドア　ランマ付　学校用	アルミ製引違ィドア　ランマ付　学校用
仕上	アルマイト処理	アルマイト処理		アルマイト処理	ポリエステル化粧合板t=4	ポリエステル化粧合板t=4	ポリエステル化粧合板t=4
硝子	透明硝子t=3	透明硝子t=3	ー	ー	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3
見込	70	70	70	70	70	70	70
附属金物	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　三方アルミアングル 三方アングル(両面) 腰　アルミパネル3	附属金物一式　アルミ水切	附属金物一式	メーカー附属金物　引戸用シリンダー向錠錠　三方アングル	メーカー附属金物　引戸用シリンダー向錠錠　三方アングル	メーカー附属金物　引戸用シリンダー向錠錠　三方アングル
備考							

記号	AP 4 ×5ヶ所
場所	国際文化センター　児童学習センター 低学年合科学習室
姿図	
型式	アルミ製引違ィドア　ランマ付　学校用
仕上	ポリエステル化粧合板t=4
硝子	透明硝子t=3
見込	70
附属金物	メーカー附属金物　引戸用シリンダー向錠錠　三方アングル
備考	

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記

東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

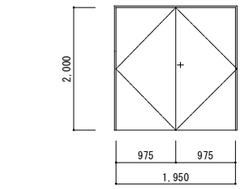
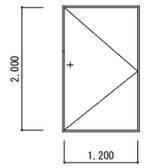
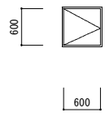
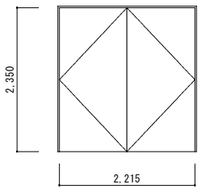
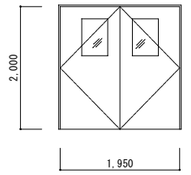
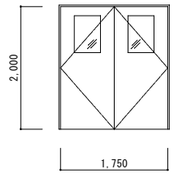
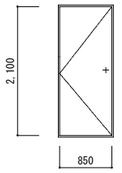
工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

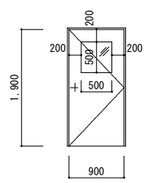
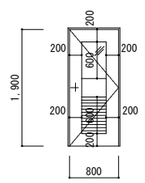
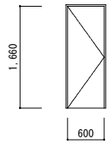
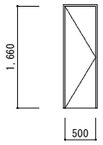
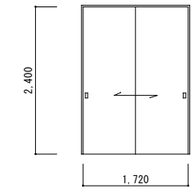
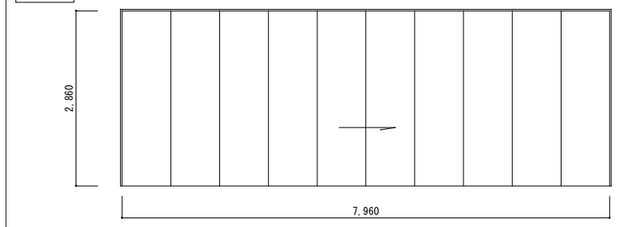
図面内容　建具表（１）【既存】

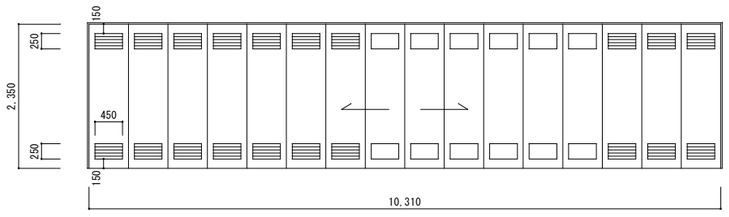
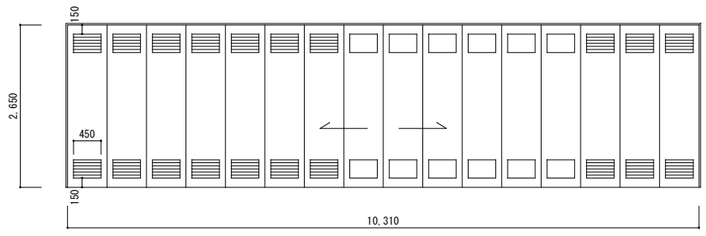
縮尺　A1：1/50

図面区分　建築意匠

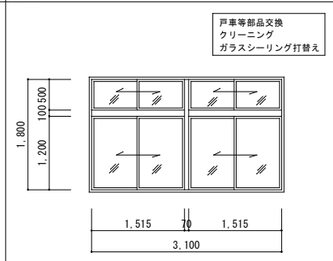
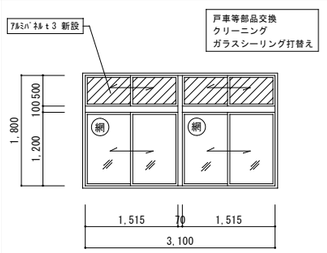
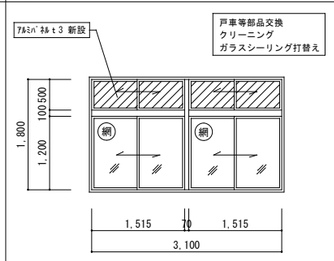
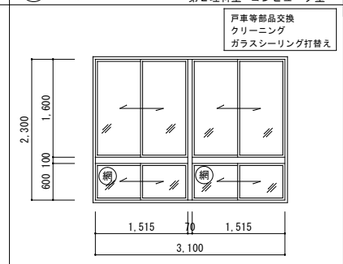
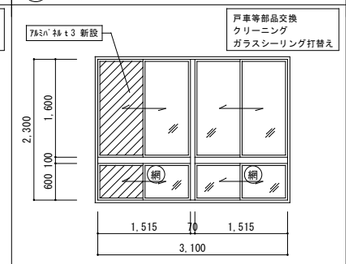
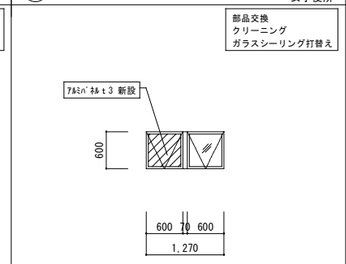
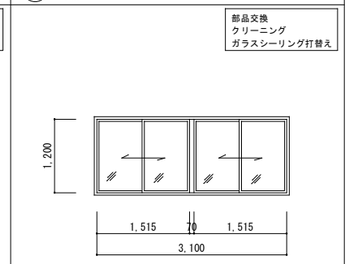
図面番号　A-34

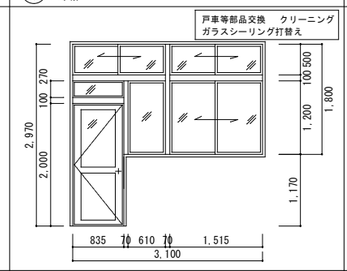
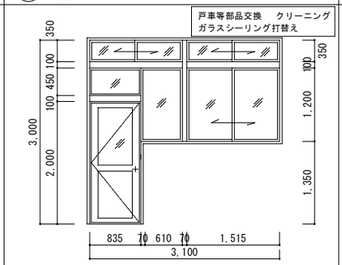
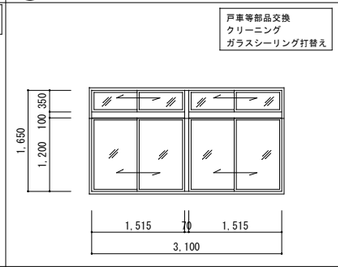
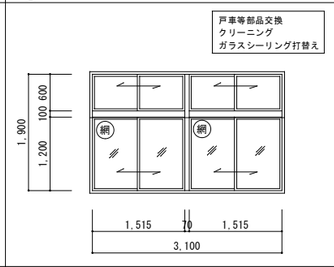
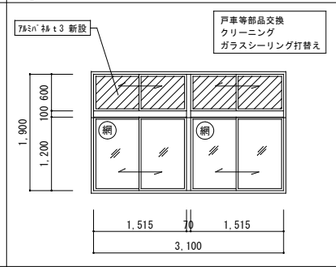
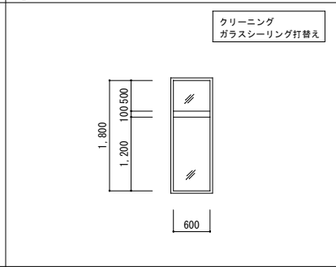
記号	SD 1 ×2ヶ所 / SD 1 ×1ヶ所	SD 2 ×1ヶ所	SD 3 ×3ヶ所 / SD 3 ×1ヶ所	SD 4 ×1ヶ所	SD 5 ×3ヶ所	SD 6 ×3ヶ所	SD 7 ×1ヶ所
場所	廊下	1階　空調機械室	男子便所 女子便所	3階　空調機械室	廊下	廊下	1F　廊下
姿図	下地調整 一部撤去（枠残し） 	撤去（枠共） 	下地調整 一部撤去（枠共） 	撤去（枠共） 	撤去（枠共） 	撤去（枠共） 	下地調整 
型式	スチール製両開キドア	スチール製片開キドア	スチール製片開キドア	スチール製両開キドア　(防音)	両開キフラッシュ戸	両開キフラッシュ戸	スチール製片開キドア
仕上	SOP	SOP	SOP	SOP	SOP	SOP	SOP
硝子	ー	ー	ー	ー	網入板ガラス　6.8mm(スリ)	網入板ガラス　6.8mm(スリ)	ー
見込	100	100	50	100	100	100	100
附属金物	ピボットヒンジ　握玉　シリンダー錠　ドアチェック 戸当り	ピボットヒンジ　握玉　シリンダー錠　ドアチェック 戸当り	ピボットヒンジ　点検口用錠	ピボットヒンジ　シリンダー錠　グレモンハンドル　ドアチェック 戸当り　フランス落シ　ネオプレンゴム	ドアチェック(2ヶ所)ピボットヒンジ、握玉、シリンダー錠 三方アングル(両面)	ドアチェック(2ヶ所)ピボットヒンジ、握玉、シリンダー錠 三方アングル(両面)	ピボットヒンジ　握玉　シリンダー錠　ドアチェック 戸当り
備考				ドアグラスウール充填			

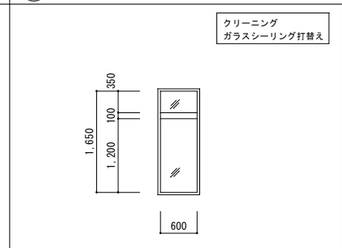
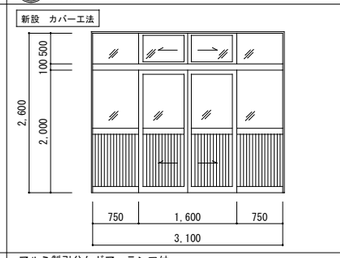
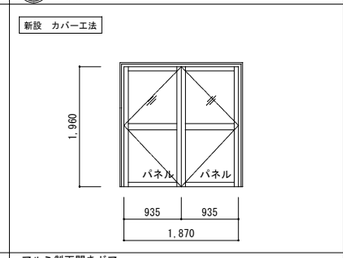
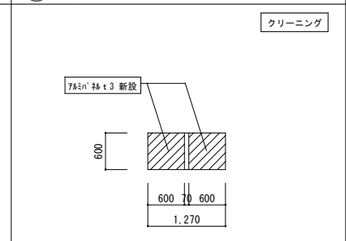
記号	WD 3 ×3ヶ所	WD 6 ×6ヶ所	WD 16 ×16ヶ所	WD 2 ×3ヶ所	WD 5 ×3ヶ所	D 1 ×1ヶ所
場所	国際文化センター　教授学習方法開発実験室 児童学習センター　制御分析室 マイクロティーチング室	男子便所 女子便所	男子便所 女子便所	女子便所	多目的オープンスペース	低学年合科学習室
姿図	撤去（枠共） 	撤去（枠共） 	撤去（枠共） 	撤去（枠共） 	撤去（枠共） 	撤去（枠共） 
型式	木製片開キドア	木製片開キドア	木製片開キドア	木製片開キドア	木製引違ィドア	木製スライディングパネル
仕上	SOPシナ合板t=4	SOPシナ合板　タイプIt=4	SOPシナ合板　タイプIt=4	SOPシナ合板　タイプIt=4	ポリエステル化粧合板t=4	ポリエステル化粧合板t=4
硝子	透明硝子t=3	型板硝子t=4				
見込	40	40	36	36	36	50
附属金物	ピボットヒンジ　握玉　空錠　ドアチェック　戸当り	ピボットヒンジ　押板　引手　ドアチェック　戸当り ガラリ付	ラバトリーヒンジ　ナイトラッチ	ラバトリーヒンジ	ハンガーレール　上吊車　彫込引手　ナイロンガイド	アルミ押出シハンガーレール　ボールベアリング入リランナー　接床装置付
備考						

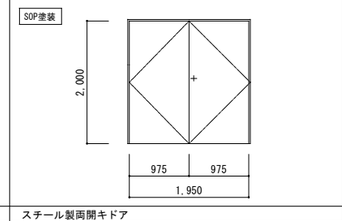
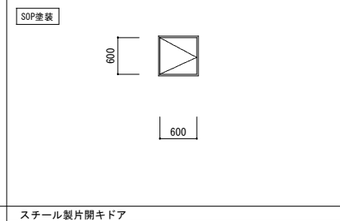
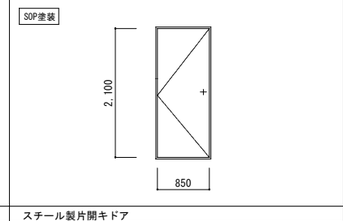
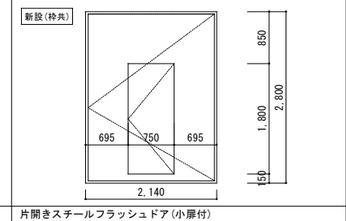
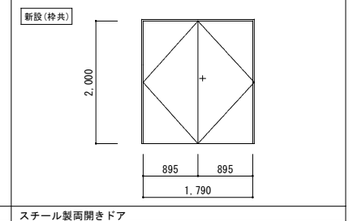
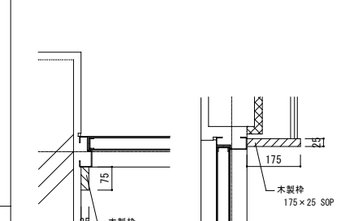
記号	D 4 ×1ヶ所	D 3 ×1ヶ所
場所	多目的オープンスペース	多目的オープンスペース
姿図	撤去（枠共） 	撤去（枠共） 
型式	木製スライディングパネル	木製スライディングパネル
仕上	ポリエステル化粧合板t=4	ポリエステル化粧合板t=4
硝子		
見込	50	50
附属金物	アルミ押出シハンガーレール　ボールベアリング入リランナー　接床装置付 ガラリ付	アルミ押出シハンガーレール　ボールベアリング入リランナー　接床装置付 ガラリ付
備考		

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容	建具表（2）【既存】	縮尺 A1：1/50	図面区分 建築意匠 図面番号 A-35

記号	AW1 ×12ヶ所	AW1a ×8ヶ所	AW1b ×4ヶ所	AW2 ×10ヶ所	AW2a ×2ヶ所	AW3 ×8ヶ所	AW4 ×3ヶ所
場所	1階２階　廊下	1階２階　廊下	交流ルーム	教材室　交流ルーム 第２理科室　コンピュータ室	第２理科室	男子便所 女子便所	廊下
姿図							
型式	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製内倒シマド　２連	アルミ製引違イマド　２連
仕上	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理
硝子	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3	型板硝子t=4	透明硝子t=3
見込	70	70	70	70	70	70	70
附属金物	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル
備考		網戸新設（6ヶ所）	網戸新設（4ヶ所）	網戸新設（10ヶ所）	網戸新設（2ヶ所）		

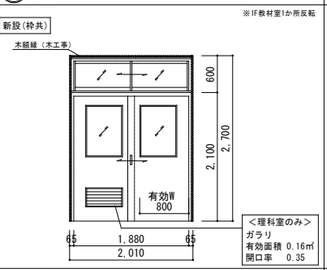
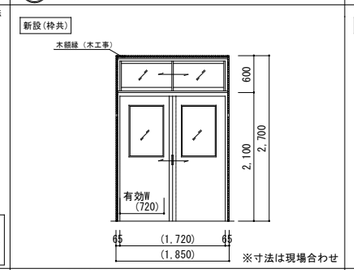
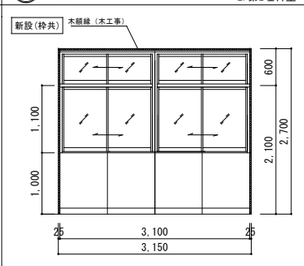
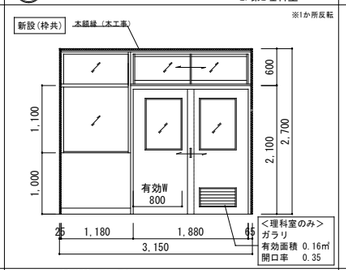
記号	AW5 ×1ヶ所	AW6 ×1ヶ所	AW7 ×5ヶ所	AW8 ×6ヶ所	AW8a ×5ヶ所		AW10 ×5ヶ所
場所	2階　廊下	3階　廊下	3階　廊下	オープンスペース	オープンスペース		1階２階　廊下
姿図							
型式	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段	アルミ製引違イマド　２連２段		アルミ製嵌メ殺シマド
仕上	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理		アルマイト処理
硝子	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3	透明硝子t=3		透明硝子t=3
見込	70	70	70	70	70		70
附属金物	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル		メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル
備考				網戸新設（5ヶ所）	網戸新設（5ヶ所）		

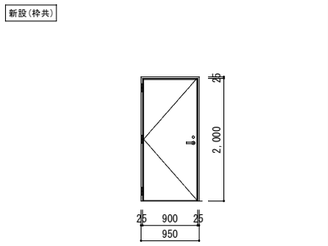
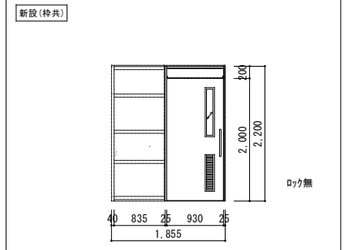
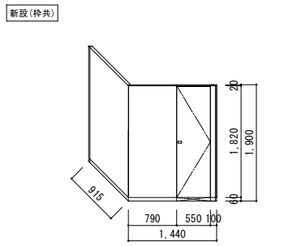
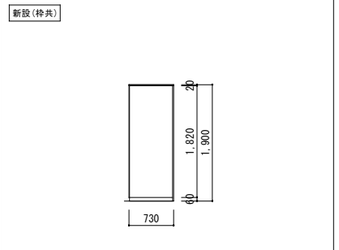
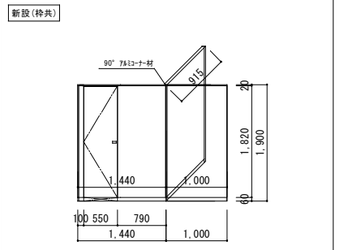
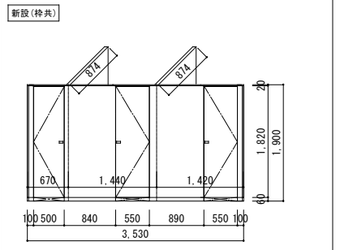
記号	AW11 ×3ヶ所	AD1 ×1ヶ所	AD2 ×1ヶ所		AG1 ×3ヶ所	
場所	3階　廊下	1階　廊下	交流ルーム		教材室 倉庫(1) 倉庫(2)	
姿図						
型式	アルミ製嵌メ殺シマド	アルミ製引分ケドア　ランマ付	アルミ製両開きドア		アルミ製ガラリ	
仕上	アルマイト処理	アルマイト処理	アルマイト処理			
硝子	透明硝子t=3	スクールテンパ t4.0	スクールテンパ t4.0		ー	
見込	70	70	70		70	
附属金物	メーカー附属金物一式　アルミ水切　四方アルミアングル	メーカー附属金物一式　三方アルミアングル	メーカー附属金物一式　三方アルミアングル		附属金物一式　アルミ水切	
備考		三方アングル(両面)	ピボットヒンジ　握玉　シリンダー錠　ドアチェック　戸当り			
		腰　アルミパネル3	腰　アルミパネル3			

記号	SD1 ×2ヶ所	SD3 ×3ヶ所	SD7 ×1ヶ所	SD8 ×3ヶ所	SD9 ×1ヶ所	ＳＤ額縁納まり　1/10
場所	廊下	男子便所 女子便所		廊下	３階　廊下	
姿図						
型式	スチール製両開キドア	スチール製片開キドア	スチール製片開キドア	片開きスチールフラッシュドア(小扉付)	スチール製両開きドア	
仕上	SOP	SOP	SOP	SOP	SOP	
硝子	ー	ー	ー	ー	ー	
見込	100	50	100	100mm	枠外寸法146mm　扉寸法53.2mm	
附属金物	ピボットヒンジ　握玉　シリンダー錠　ドアチェック	ピボットヒンジ　点検口用錠	ピボットヒンジ　握玉　シリンダー錠　ドアチェック	オートヒンジ１組、フロアヒンジ1組	標準装備　ローラーハンドル　旗丁番	
備考	戸当り		戸当り	ケースハンドル1組		
				甲種防火戸常時開放型(煙感知器連動)		

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
図面内容	建具表（1）【改修後】	縮尺 A1：1/50	図面区分 建築意匠 図面番号 A-36

記号	SP1 ×3ヶ所	SP2 ×1ヶ所	SP3 ×2ヶ所	SP4 ×3ヶ所			
場所	1F教材室・2F第2理科室	1F交流ルーム	2Fコンピュータ室 2F第2理科室	2Fコンピュータ室 2F第2理科室			
姿図							
型式	スチール製学校間仕切り	スチール製学校間仕切り	スチール製学校間仕切り	スチール製学校間仕切り			
仕上	焼付塗装鋼板0.5mm　扉芯材ﾍﾟｰﾊﾟｰﾊﾆｶﾑ	焼付塗装鋼板0.5mm　扉芯材ﾍﾟｰﾊﾟｰﾊﾆｶﾑ	焼付塗装鋼板0.5mm　パネル裏打材PB12.5mm	焼付塗装鋼板0.5t　扉芯材ﾍﾟｰﾊﾟｰﾊﾆｶﾑ　パネル裏打材PB12.5t			
硝子	スクールテンパ　トーメイt=4	スクールテンパ　トーメイt=4	スクールテンパ　トーメイt=4	スクールテンパ　トーメイt=4			
見込	パネル見込80mm　扉見込32mm	パネル見込80mm　扉見込32mm	パネル見込80mm	パネル見込80mm　扉見込32mm			
附属金物	引違戸錠　三角ストッパー　アルミ切窓（焼付）　扉引残し78mm	引違戸錠　三角ストッパー　アルミ切窓（焼付）　扉引残し78mm	引違戸錠　三角ストッパー　アルミ切窓（焼付）　扉引残し78mm				
	木額縁　アルミアングルピース　アルミサッシ　附属金物一式	木額縁　アルミアングルピース　アルミサッシ　附属金物一式	木額縁　アルミアングルピース　アルミサッシ　附属金物一式	木額縁　アルミアングルピース　アルミサッシ　附属金物一式			
備考							

記号	LSD1 ×1ヶ所	LSD2 ×6+ヶ所	TB1 ×3ヶ所	TB2 ×3ヶ所	3TB ×3ヶ所	4TB ×3ヶ所	
場所	倉庫	1～3F男女便所入口	1F・2F・3F男子便所	1F・2F・3F男子便所	1F・2F・3F女子便所	1F・2F・3F女子便所	
姿図							
型式	軽量鋼製建具ＬＳＤ	軽量鋼製建具ｶｰﾑﾄﾞｱ（LGS内蔵ﾀｲﾌﾟ）	トイレブース（TB-GP SUS巾木ﾀｲﾌﾟ）	トイレブース（TB-GP SUS巾木ﾀｲﾌﾟ）	トイレブース（TB-GP SUS巾木ﾀｲﾌﾟ）	トイレブース（TB-GP SUS巾木ﾀｲﾌﾟ）	
仕上	焼付塗装鋼板0.6t	焼付塗装鋼板0.6t	メラミン化粧板	メラミン化粧板	メラミン化粧板	メラミン化粧板	
硝子		スクールテンパ　型t=4					
見込	枠見込120mm　扉見込40mm	枠見込129mm　扉見込40mm	40mm	40mm	40mm	40mm	
附属金物	レバーハンドル錠　ＤＣ　戸当り　丁番　SUS容摺　附属金物一式	SUS鏡面ﾊﾝﾄﾞﾙ450　油圧制御装置　引残し130mm	アルミアールエッジ　アルミ笠木　SUS巾木　吊元指挟み防止目板	アルミアールエッジ　アルミ笠木　SUS巾木　吊元指挟み防止目板	アルミアールエッジ　アルミ笠木　SUS巾木　吊元指挟み防止目板	アルミアールエッジ　アルミ笠木　SUS巾木　吊元指挟み防止目板	
		アルミ切窓・ガラリ（焼付塗装仕上）SUS容摺　附属金物一式	中心吊金物　附属金物一式	中心吊金物　附属金物一式	中心吊金物　附属金物一式	中心吊金物　附属金物一式	
備考							

記号							
場所							
姿図							
型式							
仕上							
硝子							
見込							
附属金物							
備考							

記号							
場所							
姿図							
型式							
仕上							
硝子							
見込							
附属金物							
備考							

株式会社 綜企画設計

承認	製図

特記

東京学芸大学
財務施設部 施設課

課長	副課長	係長	主任

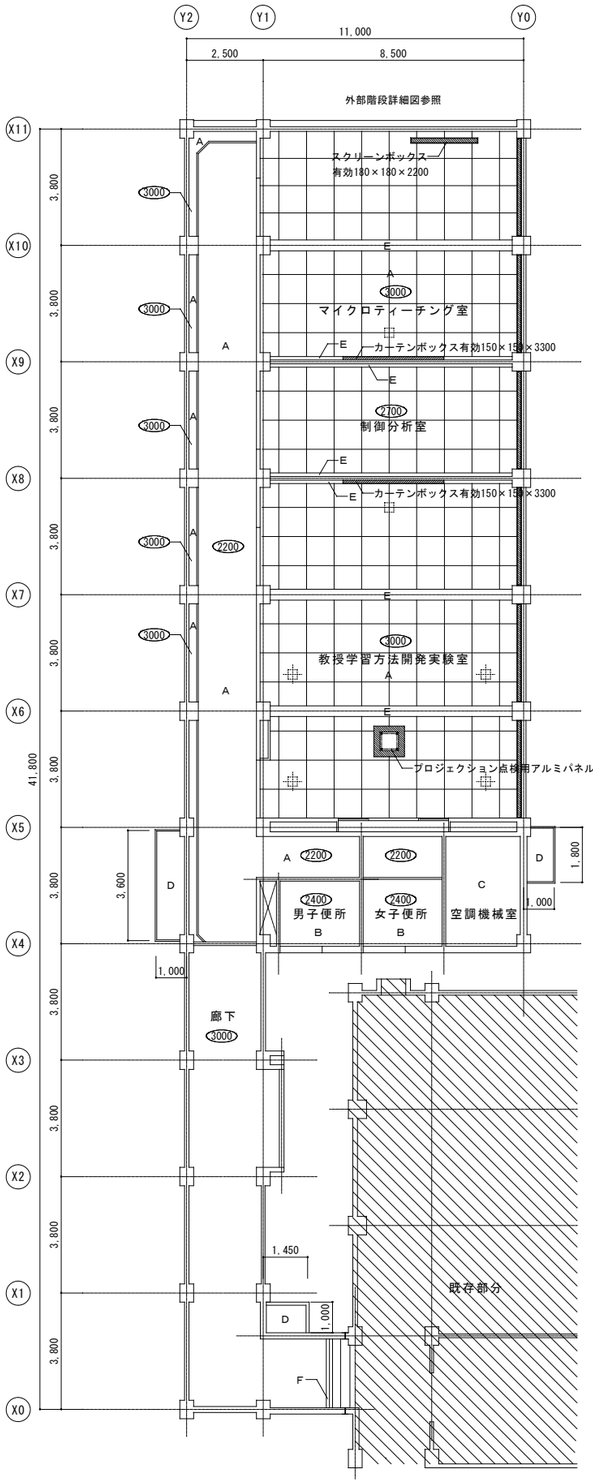
工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　建具表（2）【改修後】

縮尺 A1：1/50

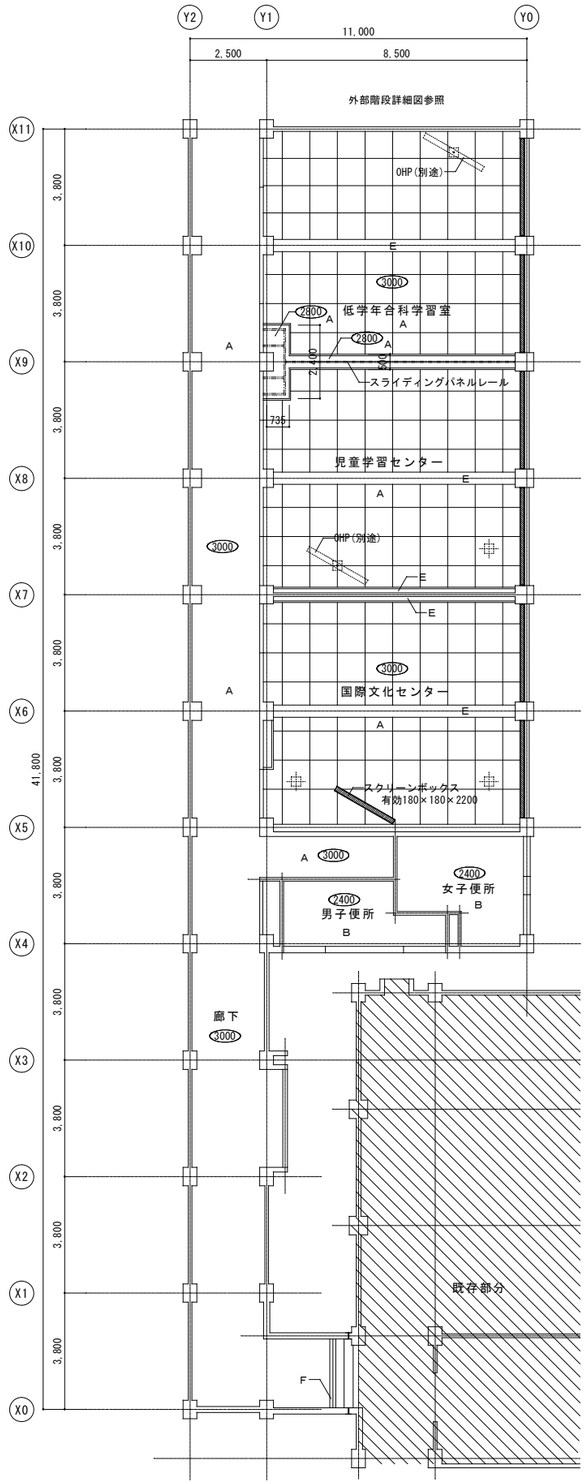
図面区分　建築意匠

図面番号　A-37



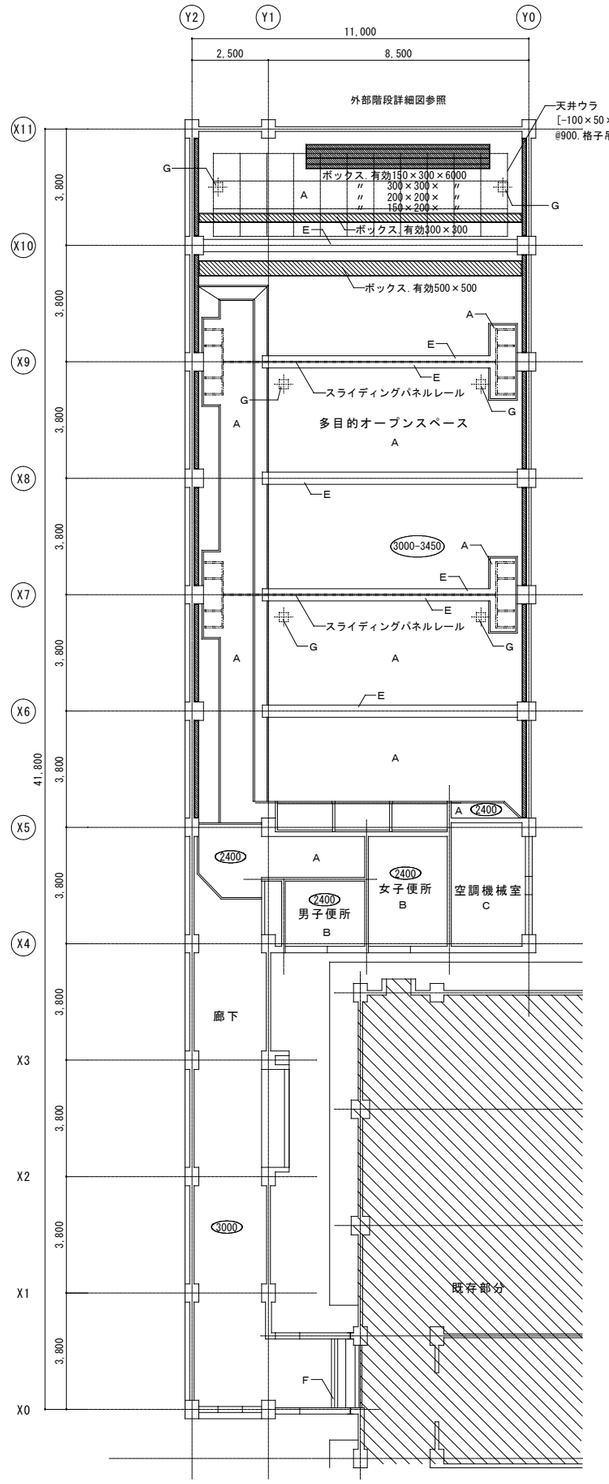
1階天井伏図　1/100

1階照明器具開口補強
1300×300-53カ所



2階天井伏図　1/100

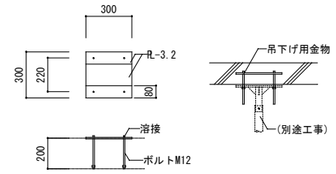
2階照明器具開口補強
1300×300-51カ所



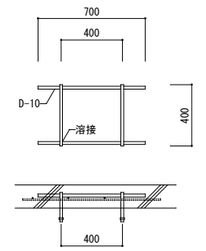
3階天井伏図　1/100

3階照明器具開口補強
1300×300-47カ所

吹出口開口補強
350φ-3カ所



テレビ,カメラ,OHP　吊下げ金物　1/20



プロジェクション吊下げ金物　1/20

凡例		改修内容
A	化粧石膏ボードt=9mm	下地共撤去
B	石綿スレートフレキシブル板t=4mm E.P.(目スカシ張り)	下地共撤去
C	木毛セメント板打込のまま t=15mm	既存のまま
D	コンクリートジカ仕上の上リシン吹付	高圧洗浄
E	梁型　モルタル金コテ仕上　E.P	既存のまま
F	EXP.Jカバー（ｱﾙﾐ製 ｸﾘｱﾗﾝｽ100）	天井カバーのみ撤去
G	モニター台（天吊モニター用金物残し）	一時取外し
▭	カーテンボックス,スクリーンボックス,(ラワンt=24 SOP塗り)	撤去
⊡	プロジェクション天井吊下げ用金物	撤去
⊞	テレビ,テレビカメラ,OHP　天井吊下げ用金物	撤去
⬭	天井高さ示す	

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記

東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

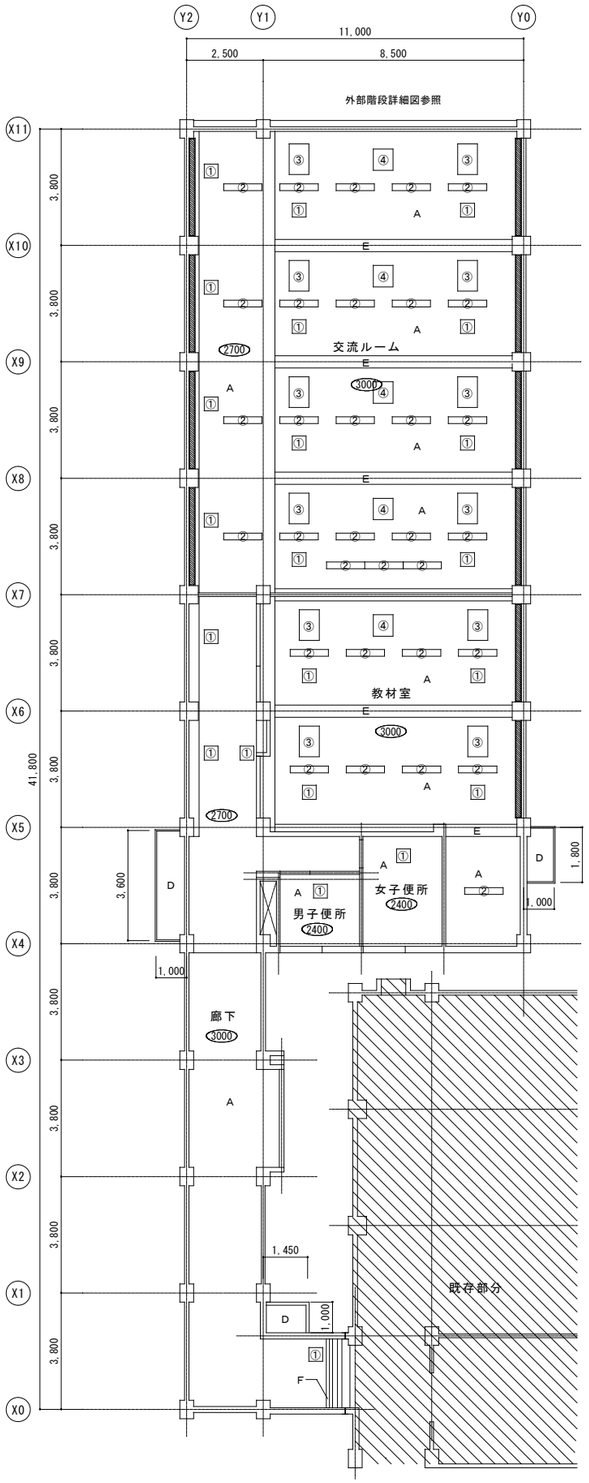
工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　天井伏図【既存】

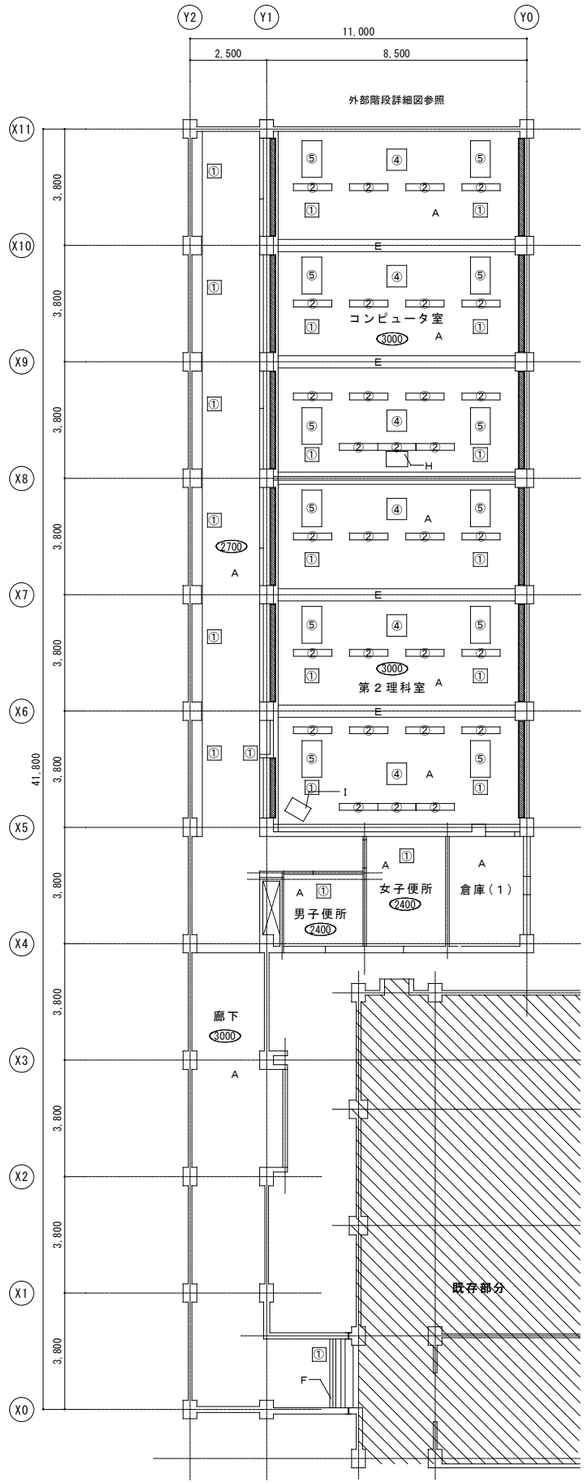
縮尺　A1：1/100　1/20

図面区分　建築意匠

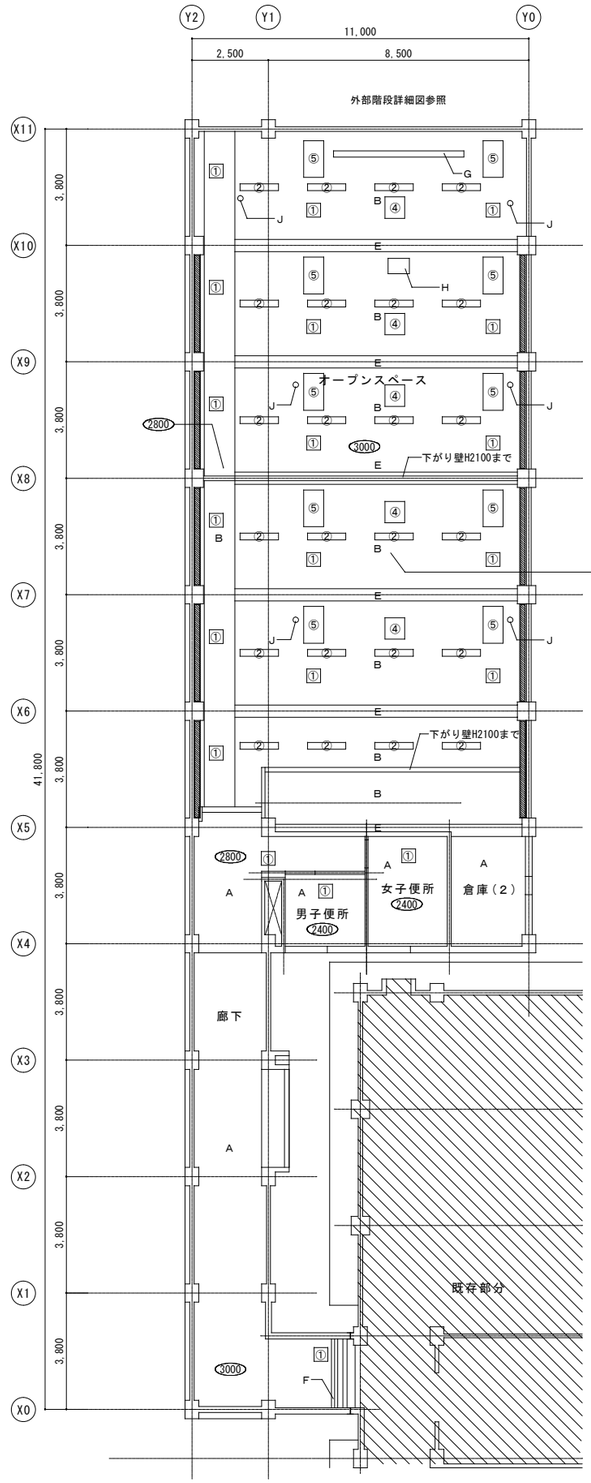
図面番号　A-38



１階天井伏図　1/100



２階天井伏図　1/100



３階天井伏図　1/100

オープンスペースの天井下地には斜め補強（□-19×10×1.2）を設ける
１スパンにつきＸ方向、Ｙ方向それぞれ各３箇所
＜６スパン×３箇所＝１８箇所（Ｘ，Ｙ方向それぞれ）＞

凡例			改修内容
A	化粧石膏ボードt=9.5mm		下地共新設
B	石膏ボードt=9.5mm＋ロックウール吸音化粧板ｔ12		下地共新設
C	欠番		-
D	コンクリートジカ仕上の上リシン吹付		下地調整の上塗装
E	梁型　モルタル金コテ仕上　E.P		下地調整の上塗装
F	EXP.Jカバー（アルミ製 クリアランス100）		天井カバーのみ新設
G	電動スクリーンボックス取付用金物		新設
H	天吊プロジェクター取付用金物		新設
I	天吊ＴＶ台用金物		新設
J	天吊モニター台		再取り付け
①	天井開口補強＋点検口450×450	64ヶ所	新設
②	天井開口補強　220×1250	86ヶ所	新設
③	天井開口補強　1000×650	12ヶ所	新設
④	天井開口補強　700×650	16ヶ所	新設
⑤	天井開口補強　1200×650	22ヶ所	新設
	カーテンボックス，スクリーンボックス．（ラワンt=24 SOP塗り）		新設
	天井高さ示す		

株式会社 綜企画設計

承認	製図

特　記

東京学芸大学
財務施設部 施設課

課長	副課長	係長	主任

工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

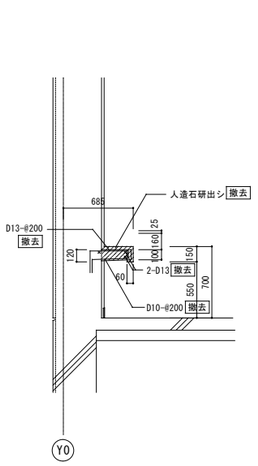
図面内容　天井伏図【改修後】

縮尺　A1：1/100　1/20

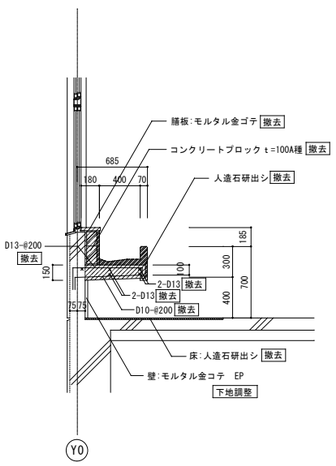
図面区分　建築意匠

図面番号　A-39

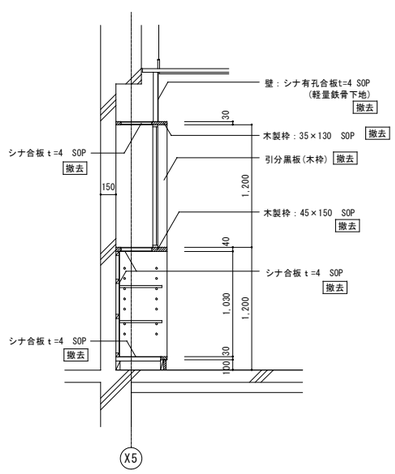
既存雑詳細図（撤去図）　1/30



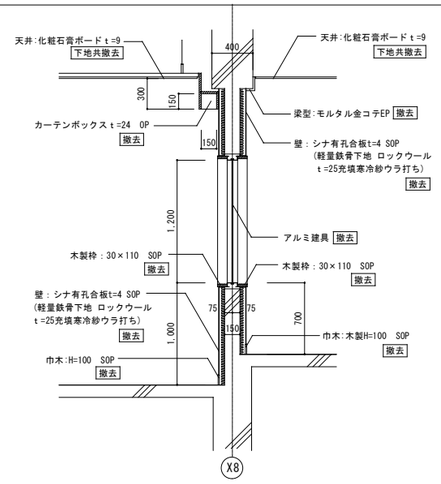
A－A断面



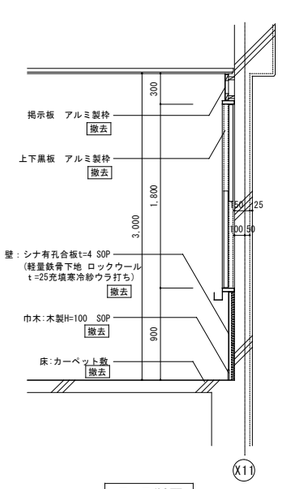
B－B断面



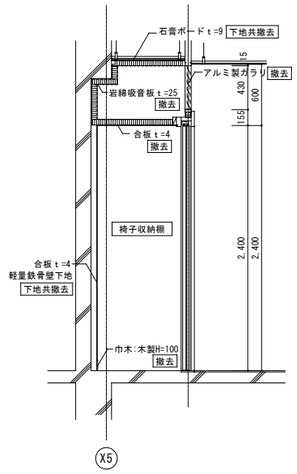
C－C断面



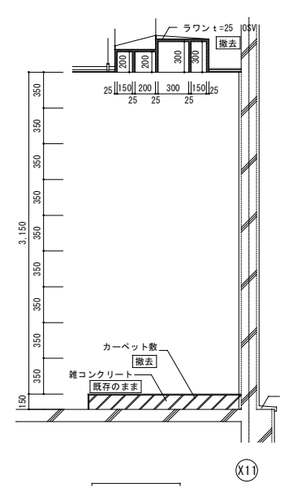
D－D断面



E－E断面



F－F断面



G－G断面

既存雑詳細図（撤去図）　1/30

H－H断面

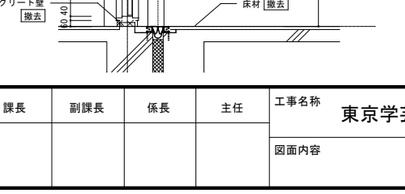
オープンスペース 鋼製床下地詳細図　1/5

H	h	a
185	132.6	14φ
335	282.6	34φ
485	432.6	42.7φ

114条区画・軽量鉄骨間仕切壁詳細図　1/10

配線ピット詳細図　1/10

既存



改修後

ライニング詳細図　1/10

	H寸法
小便器	1,300
大便器	1,100
ＳＫ	1,100

＊身障者便所のＨ寸法は展開図参照

3階 スロープ　詳細図　1/30

既存

改修後

渡り廊下 防火戸廻り改修詳細図（Ｉ－Ｉ断面）　1/30

既存

改修後

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　雑詳細図（１）

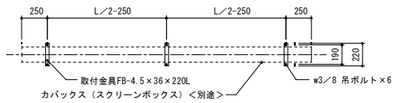
縮尺　A1：図示

図面区分　建築意匠

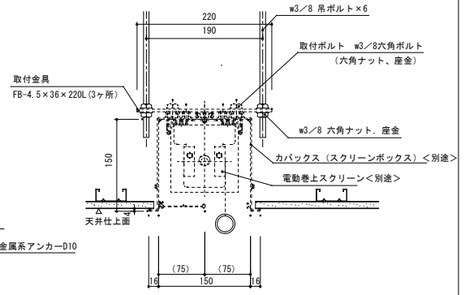
図面番号　A-40

天吊 スクリーン、プロジェクター 吊金物 詳細図

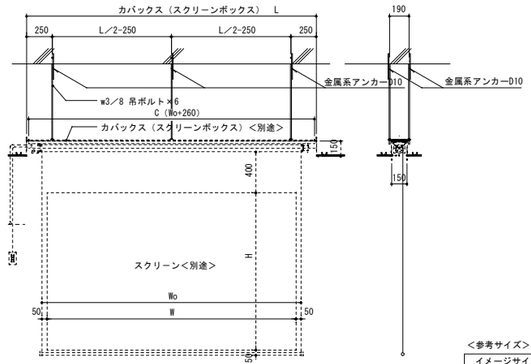
スクリーンボックス吊金物



ボックス取付位置平面図 s=1／30



断面詳細図 s=1／5

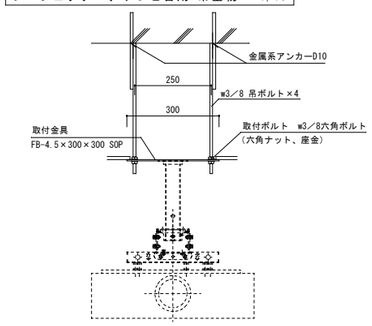


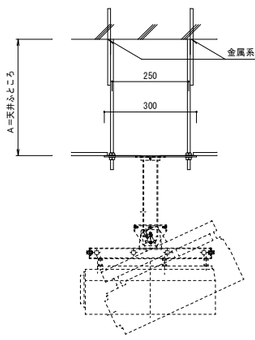
巻上スクリーン姿図 s=1／30

＜参考サイズ＞

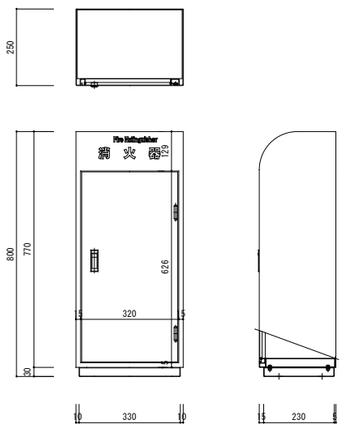
イメージサイズ W × H	生地幅 Wo	天板全長 C	φR	重量（kg）	カバックス寸法（内寸） X × Y × L
2438×1829	2538	2798	68	19.0	150×150×2838

プロジェクター、テレビ台用 吊金物 1/10



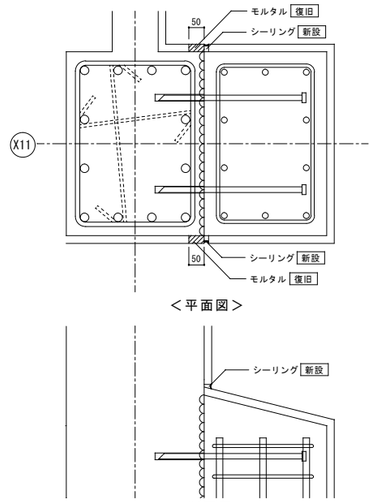


消火器ボックス 1/10

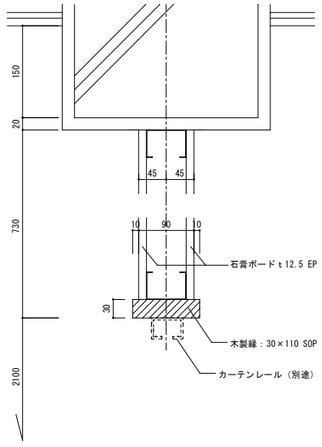


＜㈱ユニオン UFB-3F-811 同等品＞

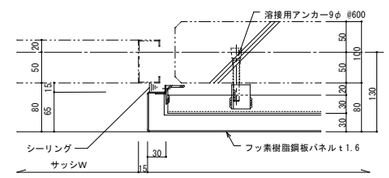
補強外部柱廻り詳細図 1/10



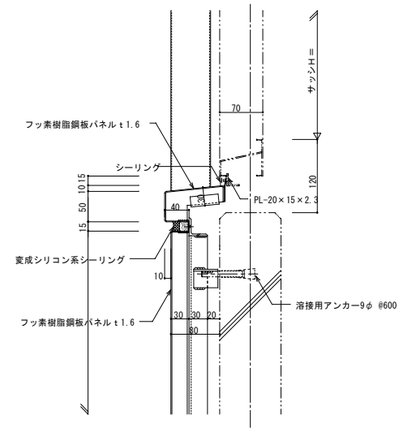
オープンスペース カーテンレール廻り詳細図 1/30



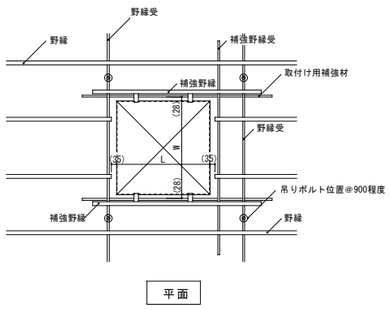
フッ素樹脂鋼板パネル詳細図 1/5



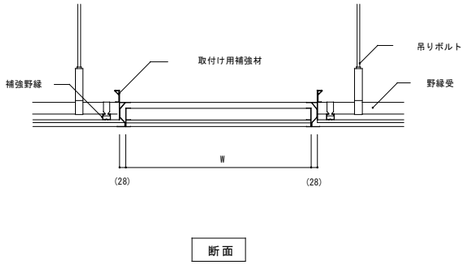
平面図



天井点検口 開口補強 1/10

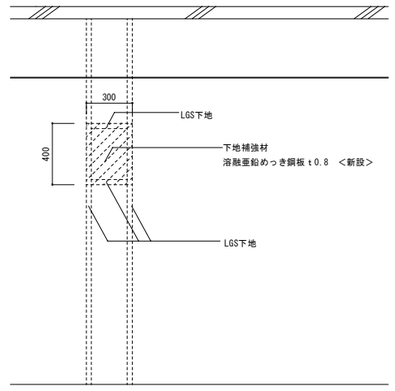


平面

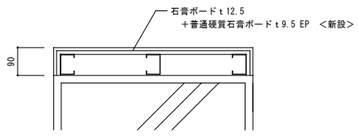


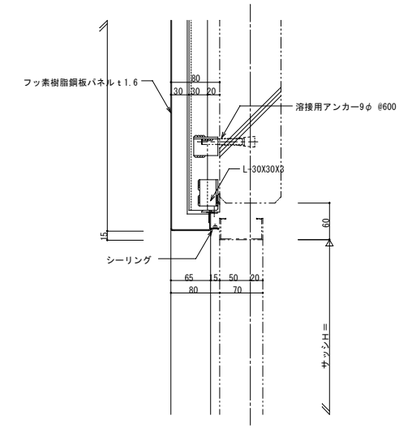
断面

スピーカー設置箇所の壁補強 1/30



コンセント、スイッチ等ふかし壁詳細図 1/30





断面図

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記

東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

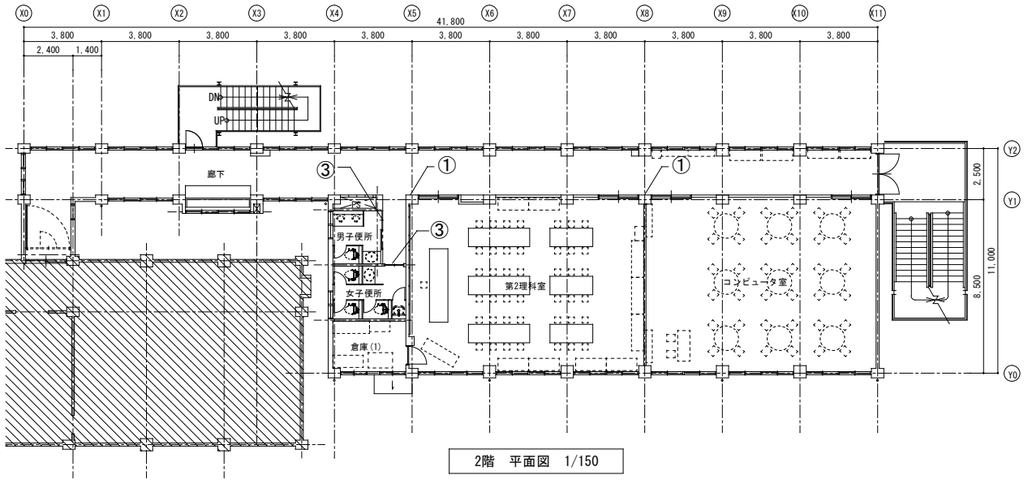
工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容 雑詳細図（２）

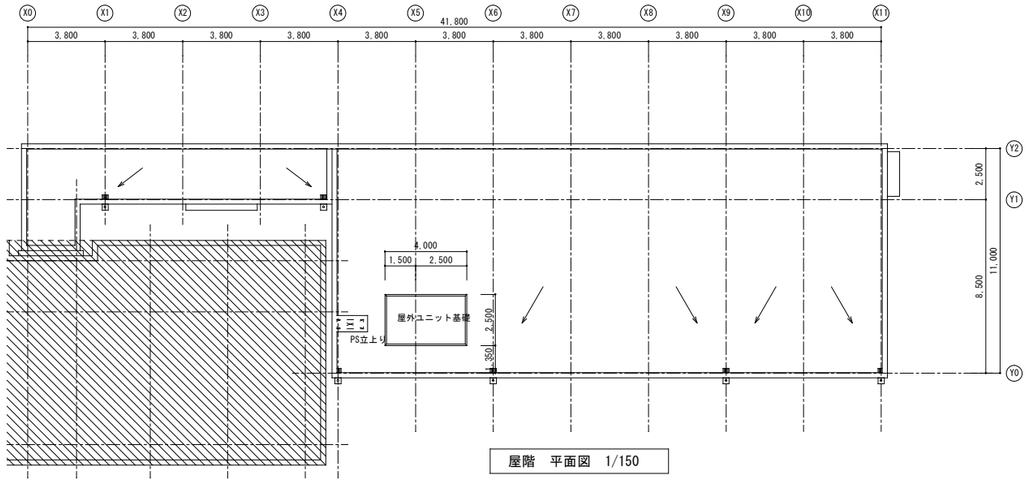
縮尺 A1：図示

図面区分 建築意匠

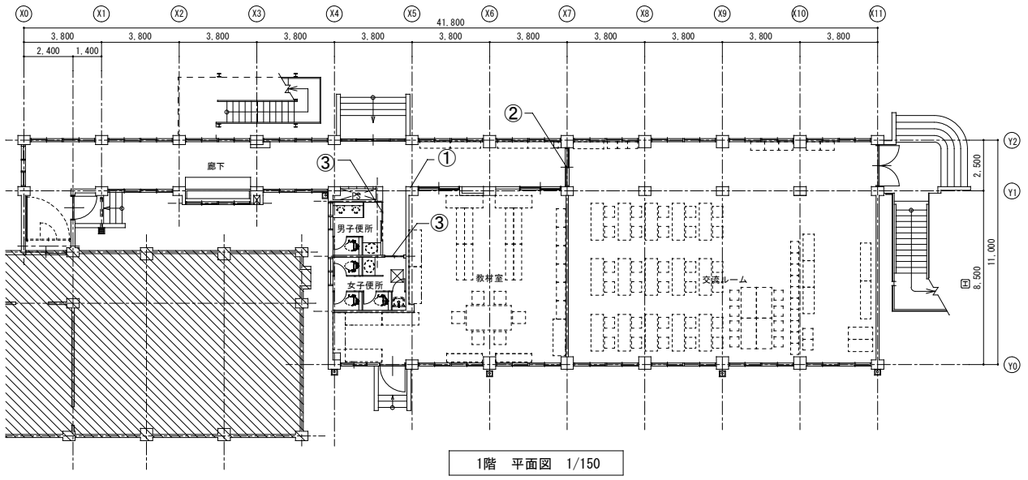
図面番号 A-41



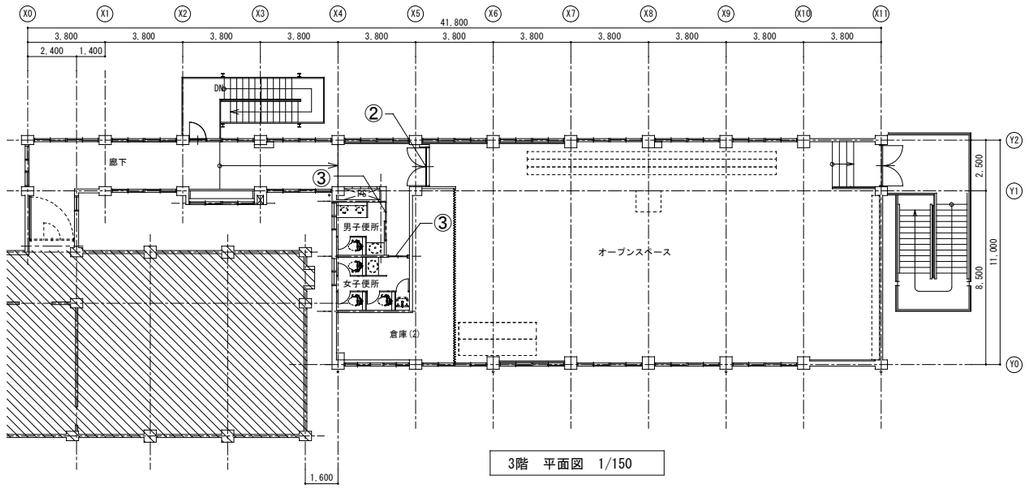
2階　平面図　1/150



屋階　平面図　1/150

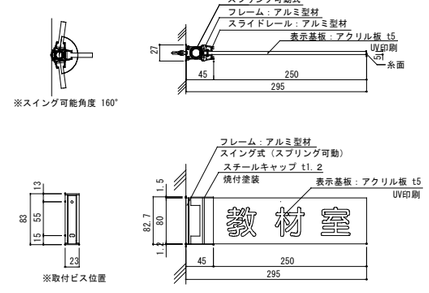


1階　平面図　1/150

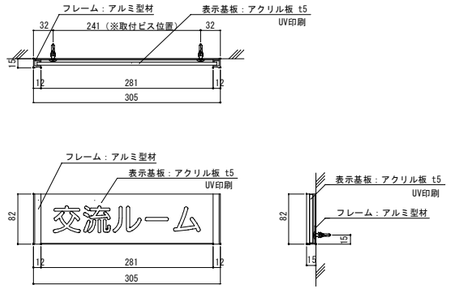


3階　平面図　1/150

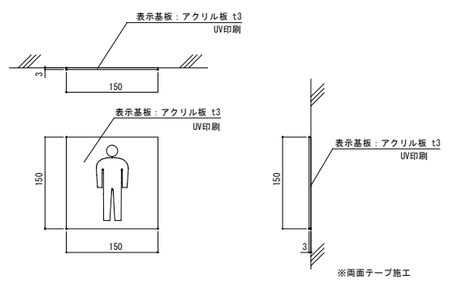
①突出型室名札　1/5



②平付型室名札1　1/5



③平付型室名札2　1/5



■サイン特記仕様

［1］使用材料
- a．木材：ＶＯＣ商品（ホルムアルデヒド基準Ｆ☆☆☆☆対応）とする。
- b．アルミ：ＪＩＳ－Ｈ４１００　Ａ－６０６３　Ｓ－Ｔ５（アルミ押出型材）
- c．アクリル：ＪＩＳ－Ｋ－６７１８
- d．ステンレス：ＪＩＳ－Ｇ４３０５　ＳＵＳ３０４、ＨＬ仕上

［2］フォント
- a．書体については、丸ゴシックは「スーラＤＢ」、角ゴシックは「新ゴＭ」を基準とする。
  ※ただし、係員より特定の書体の指示があった場合にはこの限りではない。

［3］ピクトグラム
- a．図柄については、原稿を作成し係員の承認を受けること。

［4］取付位置・方法
- a．取付位置については、視認性を考慮し係員と協議の上決定する。
- b．取付方法については、取付位置の下地などを考慮し適切な方法で取り付けを行うこと。

［5］その他
- a．室名札については、部屋の移動・名称変更に対応できるよう脱着式を基本とする。
  又、室名札脱着の際には　スライドロック機構、専用吸盤などを利用し
  商品の損傷等がなくスムーズに脱着できる仕様とすること。
- b．サイン計画については、当施設の他工事と充分に調整協議をすること。

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容	サイン詳細図	縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図面区分 建築意匠 / 図面番号 A-42

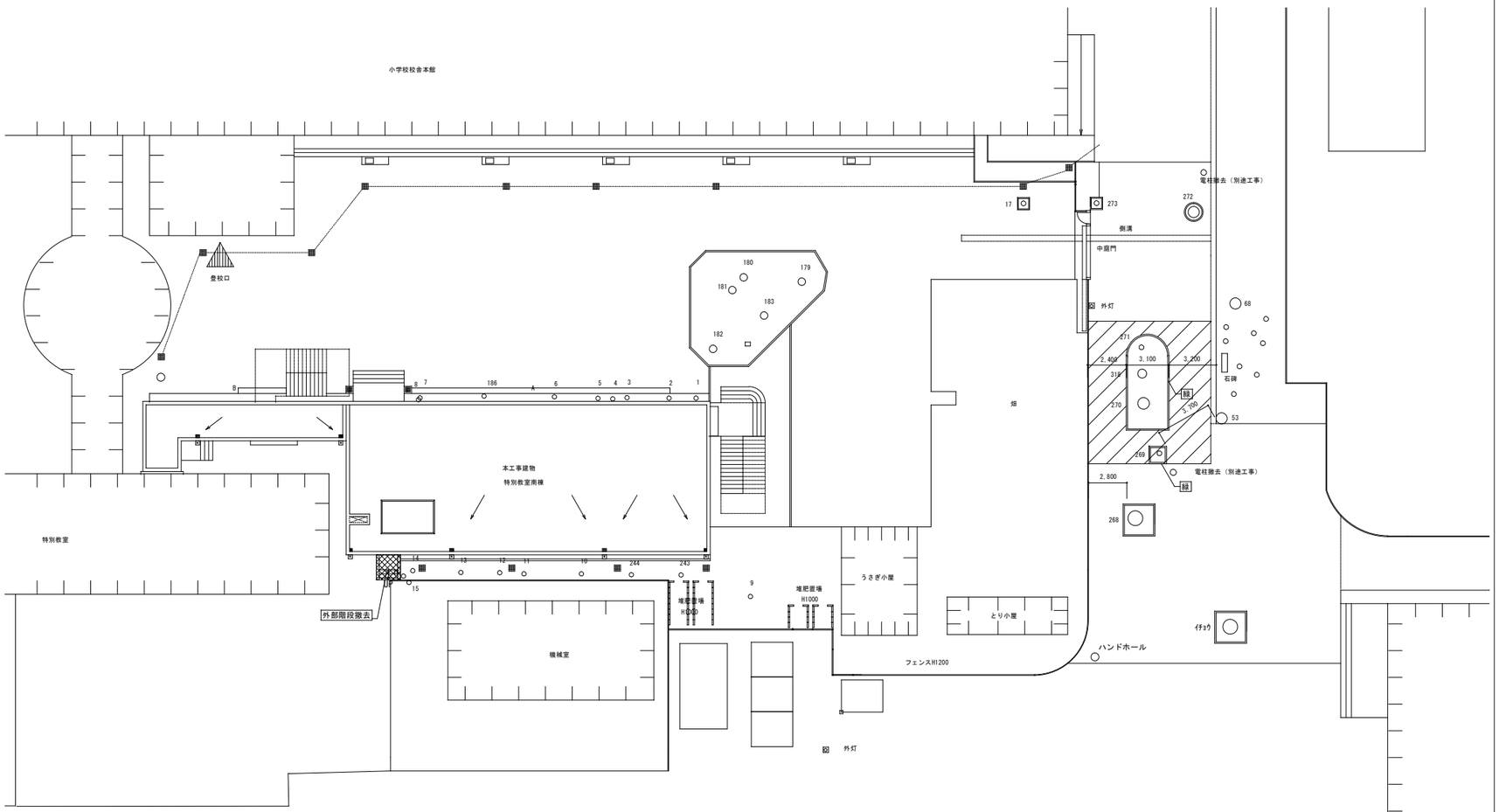
樹木リスト

No.	樹木名	目通り	樹高	工事内容
A	つつじ		1	20本移植 10本枯れ撤去処分
B	つつじ		1	30本移植
1			2.4	
2	もみじ		4	
3	もみじ		4	
4	もみじ		4	
5	もみじ		4	伐根処分
6	もみじ		2	
186	えのき	0.26 0.18	9	
7	もみじ		5	
8	びわ		5	

No.	樹木名	目通り	樹高	工事内容
9	ねずみもち		10	
243	しゅろ		10	
244			10	
10			10	
11			4	伐採処分
12	しゅろ		10	
13	しゅろ		10	
14	とうねずみもち		10	
15	ねずみもち		10	
16	えのき		10	
17			10	枝払い

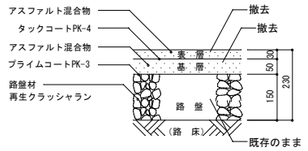
No.	樹木名	目通り	樹高	工事内容
179	サンゴジュ	0.56 0.43 0.56	6	
180	エノキ	0.72 0.35	7.5	枝払い
181	オニグルミ	0.97	10	枝払い
182	イイギリ	0.93	11	枝払い
183	オニグルミ	0.67	10	
53	シラカシ	1.38	14	
68	イチョウ	2.14	16	
268	イチョウ	1.99	20	
269	ネズミモチ	0.3 0.4 0.4 0.6	7	伐根処分
270	ソメイヨシノ	1.28	6.5	伐根処分
271	ツバキ	0.37 0.29	4	伐根処分
272	イチョウ	1.38	15	
273	イロハモミジ	0.56	5	
318	エノキ	0.22	5	伐根処分

※A・Bつつじ移植先は小学校運動場北の既存植込　の空き部分へ

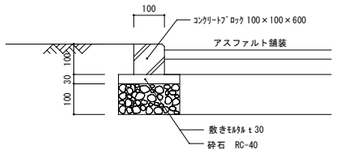


符号	名称	摘要	数量	備考
緑	コンクリート縁石		24.5m	撤去
	アスファルト舗装		75㎡	撤去

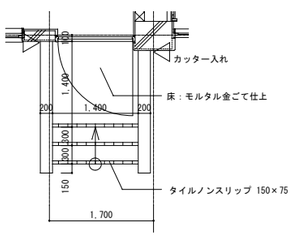
アスファルト舗装　1/10

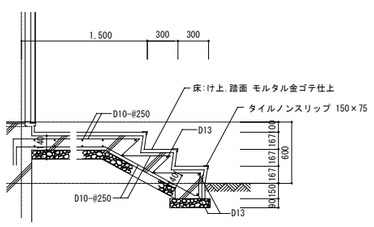


コンクリート縁石　1/10



外部階段　1/30





承認	製図	特記

株式会社 綜企画設計

東京学芸大学
財務施設部 施設課

課長	副課長	係長	主任

工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　外構図【既存】

縮尺　A1：1/100　A3：1/200

図面区分　建築意匠

図面番号　A-43

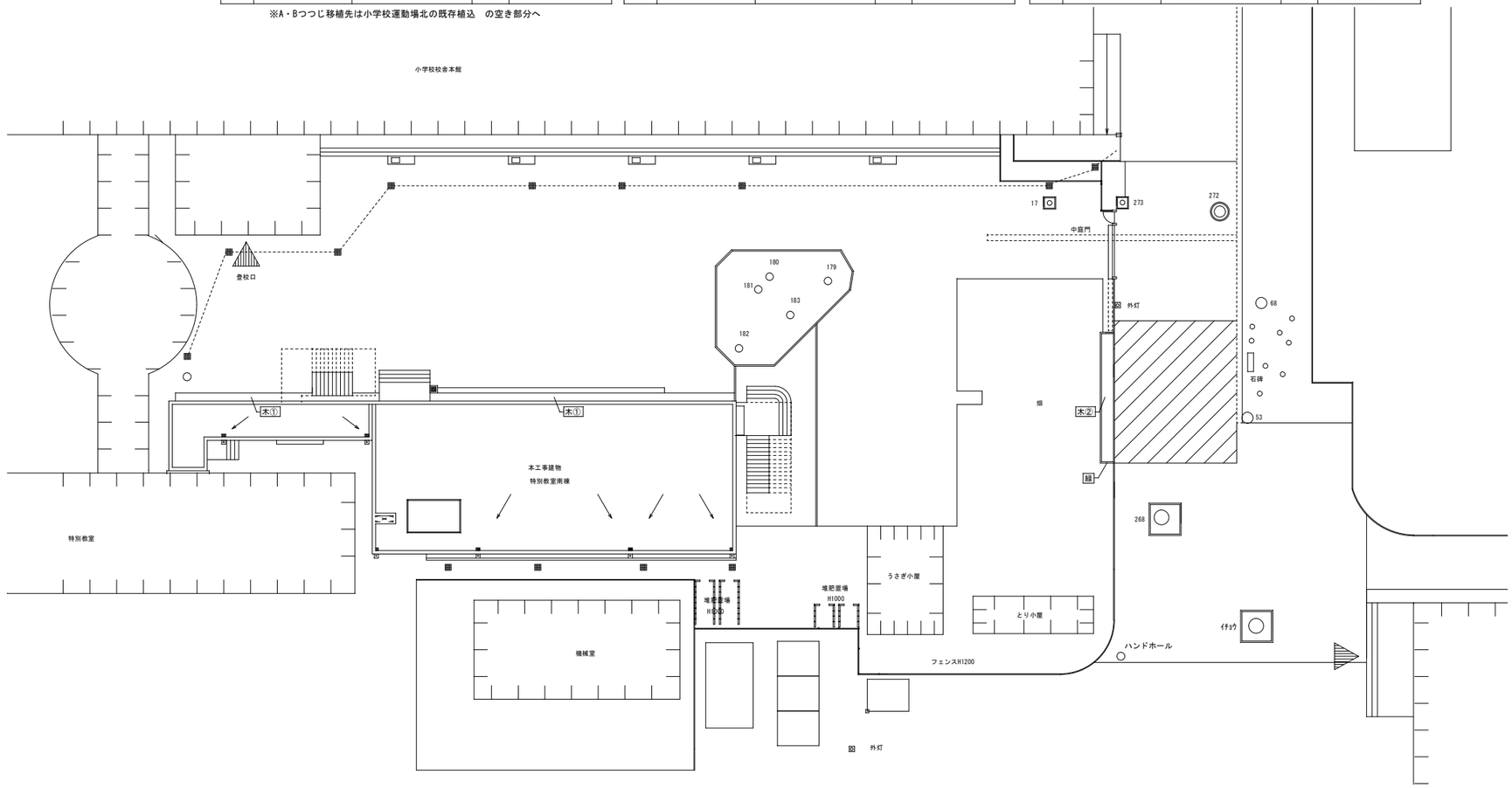
樹木リスト

No.	樹木名	目通り	樹高	工事内容
A	つつじ		1	20本移植 10本枯れ撤去処分
B	つつじ		1	30本移植
1			2.4	
2	もみじ		4	
3	もみじ		4	
4	もみじ		4	
5	もみじ		4	伐根処分
6	もみじ		2	
186	えのき	0.26 0.18	9	
7	もみじ		5	
8	びわ		5	

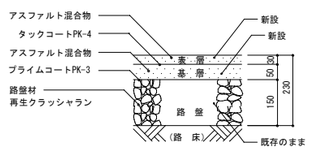
※A・Bつつじ移植先は小学校運動場北の既存植込　の空き部分へ

No.	樹木名	目通り	樹高	工事内容
9	ねずみもち		10	
243	しゅろ		10	
244			10	
10			10	
11			4	伐採処分
12	しゅろ		10	
13	しゅろ		10	
14	とうねずみもち		10	
15	ねずみもち		10	
16	えのき		10	
17			10	枝払い

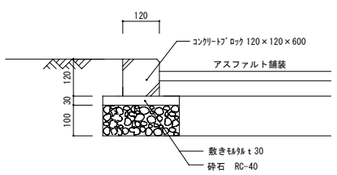
No.	樹木名	目通り	樹高	工事内容
179	サンゴジュ	0.56 0.43 0.56	6	
180	エノキ	0.72 0.35	7.5	枝払い
181	オニグルミ	0.97	10	枝払い
182	イイギリ	0.93	11	枝払い
183	オニグルミ	0.67	10	
53	シラカシ	1.38	14	
68	イチョウ	2.14	16	
268	イチョウ	1.99	20	
269	ネズミモチ	0.3 0.4 0.4 0.6	7	伐根処分
270	ソメイヨシノ	1.28	6.5	伐根処分
271	ツバキ	0.37 0.29	4	伐根処分
272	イチョウ	1.38	15	
273	イロハモミジ	0.56	5	
318	エノキ	0.22	5	伐根処分



アスファルト舗装　1/10



コンクリート縁石　1/10



符号	名称	摘要	数量	備考
縁	コンクリート縁石		11m	
木①	樹木（アオキ）	高さ 1.0m 枝張り 0.6m 程度	37本	
木②	樹木（サクラ）	高さ 2.0m 枝張り 1.0m 程度	3本	
	アスファルト舗装		97㎡	

※　既存境界線ブロック・アスファルトを
撤去する際は樹木根を傷めないこと。

株式会社 綜企画設計

承認	製図	特記

東京学芸大学
財務施設部 施設課

課長	副課長	係長	主任

工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　外構図【改修後】

縮尺　A1：1/100　A3：1/200

図面区分　建築意匠

図面番号　A-44

構造特記仕様書

① 工事概要

1．工事件名　　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

2．工事場所　　東京都練馬区東大泉５－２２－１

3．工事規模　　鉄筋コンクリート造３階建て　　延床面積　1,015㎡

4．工事計画　　本工事は、既存の構造体に対して部材を増設することに依って耐震性の向上及び構造の改善を図るもので、既存躯体との接合がきわめて重要である。また、この工法は限られた場所で行われるもので、一般の建築工事とは施工方法等相当異なる面がある。特に次の点に十分注意すること。

a) 躯体寸法、階高寸法その他は実測による。
b) 既存コンクリートとの一体化を図る。
c) 新設部材と既存部材との定着を十分行う。
d) 騒音、粉塵および汚染等の支障を及ぼす範囲をできるだけ小さくする。
e) 仕上およびコンクリート等の撤去に際しては、最小限必要な範囲とし、残りの部分を傷めないように十分注意する。
f) 既存配管、配線および器具等を十分に調査し、損傷を与えないように注意する。
g) 施工に先立ち全工程の施工計画書を作成し、承認を得ること。

5．工事内容　　工事項目、箇所数は下表による。

工事項目	箇所数
ＲＣ柱増し打ち	1
ＲＣ壁開口及び柱新設	2

また、上記工事に伴う撤去・修復等の工事も併せて行うものである。

② 総　則

1．適用範囲　　本工事は、設計図および本特記仕様書に基づくものとし、これらに記載なき場合は、次に定める優先順位の仕様書に拠ることとする。

1） 本特記仕様書
2） 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（最新版）
3） 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（最新版）
4） 建築工事標準詳細図（最新版）

2．疑義または軽微な変更　　なお、現状と設計図書との内容に相違があった場合や不明な箇所が生じた場合は、全て監督員との協議によるものとする。

③ 仮設工事　　仮設工事は、次の各項に留意して行うこと。

a) 工事期間中の安全確保と振動・騒音・汚染等の防止に努めること
b) 増設部材の周りには、本足場を設けて施工性の向上と安全性の確保を図る。
c) 既存部材の仕上材および器具類に損傷を与えないよう十分注意すること。
なお、解体時は防音シート等にて養生し、ブレース搬入後はシート等にて養生する。
万一、損傷した場合には同等品にて復旧する。

④ 撤去・復旧・補修工事

1．工事手順　a) 増設部材と接する既存コンクリート面は十分に目荒しを行う。
b) 塗り仕上またはこれに準ずる仕上材および躯体を撤去する場合は、カッターにて切込みを付けてから撤去する。なお、躯体を撤去する場合は両面からカッターで切込みを付けてから撤去する。

2．注意事項　a) コンクリートおよび塗り仕上を部分的に撤去する場合は、既存部分の仕上に損傷を与えないように十分注意する。特に塗り仕上、増設部材設置構面内の壁コンクリート及び土間コンクリート等の撤去に際しては、カッター等で切込みを付け、既存部分の保護を図る。
b) 増設する部材に接する既存コンクリートは、十分に目荒しを行い増設部材との一体化を図る。
c) はつり工事は構造躯体に悪影響を与えない方法で丁寧に行うこと。（電気ピックを用いる等）
d) コンクリート打設前に粉塵・はつりがら等を清掃し、十分に水湿めを行う。
e) 既存の構造体にひび割れや欠損等の不良部がある場合は、監督員と協議する。
f) 既存躯体から鉄筋が露出して発錆している場合は、防錆処理を行う。
g) 発生材の処分に際しては、廃棄物の処理に関する法律に準拠する。

⑤ 鉄筋工事

1．鉄筋　　鉄筋の種類

規　格	種　別	呼び径	適　用
JIS G 3112 鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295A	D10	柱HOOP
	SD345	D19、D22	柱主筋

2．鉄筋継手　　継手工法

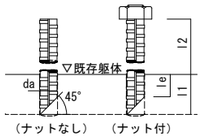
規　格	呼び径	適用箇所
圧　接	D19、D22	柱主筋

⑥ あと施工アンカー工事

1．使用材料　a) 接着系アンカーはエポキシ系、エポキシアクリレート系または、ポリエステル系のカプセル型接着系アンカーとする。
b) アンカー筋　SD295A（D10～D16），SD345（D19以上）
頭付き異形アンカー筋（頭部は摩擦圧接法による）または同等の強度を有する頭部をねじ切り加工しナットを取り付ける

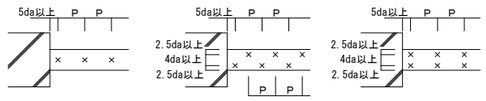
2．埋込み配管等の探査　a) 方法は、鉄筋探知機（金属探知器）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出を行う。

3．施工　a) 穿孔工法は、ダイヤモンドコアドリル等の低騒音系ドリルを使用。
b) 樹脂アンカーは施工業者の責任施工とし、(社)日本建築あと施工アンカー協会の認定する施工管理技術者を置き、作業者は同協会認定の施工士又は同等の技術を有するものとし、監督員の承諾を受ける。
c) 穿孔に失敗した場合は、アンカー芯よりも内側に再度穿孔すること
d) 穿孔失敗部分は躯体と同等以上の強度のモルタルで補修すること
e) アンカーの寸法は特記による。
f) 施工では埋込み深さ、設計では有効埋込み深さを用いる。
有効埋込み深さ（le）と埋込み深さ（l1）の関係は下式となる。
なお、接着系の場合は、金属系アンカーと異なり、埋込み深さと孔深さは同じである。



le = l1 － da
le ：有効埋込み長さ（特記による）
l1 ：埋込み長さ（孔深さ）
l2 ：接合筋の定着長さ（特記による）
da ：アンカー筋の外径

g) あと施工アンカーの配置
1) Ｐは、あと施工アンカーのピッチで特記による。
2) あと施工アンカーのピッチＰは、７．５ｄａ以上、３００mm以下とする。
3) ｄａは、アンカー筋径。１０mm≦ｄａ≦２２mmとする。



4．確認試験　a) 試験方法　（社）日本建築あと施工アンカー協会のあと施工アンカー標準試験法による。
b) 打設された接着系アンカーはその全数に対してテストハンマーにより打音試験を行う。また実際に打設された接着系アンカーの１ロットあたり各径ごとに、３本の引張試験を行う。
（１ロットとは、１組の作業班は１日に施工した数量）
c) 引張荷重は設計引張強度の２／３を限度として行う。引張試験の結果、１本でも不合格と判定された場合は、全数の20%を試験し、さらに、その中で不合格のものがあれば監督員と協議すること。
d) 接着系アンカーの引張試験

階	補強部位	アンカー径	姿勢						確認耐力 (kN)
			上向き		下向き		横向き		
			総本数	試験本数	総本数	試験本数	総本数	試験本数	
2	X11-Y2柱増打	D16	－	－	－	－	36	3	34.9
1	X11-Y2柱増打	D16	－	－	－	－	48	3	34.9
2、1	X5通り新設柱	D22	8	3	8	3	－	－	89.0

※接着系アンカーの試験本数は、各棟共１日で全て打設されると仮定し、総ロット数を１ロットとして算出している。
※上記あと施工アンカー以外については監督員の指示による。

⑦ コンクリート工事

1．コンクリート

a) コンクリートの設計基準強度（Fc）は、次による。

設計基準強度（Fc）	スランプ（cm）	適用範囲
27 N/mm²	18	柱

b) コンクリートの調合
ＪＡＳＳ５（２００９）５節による
c) コンクリートの品質管理・検査および措置
ＪＡＳＳ５（２００９）１１節による
d) セメントの種類は、次による。
ＪＩＳ Ｒ ５２１０ 普通ポルトランドセメント
e) 粗骨材の最大寸法は、次による。

使用箇所	粗骨材の最大寸法	
	砂利	砕石、高炉スラグ骨材
柱	20mm	20mm

f）混和材の種類は、次による。
高性能ＡＥ減水剤

2．強度試験　a) 圧縮強度試験は公的機関にて行う
b) 圧縮強度試験体数は28日強度確認用に３本とし、１日施工する毎に供試体を作成する。

3．注意事項　a) 型枠等の架構に先がけて既存躯体の寸法等の実測及び位置の確認を行い、新旧躯体の納まりが確実になるように十分な注意を払う。
b) 既存躯体にジャンカなどの瑕疵が認められる場合の処置は監督員との協議による。
c) コンクリート打設時に型枠の移動やセメントペーストの流出が生じないよう、サポートやゴムパッキンを用いるなどし、コンクリート打込みに不備が生じないよう十分に注意を払う。
d) コンクリートの打設にはバイブレーターなどを用い、密実なコンクリートを打設する。
e) コンクリート強度の発現中（打設から5日間程度）は十分な湿潤養生を行う。
また、養生中は振動等を与えないように注意する。
f) 耐震壁増設部及び開口閉塞壁部の場合は、既存壁下から200mmの位置でコンクリートを打ち止め、モルタルを圧入する。
g) 施工に先立ち配合計画書を作成し、監督員の承認を得ること。

4．型枠　a) せき板の種類　　合　板

5．打放し仕上げの種別　a) 種　別　　Ｂ　種

⑧ モルタル圧入工事

1．使用材料　a) 既存コンクリート躯体と増設部分との間にグラウトするモルタルは、早強形特殊セメント系無収縮モルタルとし、下記に示す品質を有するものとする。
なお調合は、プレミックスとする。

項目	コンシステンシーの範囲 Ｊ１４ロート（秒）	圧縮強度 (N/mm²)	膨張収縮 ($\times 10^{-4}$)
品質	メーカー仕様による	３０以上	0

2．材料試験　a) 圧縮強度試験のための供試体は、ＪＩＳ Ａ １１３２（コンクリートの強度試験用供試体の作り方）に準じ、直径５０mm、高さ１００mmの円柱形とする。
b) 圧縮試験はＪＩＳ Ａ １１０８（圧縮試験の試験方法）により行う。
c) 供試体の材齢は３日、７日、２８日とし、養生は封かん養生とする。
d) 試験体の採取は、午前、午後の打設前、及び最終打設時の３回を標準とする。
e) 数量は材齢に応じそれぞれ１体とする。ただし、１日の打設量が3m³を超える場合には、増加量2m³以内毎に１回を追加する。

3．注意事項　モルタル圧入工事は、メーカーまたはメーカーが認める施工業者の責任施工とし、次の各項を遵守して行うこと。
a) モルタルの練り混ぜに使用するミキサーは、アルミ製の物を使用してはならない。
b) 事前に詳細な施工要領書を監督員に提出し承認を得る。
c) 打込み前に既存コンクリート表面およびコンクリート打継ぎ部の清掃および水湿を十分に行う。（吸水防止剤の塗布等も有効である。）
d) 圧入は適切な圧力で中断しないように行う。
e) グラウト孔、空気抜き孔は特記による。
f) グラウト孔にホースを接続し、連続圧送を行う。無収縮モルタルが空気抜き孔に出てくることを確認した段階で注入を中断し、各空気抜き孔を封栓した後、再び加圧圧入を行い作業を終了する。
g) モルタル圧入部の型枠（鋼製または木製）は注入圧力に耐えうるグラウト用とし、周囲に急結性または速乾性コーキング材等を施し、モルタル漏れのないようにする。
h) 圧入モルタルの練り上り温度は10℃～35℃の範囲のものを圧入する。
i) 養生期間は３日以上とする。その後の型枠取外しの時期は監督員の指示による。
j) 圧入モルタルの硬化中は、圧入口・空気抜きパイプ等の密栓（バルブ・コック）を確認し有害な衝撃・振動を与えない。

⑨ その他

1．耐震改修工事に際し、構造体、二次部材、建具及び設備機器等が不具合、著しい劣化などが認められた場合、発注者、監督員または設計者と協議し対処する。

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特　記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任

工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事
図面内容　構造特記仕様書
縮尺　A1：-/--　A3：-/--
図面区分　建築構造
図面番号　S-01

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

1. 一般事項

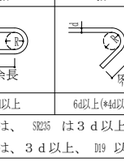
(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記　号

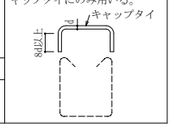
d‥ 異形棒鋼の呼び名に用いた数値（丸鋼では径）　D‥ 部材の成　R‥ 直径
@‥ 間隔　r‥ 半径　℄‥ 中心線　l₀‥ 部材間の内法距離　h₀‥ 部材間の内法高さ
ST‥ あばら筋　HOOP‥ 帯筋　S.HOOP‥ 補強帯筋　φ‥ 直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状　（＊は片持ちスラブ上端筋の先端を示す）

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(＊4d以上)	8d以上(＊4d以上)
折曲げ内法寸法Rは、 SR235 は３ｄ以上、 SD295A 、 SD295B 、 SD345 の D16 以下は、３ｄ以上、 D19 以上は、４ｄ以上			

折曲げ角度９０度はスラブ筋壁筋の末端部又はスラブと同時に打ち込むT形及びL形梁のキャップタイにのみ用いる。



(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状（鉄筋の折曲げ角度９０°以下）

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法（R）
	帯　筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235, SD295A	16φ D16 以下	3d以上
		SD295B, SD345	19φ D19 以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235, SD295A	16φ D16 以下	4d以上
		SD295B, SD345	19φ ～ 25φ D19 ～ D25	6d以上
			28φ ～ 32φ D29 ～ D38	8d以上

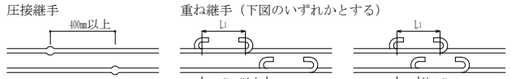
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm²)	定着の長さ 一般 (L₂)	定着の長さ 下端筋 (L₁) 小梁	定着の長さ 下端筋 (L₁) スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ (L₁)
SR235	21 22.5 24	35d フックつき	25d フックつき	15cm フックつき	35d フックつき
	15 18	45d フックつき			45d フックつき
SD295A SD295B SD345	21 22.5 24	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 15cm 以上	40d または 30d フックつき
	15 18	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき

継　手　1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない。
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする。
4. Ｄ２９以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
5. 鉄筋径の差が７mmを超える場合は、圧接としてはならない。

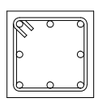
ガス圧接形状　3mm以下　1.2d以上　1.4d以上　1.4d～1.5d以下　d/4以下
θ ＞ 80°　圧接面　圧接面　圧接面

圧接継手　　重ね継手（下図のいずれかとする）



(4) かぶり厚さ　（単位：mm）

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても最少かぶり厚さを確保する。

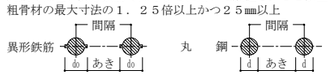


部位			設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋　内	30	30(20)
		屋　外	40 (1)	30(20)
	柱 はり 耐力壁	屋　内	40	30
		屋　外	50 (2)	40 (30)
	擁　壁		50 (3)	40
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・耐力壁		50	40 (4)
	基礎・擁壁		70	60 (4)

(注) (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて３０mmとすることができる。
(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて４０mmとすることができる。
(3) コンクリートの品質及び施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて４０mmとすることができる。
(4) 軽量コンクリートの場合は、１０mm増しの値とする。
(5) （ ）内は仕上げがある場合を示す。
改定により標準かぶり厚さは１０mm増し

(5) 鉄筋のあき

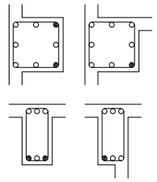
丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値１．５ｄ以上
粗骨材の最大寸法の１．２５倍以上かつ２５mm以上



(6) 鉄筋のフック

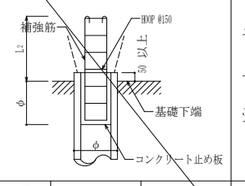
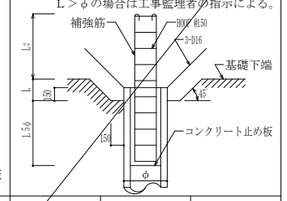
（ａ～ｆに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。）
a. 丸鋼　b. あばら筋、帯筋　c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁（基礎梁は除く）の出隅部分の鉄筋（右図参照）
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



3. 杭　（地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。）

(1) ＰＣ杭、又はＰＨＣ杭の全てに補強を行う。

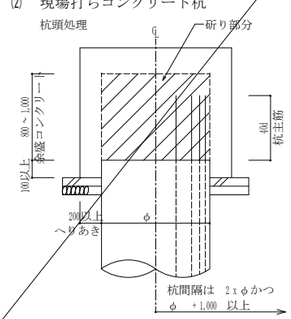
所定の位置に止まった場合	所定より低く止まった場合
	

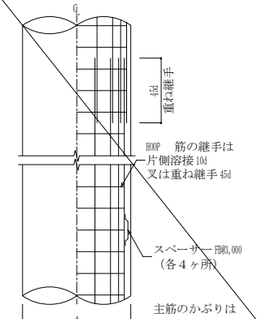
但し　L≦φの場合
L＞φの場合は工事監理者の指示による。

杭　径	300φ,350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
HOOP	D10-@150				

(2) 現場打ちコンクリート杭

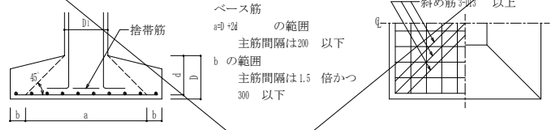
杭頭処理



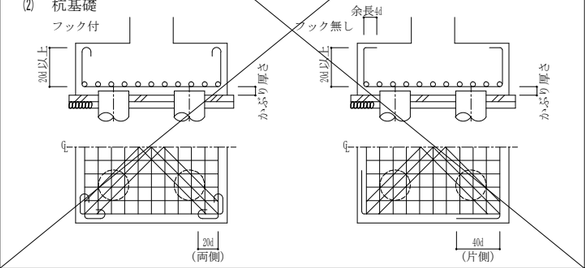


4. 基　礎

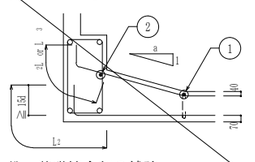
(1) 直接基礎



(2) 杭基礎

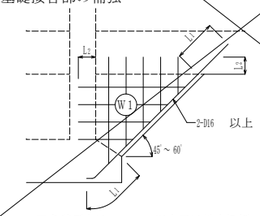


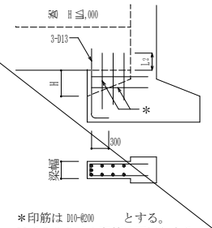
(3) べた基礎　ハンチを付けた場合（ａ≧３）



1. 耐圧板鉄筋の継手位置は床スラブにならう。
但し、上端筋と下端筋を読みかえる。
2. ①の鉄筋はスラブ主筋以上の径とする。
3. ②の鉄筋はＤ１３以上。
4. 埋戻し土のある場合は、上端筋のかぶり厚さ４０を７０とする。

(4) 基礎接合部の補強



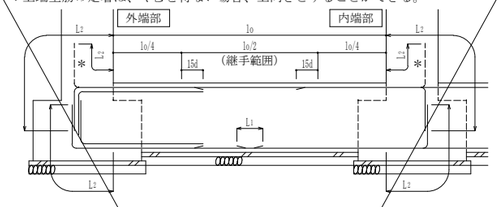


Ｗ１の三角壁厚さは、２００以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう。

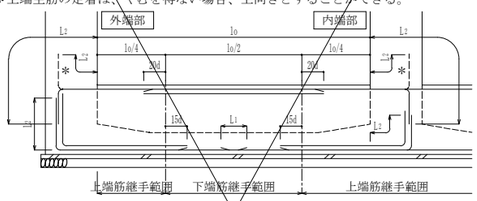
＊印筋は D10-@200　とする。
Ｈ≦５００は＊印筋は不用とする。

5. 地中梁

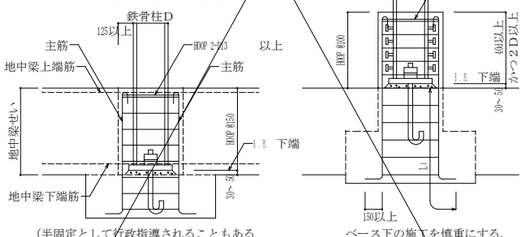
(1) 独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）
＊上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。



(2) 布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）
＊上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。



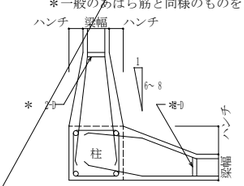
(3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋
地中梁の主筋、スタッドボルト（スタッドジベル）による、おさまりに注意する。



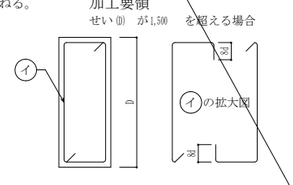
(半固定として行政指導されることもあるので留意すること。)

ベース下の施工を慎重にする。

(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領
＊一般のあばら筋と同様のものを２本束ねる。

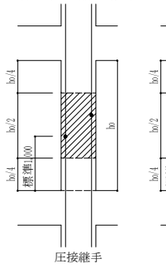


(5) せいの高い梁のあばら筋加工要領

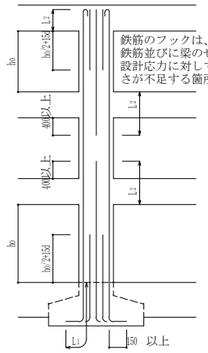


6. 柱

(1) 柱主筋の継手

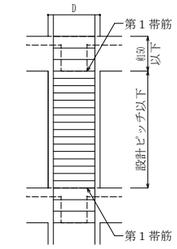


(2) 柱主筋の定着



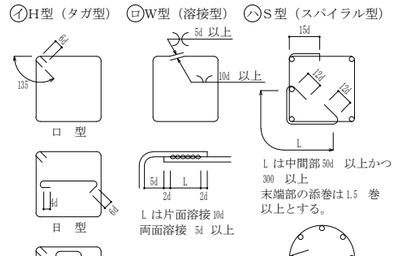
鉄筋のフックは、柱頭の四隅の鉄筋並びに梁のせいが小さく、設計応力に対して必要な定着長さが不足する箇所に付ける。

(3) 帯　筋



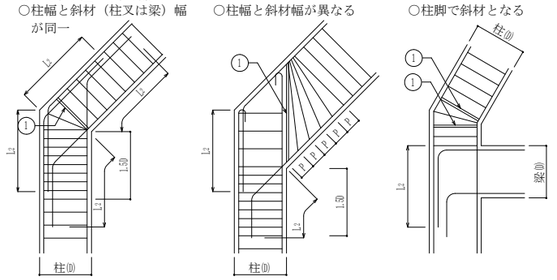
注1. 第１帯筋は梁面に入れる。
注2. W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける。
注3. フック及び継手の位置は交互とする。

(イ)H型（タガ型）　(ロ)W型（溶接型）　(ハ)S型（スパイラル型）



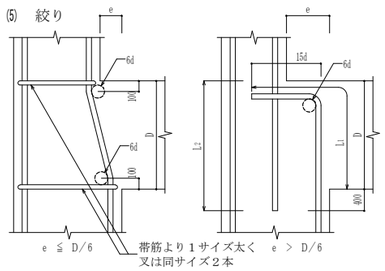
(4) 斜め柱・斜め梁

○柱幅と斜材（柱又は梁）幅が同一　○柱幅と斜材幅が異なる　○柱脚で斜材となる

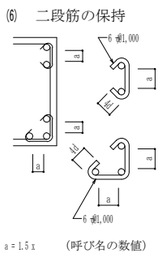


注1.　L3D の範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし　@100 以下とする。
注2.　⑩鉄筋は　2-D13 かつ、２本の一段太い鉄筋とする。

(5) 絞り



(6) 二段筋の保持



承認	製図	特記

株式会社 綜企画設計

東京学芸大学
財務施設部 施設課

課長	副課長	係長	主任

工事名称　東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事

図面内容　鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

縮尺　A1：-/--　A3：-/--

図面区分　建築構造

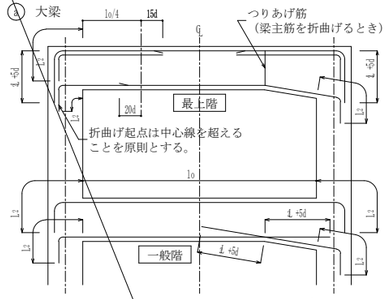
図面番号　S-02

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

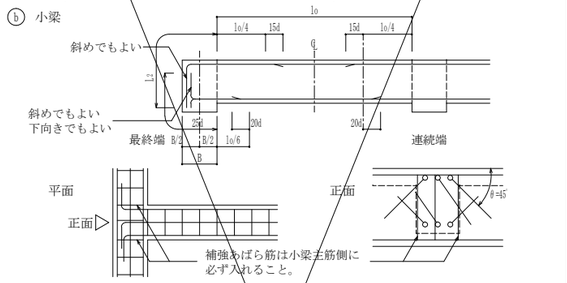
7. 大梁、小梁、片持梁

(1) 定　着

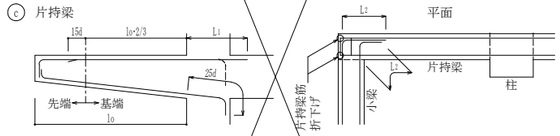
ⓐ 大梁



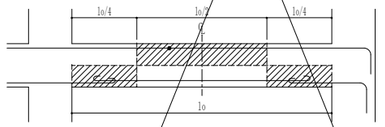
ⓑ 小梁



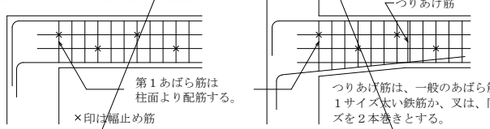
ⓒ 片持梁



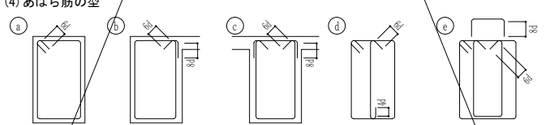
(2) 大梁主筋の継手



(3) あばら筋、腹筋、幅止め筋の配置



(4) あばら筋の型

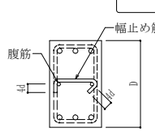


(f) 原則としてⓐのフックは先曲げとする。片側床板付（L型）梁でⓑ、両側床板付（T型）梁でⓒ又はⓑとすることができる。

(g) フックの位置はⓐにあっては交互、ⓑにあってはスラブ側とする。

(5) 腹筋及び幅止め筋の本数、加工

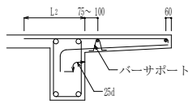
腹筋	D≦600	不要	
	600＜D≦1,200	2-D10(9φ)	1段
	600＜D≦1,200	4-D10(9φ)	2段
	1,200＜D	D10(9φ)@300	以内
幅止め筋	D10(9φ)@1,000	以内で割り付ける	



8. 床　板

(1) 定着および継手

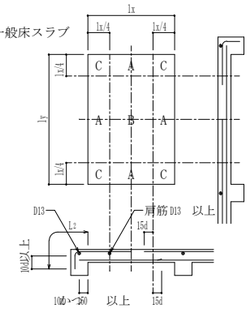
ⓐ 片持床スラブ



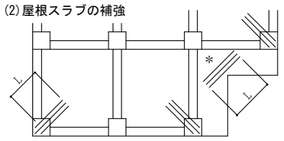
継手位置は原則として下表による。

		標準継手位置
上端筋	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A C

ⓑ 一般床スラブ



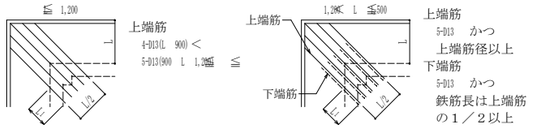
(2) 屋根スラブの補強



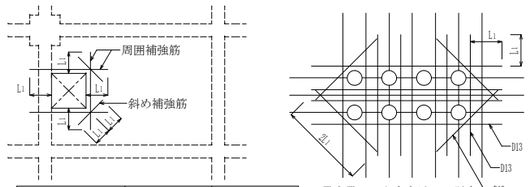
ⓒ 補強筋は各3-D13 、又はスラブ主筋の同一径でL=1,500 とし、上端筋の下に配筋する。

ⓑ ＊の箇所（入隅）は各階補強する。

(3) 片持スラブ出隅部補強



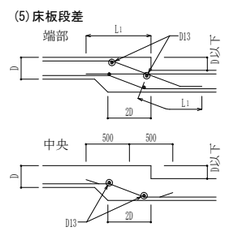
(4) 床板開口部の補強　（開口の径は５００程度の場合）

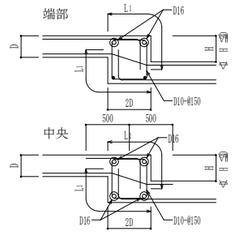


床板厚さD	周　囲	斜　め
D≦150	各 2-D13	各 1-D13
150＜D≦200	各 2-D13	各 2-D13
200＜D≦300	各 2-D19	各 2-D16

注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

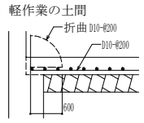
(5) 床板段差



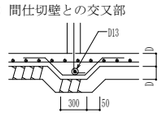


(6) 土間コンクリート

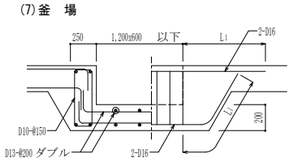
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交叉部



(7) 釜　場



(8) 打継ぎ補強　（ダメ穴打継面について）

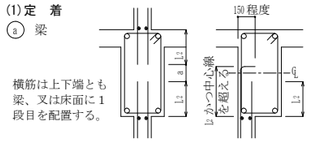
・設計配筋間隔の1/2 ピッチ　長さ2L₁ 以上

・無筋部分D10-@200 長さ800 以上

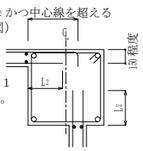
9. 壁

(1) 定　着

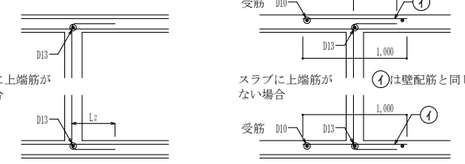
ⓐ 梁



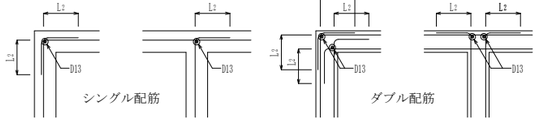
ⓑ 柱　（平面図）



ⓒ 床　（非耐力壁とスラブが取り合う場合）

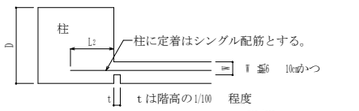


ⓓ 壁と壁　（平面図）



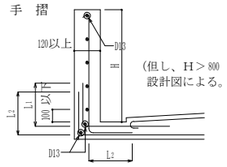
(2) スリット部　（設計図に記入のあるとき）

スリット部の鉄筋のかぶり厚さは、2.(4) かぶり厚さの表、最少かぶり厚さ以上とする。

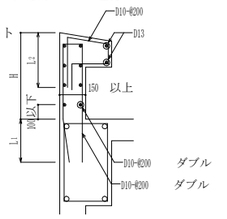


(3) 手摺、パラペット

手　摺

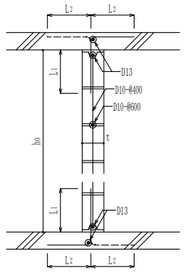


パラペット

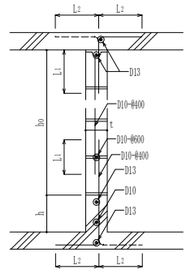


(4) コンクリートブロック帳壁

一般の場合



下部防水立上りのある場合



注）ho ≦ 25t かつ3,500 以下とする。但し、直交方向25t 以内に壁、又は柱がある場合は除く。

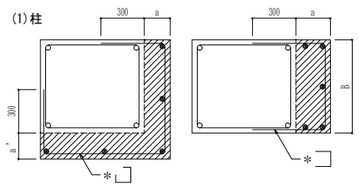
注）h はコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、200 ≦ h ≦ 400

注）継手部は必ずモルタルを充てんすること。

10. 柱、梁増打コンクリート補強

（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

(1) 柱



・a 及びa’は２００以下

・ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

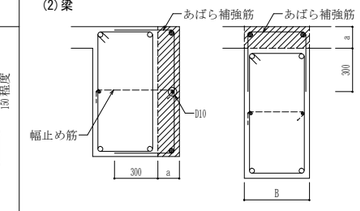
・＊は柱と同径、同ピッチとする。

・●は補強縦筋を示す。

・ハッチ部分の面積Acm² による補強縦筋

A ＜500	3-D16
500≦ A ＜1,000	4-D16
1,000≦ A ＜1,500	6-D16

(2) 梁



・●は補強筋を示す。

・補強筋は、梁主筋の１段落し径（D16 以上）とする。

・あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。

・腹筋D10 ピッチは、梁の腹筋と合せる。

・B ≧ 400 の場合は補強筋を３本とする。

・ａは１００～２００程度。

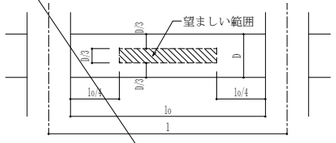
・梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。

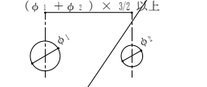
・ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

11. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

梁端部（スパン1/10 以内かつ2D 以内）は避ける。

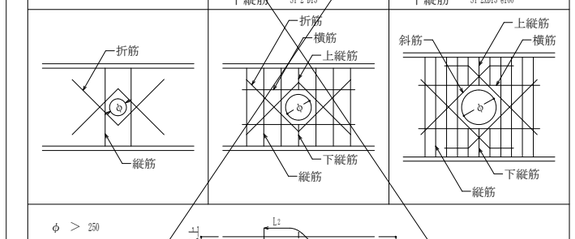




貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は、設計者又は工事監理者と打合せること。

(2) 鉄筋標準配筋　（但し、φ≦ D/3 とする。）

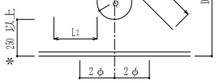
80 ≦ Iφ ≦	100 ＜ Iφ ≦	150 ＜ Iφ ≦
折　筋　2x(2-D13)	折　筋　2x(2-D13)	斜　筋　4x(2-D13)
縦　筋　ST 2xD13-@100	縦　筋　ST 2xD13-@100	縦　筋　ST 2xD13-@100
	横　筋　2x(2-D13)	横　筋　2x(2-D13)
	上縦筋　ST 2-D13	上縦筋　ST 2xD13-@100
	下縦筋　ST 2-D13	下縦筋　ST 2xD13-@100



φ ＞ 250

孔補強の有効範囲と定着長さのとり方

＊部分について計算で確認された場合は右記の位置、寸法によらなくて良い。



・梁幅が400 を超える場合は、補強筋でD13 はD16 又は、2-D13 は3-D13 と各々読みかえる。

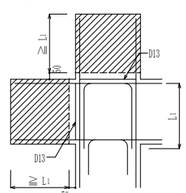
(3) 既製品　（使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

☐ リング型　☐ パイプ型　☐ 金網型　☐ プレート型

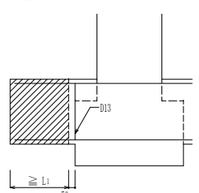
12. 増築予定

（将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する。）

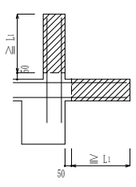
(1) 柱、梁



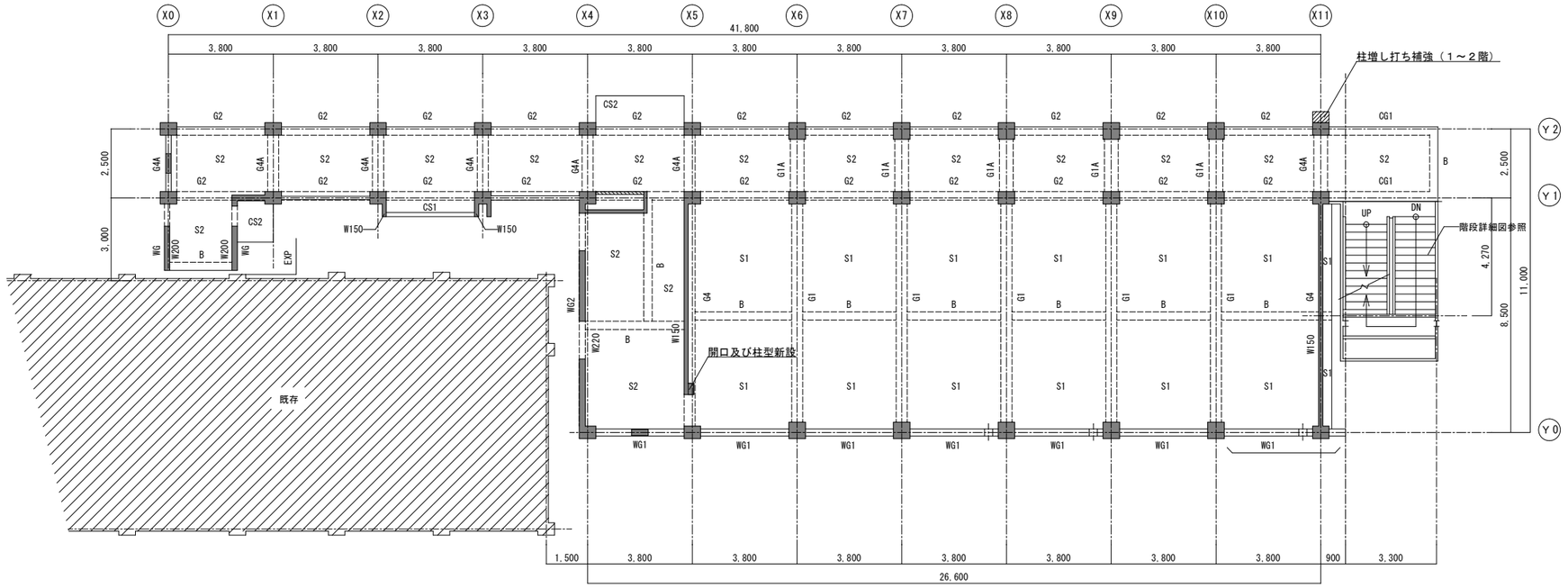
(2) 地中梁



(3) 床板、壁

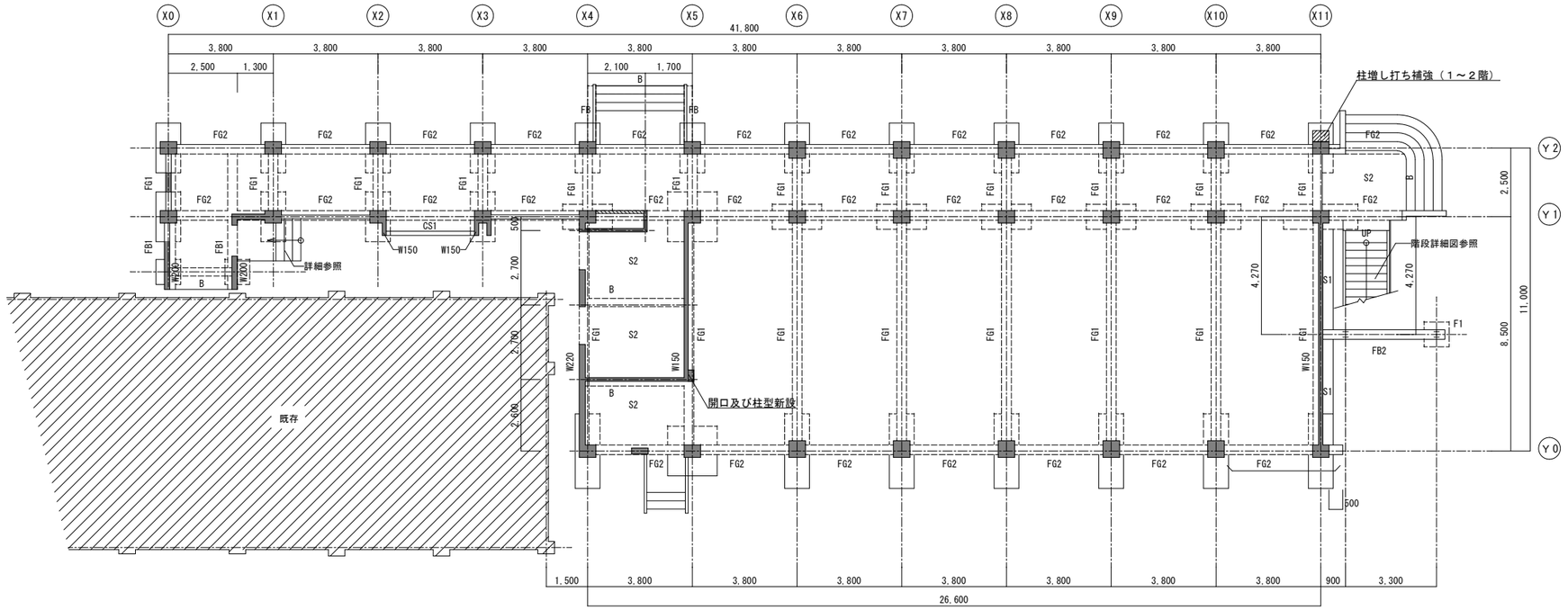


株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）	縮尺 A1：-/-- A3：-/--	図面区分 建築構造 / 図面番号 S-03



2階床伏図　1/100

特記なき改修は下記による
1. Y1通りX5～X11間のフレーム内壁（W120）撤去　W120の縦横筋共D10-@200（シングル）
2. Y0～Y1間、X4～X5間の便所内壁（W120）撤去
3. X7通りY0～Y1間のフレーム内壁（W120）撤去

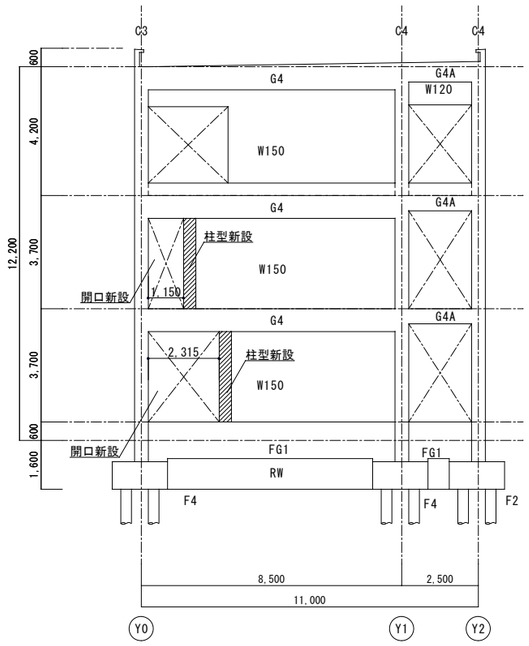


1階床伏図　1/100

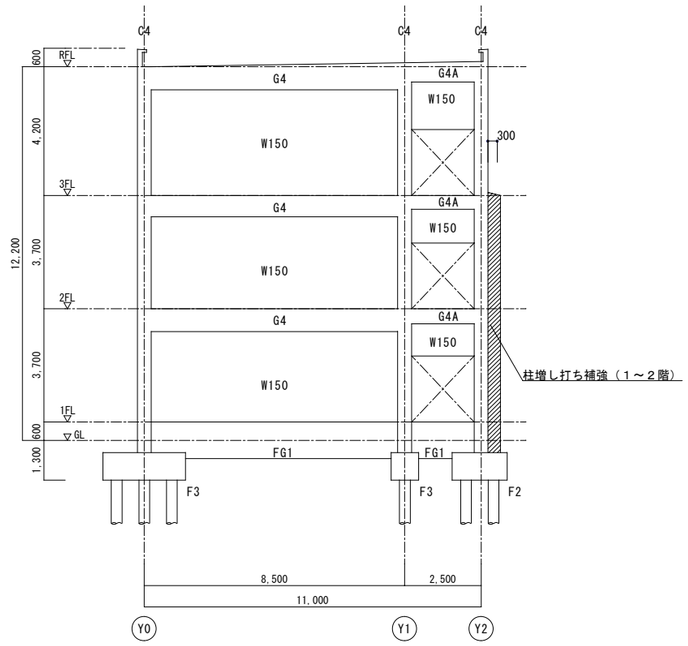
特記なき改修は下記による
1. Y1通りX5～X11間のフレーム内壁（W120）撤去　W120の縦横筋共D10-@200（シングル）
2. Y0～Y1間、X4～X5間の便所内壁（W120）撤去
3. X8、X9通りY0～Y1間のフレーム内壁（W120）撤去

特記なき限り　外壁W150内壁W120(各階共通)
土間配筋 D10@300 タテ.ヨコ
設備スリーブ開口補強　300φ1ヶ所　250φ2ヶ所(2階)

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容 補強伏図（１、２階）	縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図面区分 建築構造 / 図面番号 S-04

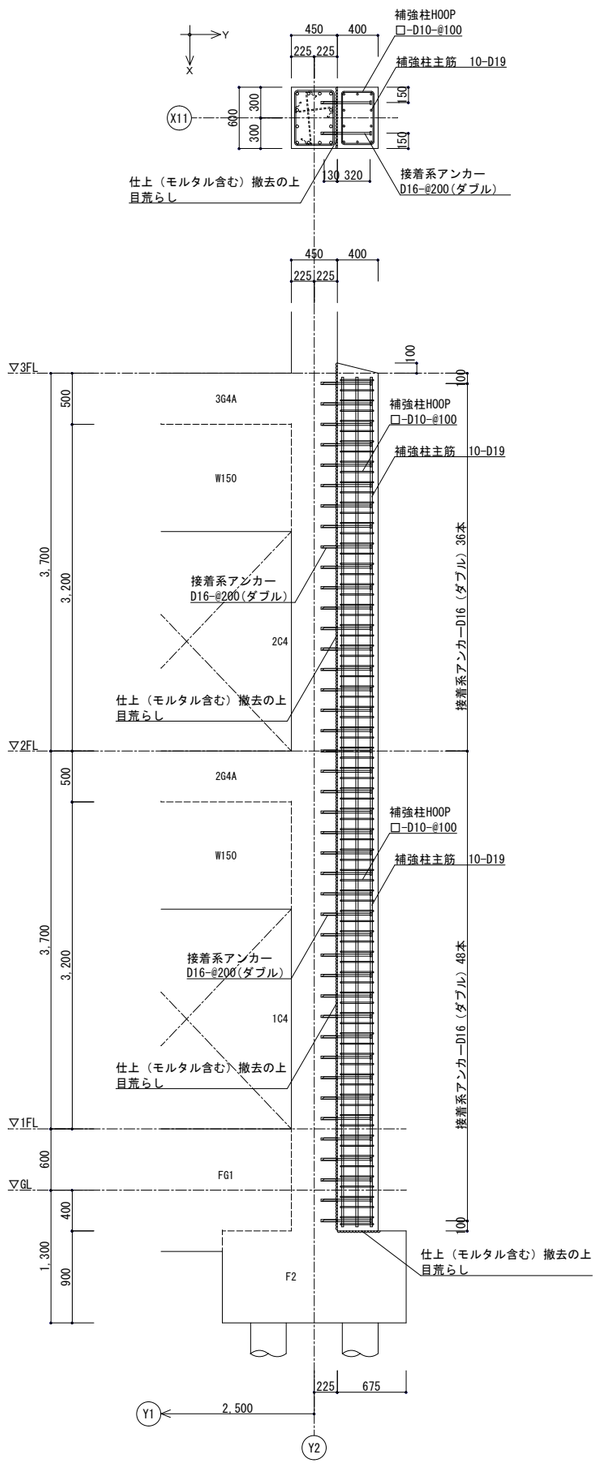


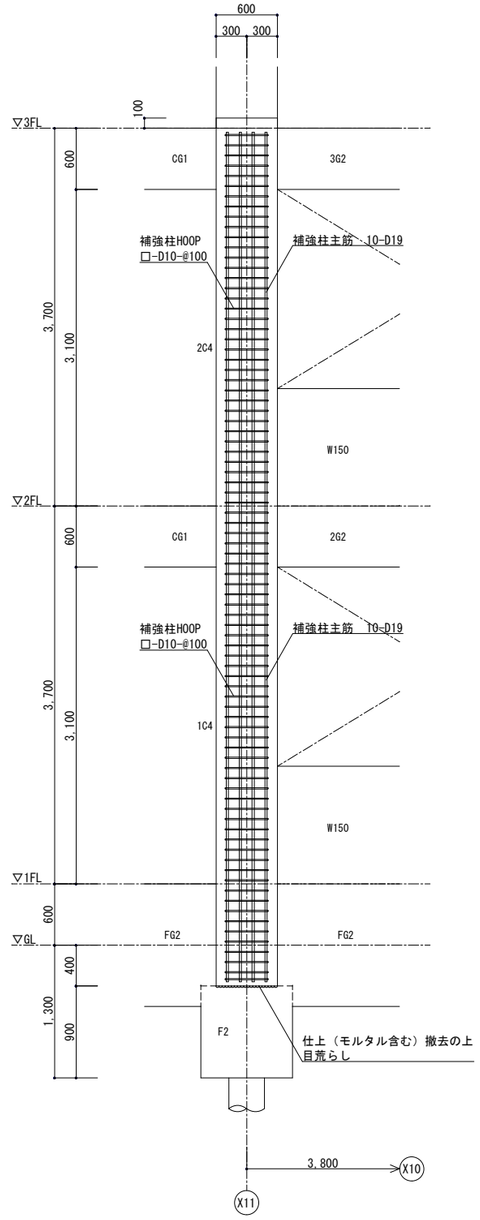
X5 通り軸組図 1/100



X11 通り軸組図 1/100

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称 東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事 図面内容 補強軸組図	縮尺 A1：1/100 A3：1/200	図面区分 建築構造 図面番号 S-05



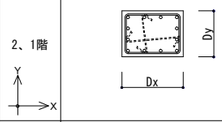


使用材料		
コンクリート	普通コンクリート	Fc=27N/mm²
鉄　筋	鉄　筋	D19:SD345
		D10:SD295A
	アンカー筋	D16:SD295A

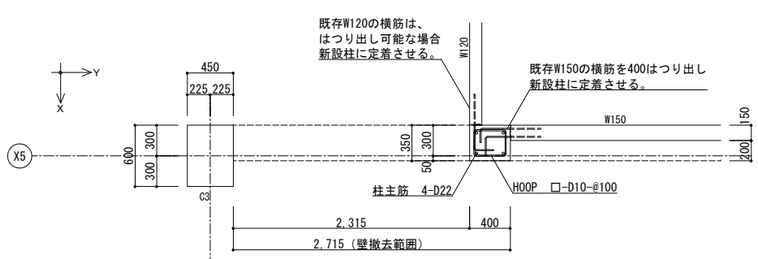
特記事項

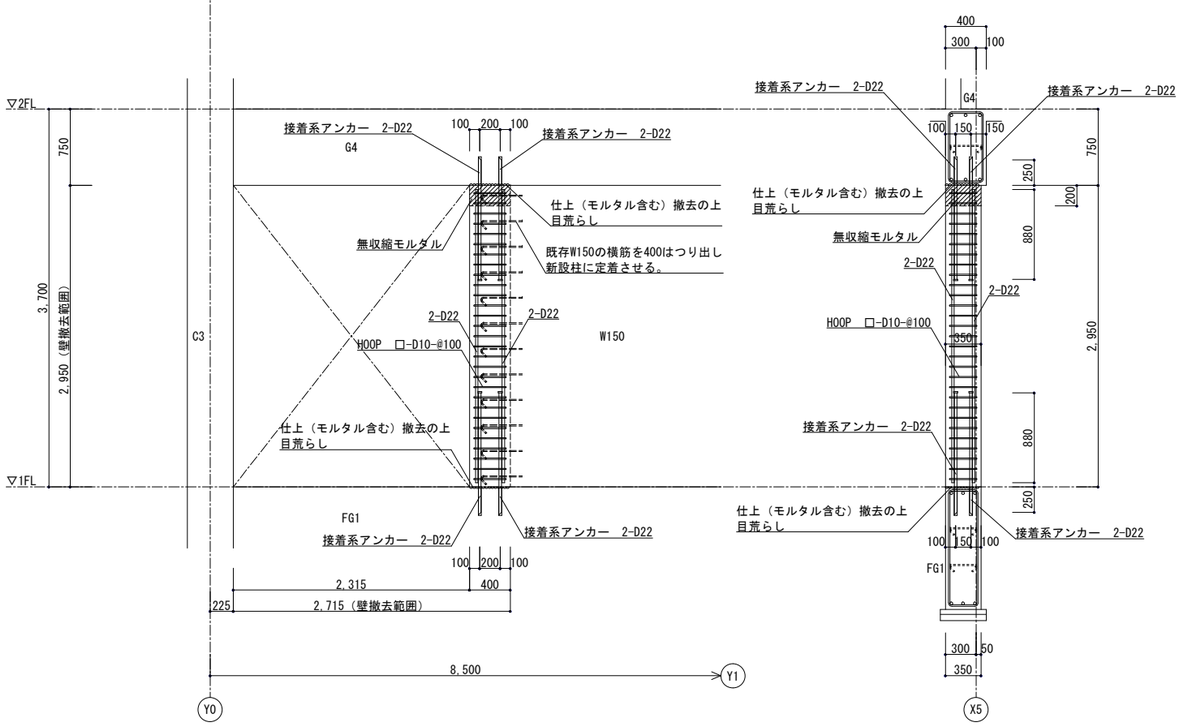
1. 柱の主筋及びせん断補強筋は事前調査で、位置を確認すること。

（既存）柱リスト　S=1/30　　特記なき限り下記による
1.D.HOOP　□-D10-@800

符　号	C4	
2、1階		
Dx×Dy	600×450	
主　筋	12-D25	
HOOP	□-D13-@100（スパイラル）	

株式会社 綜企画設計	承認	製図	特　記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容	補強詳細図-1（柱増し打ち補強）	縮尺 A1：1/30 A3：1/60	図面区分 建築構造 / 図面番号 S-06





使用材料		
コンクリート	普通コンクリート	Fc=27N/mm^2
モルタル	無収縮モルタル	Fc=30N/mm^2
鉄　筋	鉄　筋	D10:SD295A
		D22:SD345
	アンカー筋	D22:SD345

特記事項

1. 梁の主筋及びせん断補強筋は事前調査で、位置を確認すること。
2. アンカー施工時に梁の設備用貫通孔及びスリーブ等の位置を確認する事。

（既存）壁リスト　S=1/30

符　号	W150	W120
断　面	150	120
縦　筋	D10-@250（チドリ）	D10-@200（シングル）
横　筋	D10-@250（チドリ）	D10-@200（シングル）
幅止め筋	－	－

（既存）柱リスト　S=1/30　　特記なき限り下記による
1.D.HOOP　□-D10-@800

符　号	C3	C4
1　階	Dx, Dy	
Dx×Dy	600×450	600×450
主　筋	14-D25	12-D25
HOOP	□-D13-@100（スパイラル）	□-D13-@100（スパイラル）

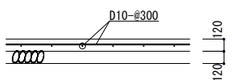
（既存）大梁リスト　S=1/30　　特記なき限り下記による
1.腹筋　2-D10
2.幅止め筋　D10-@800

符　号	G4		
位　置	Y0　端	中　央	Y1　端
2　階	D, b		
b×D	400×750		
上端筋	5-D25	3-D25	4-D25
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25
S.T.P	□-D13-@200		

（既存）基礎梁リスト　S=1/30　　特記なき限り下記による
1.腹筋　4-D10
2.幅止め筋　D10-@800

符　号	FG1		
位　置	全断面		
断　面	D, b		
b×D	350×1,200		
上端筋	5-D25		
下端筋	5-D25		
S.T.P	□-D13-@200		

（既存）土間コンクリート　S=1/30



株式会社 綜企画設計	承認	製図	特記	東京学芸大学 財務施設部 施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
									図面内容	補強詳細図-2（X5通り1階壁開口及び柱新設）	縮尺 A1：1/30 A3：1/60	図面区分 建築構造 / 図面番号 S-07

使用材料		
コンクリート	普通コンクリート	Fc=27N/mm²
モルタル	無収縮モルタル	Fc=30N/mm²
鉄　筋	鉄　筋	D10:SD295A
		D22:SD345
	アンカー筋	D22:SD345

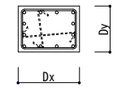
特記事項

1. 梁の主筋及びせん断補強筋は事前調査で、位置を確認すること。
2. アンカー施工時に梁の設備用貫通孔及びスリーブ等の位置を確認する事。

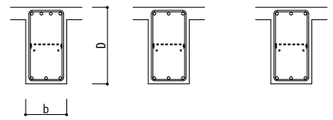
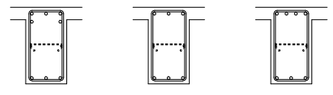
（既存）壁リスト　S=1/30

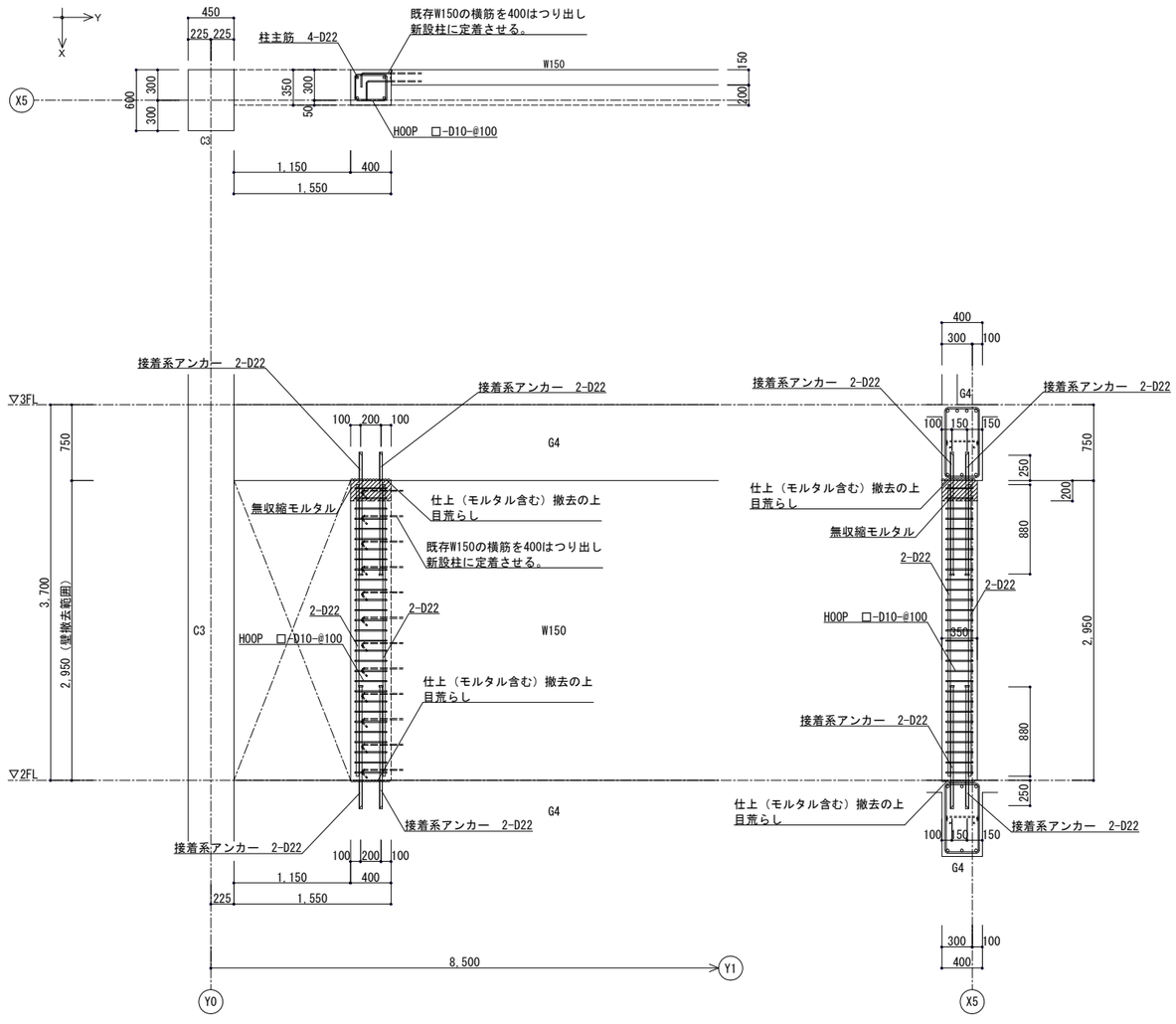
符　号	W150	
断　面		
縦　筋	D10-@250（チドリ）	
横　筋	D10-@250（チドリ）	
幅止め筋	ー	

（既存）柱リスト　S=1/30　　特記なき限り下記による
1.D.HOOP　□-D10-@800

符　号	C3	C4
2　階		
Dx×Dy	600×450	600×450
主　筋	12-D25	12-D25
HOOP	□-D13-@100（スパイラル）	□-D13-@100（スパイラル）

（既存）大梁リスト　S=1/30　　特記なき限り下記による
1.腹筋　2-D10
2.幅止め筋　D10-@800

符　号	G4		
位　置	Y0　端	中　央	Y1　端
3　階			
b×D	400×750		
上端筋	4-D25	3-D25	3-D25
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25
S.T.P	□-D13-@200		
2　階			
b×D	400×750		
上端筋	5-D25	3-D25	4-D25
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25
S.T.P	□-D13-@200		



承認	製図	特　記	東京学芸大学 財務施設部　施設課	課長	副課長	係長	主任	工事名称	東京学芸大学附属大泉小学校特別教室南棟改修工事		
								図面内容	補強詳細図-3（X5通り2階壁開口及び柱新設）	縮尺 A1：1/30 A3：1/60	図面区分　建築構造 図面番号　S-08

株式会社　綜企画設計